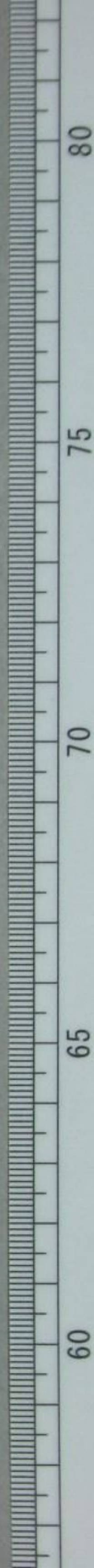


倭年代記

上

923
1



伊弉 923 卷 1



新補倭年代皇紀繪章卷之一

○天神七代

天 國常立尊

天地いまの世に陰陽ありて時
 渾沌ありて鶏子の如く溟涬あり
 まつありその清陽ありとのの薄塵と天とあり重濁
 とりの淹滞して地とあり天地をてたつてその申はめ
 わるるこら葦草をたれどをわら化して神とあり是
 と云登川をたつてやまの日本と葦草原をたつてといふ
 江列日言二のまの社に御神あり

和の人の始に國常立尊ありて天神地神天皇とてはく
 漢人の始に盤石氏ありて二皇五帝とてはく

天 國常立尊

陽神之水使とありて百億万葉
 日言八王子の社に御神あり



豊斟淳尊
陽神あり天徳よりひてまらる百億万衆
江列日吉の天乃所神神あり

泥土煮尊
泥者其の陽神也海列月夜の神神并
泥者其の法神也度列并流の神神并

沙土煮尊
二神其徳よりひてまらる二百億万衆

大戸道尊
大戸の天の陽神也或曰天の所神并
大戸の天の法神也或曰天の所神并

面足尊
二神其徳よりひてまらる二百億万衆

惶根尊
西皇の陽神也或曰天の所神并
惶根の法神也或曰天の所神并

伊弉諾尊
二神其徳よりひてまらる二百億万衆

伊弉册尊
二神其徳よりひてまらる二百億万衆

○地神五代

天照大神
北五萬衆○二万五千二百年の漢の
天皇氏の元年辛丑よわらる○四万

忍穗耳尊
九子五十三年の漢の地皇氏の元年辛丑よわらる○六万
七千五十二年の漢の天皇氏れ元年辛丑にわらる

瓊瓊杵尊
此方衆○十二万六千二百九十二年の
漢の提提紀の元年辛丑よわらる

彦火火出見尊
亦一万衆○四十九万四千五百二年の
漢の合統紀の元年巳卯よわらる

鸕鷀草葺不合尊
百二十万の漢の連通紀を以辛酉當
百二十万の漢の連通紀を以辛酉當

義の元年乙亥よわらる○八十二万五千四百八十四年の漢

義の元年乙亥よわらる○八十二万五千四百八十四年の漢

そこのはの...
 天...
 神...



年...
 一

戊午五十八年 緒...
 降... 己未五十九年 庚申六十年 辛酉六十一年
 甲子六十四年 乙丑六十五年 丙寅六十六年 丁卯六十七年
 戊辰六十八年 己巳六十九年 庚午七十年 辛未七十一年
 壬申七十二年 癸酉七十三年 甲戌七十四年 乙亥七十五年
 丙子七十六年 丁丑七十七年 戊寅七十八年
 己卯七十九年 庚辰八十年 辛巳八十一年 壬午八十二年
 癸未八十四年 甲申八十五年 乙酉八十六年 丙戌八十七年
 丁亥八十八年

履辰
 代
 綏靖天皇

天皇...
 神...
 神武...

貴の神の孫...
 兄と手研耳命...
 弟...
 弟...

湯度支命 執政

甲申五年
 乙酉六年
 丙戌七年
 丁亥八年

乙未の年...
 丙申の年...
 丁酉の年...
 戊戌の年...
 己亥の年...
 庚子の年...
 辛丑の年...
 壬寅の年...
 癸卯の年...
 甲辰の年...
 乙巳の年...
 丙午の年...
 丁未の年...
 戊申の年...
 己酉の年...
 庚戌の年...
 辛亥の年...
 壬子の年...
 癸丑の年...
 甲寅の年...
 乙卯の年...
 丙辰の年...
 丁巳の年...
 戊午の年...
 己未の年...
 庚申の年...
 辛酉の年...
 壬戌の年...
 癸亥の年...



乙未の年 庚子十二年 辛卯十三年
 丙申十七年 丁酉十八年 戊戌十九年
 己亥二十年 庚子二十一年 辛丑二十二年
 壬寅二十三年 癸卯二十四年 甲辰二十五年
 乙巳二十六年 丙午二十七年 丁未二十八年
 戊申二十九年 己酉三十年 庚戌三十一年
 辛亥三十二年 壬子三十三年 癸丑三十三年
 甲寅三十四年 乙卯三十五年 丙辰三十六年
 丁巳三十七年 戊午三十八年 己未三十九年
 庚申四十年 辛酉四十一年 壬戌四十二年
 癸亥四十三年 甲子四十四年 乙丑四十五年
 丙寅四十六年 丁卯四十七年 戊辰四十八年
 己巳四十九年 庚午五十年 辛未五十一年
 壬申五十二年 癸酉五十三年 甲戌五十四年
 乙亥五十五年 丙子五十六年 丁丑五十七年
 戊寅五十八年 己卯五十九年 庚辰六十年
 辛巳六十一年 壬午六十二年 癸未六十三年
 甲申六十四年 乙酉六十五年 丙戌六十六年
 丁亥六十七年 戊子六十八年 己丑六十九年
 庚寅七十年 辛卯七十一年 壬辰七十二年
 癸巳七十三年 甲午七十四年 乙未七十五年
 丙申七十六年 丁酉七十七年 戊戌七十八年
 己亥七十九年 庚子八十年 辛丑八十一年
 壬寅八十二年 癸卯八十三年 甲辰八十四年
 乙巳八十五年 丙午八十六年 丁未八十七年
 戊申八十八年 己酉八十九年 庚戌九十年
 辛亥九十一年 壬子九十二年 癸丑九十三年
 甲寅九十四年 乙卯九十五年 丙辰九十六年
 丁巳九十七年 戊午九十八年 己未九十九年
 庚申一百年

癸丑

三

安寧天皇

諱曰磯城津彦王
 乙未の年...
 丙申の年...
 丁酉の年...
 戊戌の年...
 己亥の年...
 庚子の年...
 辛丑の年...
 壬寅の年...
 癸卯の年...
 甲辰の年...
 乙巳の年...
 丙午の年...
 丁未の年...
 戊申の年...
 己酉の年...
 庚戌の年...
 辛亥の年...
 壬子の年...
 癸丑の年...
 甲寅の年...
 乙卯の年...
 丙辰の年...
 丁巳の年...
 戊午の年...
 己未の年...
 庚申の年...
 辛酉の年...
 壬戌の年...
 癸亥の年...

五十鈴依姫より事代主の神より小女あり十一歳
 て太子とわたり二十歳小くくつるのまほさるるを位元
 年淳亮のまほしきなり

出雲色命

執政

乙未の年...
 丙申の年...
 丁酉の年...
 戊戌の年...
 己亥の年...
 庚子の年...
 辛丑の年...
 壬寅の年...
 癸卯の年...
 甲辰の年...
 乙巳の年...
 丙午の年...
 丁未の年...
 戊申の年...
 己酉の年...
 庚戌の年...
 辛亥の年...
 壬子の年...
 癸丑の年...
 甲寅の年...
 乙卯の年...
 丙辰の年...
 丁巳の年...
 戊午の年...
 己未の年...
 庚申の年...
 辛酉の年...
 壬戌の年...
 癸亥の年...

乙未の年...
 丙申の年...
 丁酉の年...
 戊戌の年...
 己亥の年...
 庚子の年...
 辛丑の年...
 壬寅の年...
 癸卯の年...
 甲辰の年...
 乙巳の年...
 丙午の年...
 丁未の年...
 戊申の年...
 己酉の年...
 庚戌の年...
 辛亥の年...
 壬子の年...
 癸丑の年...
 甲寅の年...
 乙卯の年...
 丙辰の年...
 丁巳の年...
 戊午の年...
 己未の年...
 庚申の年...
 辛酉の年...
 壬戌の年...
 癸亥の年...

乙未

乙未

天照太神



天照太神の御尊
天照太神の御尊は
天照太神の御尊は
天照太神の御尊は
天照太神の御尊は
天照太神の御尊は
天照太神の御尊は
天照太神の御尊は
天照太神の御尊は
天照太神の御尊は

八坂の御尊



八坂の御尊

天照太神の御尊
天照太神の御尊は
天照太神の御尊は
天照太神の御尊は
天照太神の御尊は
天照太神の御尊は
天照太神の御尊は
天照太神の御尊は
天照太神の御尊は
天照太神の御尊は

八坂の御尊



天照太神の御尊
天照太神の御尊は
天照太神の御尊は
天照太神の御尊は
天照太神の御尊は
天照太神の御尊は
天照太神の御尊は
天照太神の御尊は
天照太神の御尊は
天照太神の御尊は

和友の御尊

甲子十二年	乙丑十三年	丙寅十四年	丁卯十五年	戊辰十六年	己巳十七年	庚午十八年	辛未十九年	壬申二十年	癸酉二十一年	甲戌二十二年	乙亥二十三年	丙子二十四年	丁丑二十五年	戊寅二十六年	己卯二十七年	庚辰二十八年	辛巳二十九年	壬午三十年	癸未三十一年	甲申三十二年	乙酉三十三年	丙戌三十四年	丁亥三十五年	戊子三十六年	己丑三十七年	庚寅三十八年	辛卯三十九年	壬辰四十年	癸巳四十一年	甲午四十二年	乙未四十三年	丙申四十四年	丁酉四十五年	戊戌四十六年	己亥四十七年	庚子四十八年	辛丑四十九年	壬寅五十年	癸卯五十一年	甲辰五十二年	乙巳五十三年	丙午五十四年	丁未五十五年	戊申五十六年	己酉五十七年	庚戌五十八年	辛亥五十九年	壬子六十年	癸丑六十一年	甲寅六十二年	乙卯六十三年	丙辰六十四年	丁巳六十五年	戊午六十六年	己未六十七年	庚申六十八年	辛酉六十九年	壬戌七十年	癸亥七十一年	甲子七十二年	乙丑七十三年	丙寅七十四年	丁卯七十五年	戊辰七十六年	己巳七十七年	庚午七十八年	辛未七十九年	壬申八十年	癸酉八十一年	甲戌八十二年	乙亥八十三年	丙子八十四年	丁丑八十五年	戊寅八十六年	己卯八十七年	庚辰八十八年	辛巳八十九年	壬午九十年	癸未九十一年	甲申九十二年	乙酉九十三年	丙戌九十四年	丁亥九十五年	戊子九十六年	己丑九十七年	庚寅九十八年	辛卯九十九年	壬辰一百年
-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	-------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	-------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	-------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	-------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	-------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	-------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	-------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	-------

甲子十二年 乙丑十三年 丙寅十四年 丁卯十五年 戊辰十六年 己巳十七年 庚午十八年 辛未十九年 壬申二十年 癸酉二十一年 甲戌二十二年 乙亥二十三年 丙子二十四年 丁丑二十五年 戊寅二十六年 己卯二十七年 庚辰二十八年 辛巳二十九年 壬午三十年 癸未三十一年 甲申三十二年 乙酉三十三年 丙戌三十四年 丁亥三十五年 戊子三十六年 己丑三十七年 庚寅三十八年 辛卯三十九年 壬辰四十年 癸巳四十一年 甲午四十二年 乙未四十三年 丙申四十四年 丁酉四十五年 戊戌四十六年 己亥四十七年 庚子四十八年 辛丑四十九年 壬寅五十年 癸卯五十一年 甲辰五十二年 乙巳五十三年 丙午五十四年 丁未五十五年 戊申五十六年 己酉五十七年 庚戌五十八年 辛亥五十九年 壬子六十年 癸丑六十一年 甲寅六十二年 乙卯六十三年 丙辰六十四年 丁巳六十五年 戊午六十六年 己未六十七年 庚申六十八年 辛酉六十九年 壬戌七十年 癸亥七十一年 甲子七十二年 乙丑七十三年 丙寅七十四年 丁卯七十五年 戊辰七十六年 己巳七十七年 庚午七十八年 辛未七十九年 壬申八十年 癸酉八十一年 甲戌八十二年 乙亥八十三年 丙子八十四年 丁丑八十五年 戊寅八十六年 己卯八十七年 庚辰八十八年 辛巳八十九年 壬午九十年 癸未九十一年 甲申九十二年 乙酉九十三年 丙戌九十四年 丁亥九十五年 戊子九十六年 己丑九十七年 庚寅九十八年 辛卯九十九年 壬辰一百年

懿德天皇

出雲色命 執政

即人皇の物と百五十二年必周敬王の十年次わら
 前之緑三年庚午は二子二百年にあり
 二月五日都を輕地よりつて曲峽定ていふ
 二月息石耳の命いひその天豊津姫と辰よ
 癸巳二年 甲午四年 乙未五年 丙申六年 丁酉七年 戊戌八年 己亥九年 庚子十年 辛丑十一年 壬寅十二年 癸卯十三年 甲辰十四年 乙巳十五年 丙午十六年 丁未十七年 戊申十八年 己酉十九年 庚戌二十年 辛亥二十一年 壬子二十二年 癸丑二十三年 甲寅二十四年 乙卯二十五年 丙辰二十六年 丁巳二十七年 戊午二十八年 己未二十九年 庚申三十年 辛酉三十一年 壬戌三十二年 癸亥三十三年 甲子三十四年 乙丑三十五年 丙寅三十六年 丁卯三十七年 戊辰三十八年 己巳三十九年 庚午四十年 辛未四十一年 壬申四十二年 癸酉四十三年 甲戌四十四年 乙亥四十五年 丙子四十六年 丁丑四十七年 戊寅四十八年 己卯四十九年 庚辰五十年 辛巳五十一年 壬午五十二年 癸未五十三年 甲申五十四年 乙酉五十五年 丙戌五十六年 丁亥五十七年 戊子五十八年 己丑五十九年 庚寅六十年 辛卯六十一年 壬辰六十二年 癸巳六十三年 甲午六十四年 乙未六十五年 丙申六十六年 丁酉六十七年 戊戌六十八年 己亥六十九年 庚子七十年 辛丑七十一年 壬寅七十二年 癸卯七十三年 甲辰七十四年 乙巳七十五年 丙午七十六年 丁未七十七年 戊申七十八年 己酉七十九年 庚戌八十年 辛亥八十一年 壬子八十二年 癸丑八十三年 甲寅八十四年 乙卯八十五年 丙辰八十六年 丁巳八十七年 戊午八十八年 己未八十九年 庚申九十年 辛酉九十一年 壬戌九十二年 癸亥九十三年 甲子九十四年 乙丑九十五年 丙寅九十六年 丁卯九十七年 戊辰九十八年 己巳九十九年 庚午一百年



安寧天皇

武徳天皇

年... (Marginal note on the right side)

天... (Year entry: 天... 己丑十九年)

庚寅廿年

辛卯廿一年

壬辰廿二年 癸巳廿三年

甲午廿四年

乙未廿五年

丙申廿六年 丁酉廿七年

戊戌廿八年

己亥廿九年

庚子卅一年 辛丑卅二年

壬寅卅三年

癸卯卅四年

甲辰卅四年 乙巳卅五年

丙午卅六年

丁未卅七年

戊申卅八年 己酉卅九年

庚戌卅九年

辛亥卅十一年

壬子... (Year entry: 壬子... 壬子卅二年)

壬子卅二年

癸丑卅三年

甲寅卅三年 乙卯卅四年

丙辰卅五年

丁巳卅七年

戊午卅八年 己未卅九年

庚申卅九年

辛酉卅十一年

壬戌五十二年 癸亥五十二年

甲子五十四年

乙丑五十五年

丙寅五十六年 丁卯五十七年

戊辰五十八年

己巳五十九年

庚午六十年 辛未六十一年

壬申六十二年

癸酉六十二年

甲戌六十四年 乙亥六十五年

丙子六十六年

丁丑六十七年

戊寅六十八年 己卯六十九年

庚辰七十年

辛巳七十二年

壬午七十二年 秦の徐福... (Year entry: 壬午七十二年 秦の徐福...)

壬午七十二年

壬午七十二年

... (Year entry: ...)

...

...

癸未七十二年 甲申七十四年

乙酉七十五年

丙戌七十六年

二月八日孝靈天皇... (Year entry: 二月八日孝靈天皇...)

...

...

丁亥

元年

孝元天皇

...

母の細姫命... (Year entry: 母の細姫命...)

...

...

十九... (Year entry: 十九...)

...

...

乙十七年境原... (Year entry: 乙十七年境原...)

...

...

臣 辭色雄命 (臣 辭色雄命)

執政

即人皇の始... (Year entry: 即人皇の始...)

...

...

崩之祿... (Year entry: 崩之祿...)

...

...

孝順天皇



金十言卷一

正月十四日孝順天皇の皇子位すつとまふ

己丑二年 庚寅四年 二月十一日部を輕の地より

アノ境原の美ノノノ 辛卯五年 以大神をわ

つゝまよわまのり吾道のまよとて鎮坐す

ゆか雄命戸隱山よりつりつり岩わみとて

鎮坐すま 壬辰六年 九月六日孝靈天皇を片忠

のち坂のえりは葬ふ 癸巳七年 二月二日虛色

雄命のいと虚色女の命とて皇太后を稚日

本根子度大日日のとてとて皇太后を稚日

とて 甲午八年 乙未九年 丙申十年

丁酉十一年 戊戌十二年 己亥十三年

辛丑十五年 壬寅十六年 甲辰十八年

癸卯十七年 甲辰十八年 乙巳十九年

庚戌廿四年 乙酉廿五年 丙戌廿六年

庚戌廿四年 乙酉廿五年 丙戌廿六年

庚戌廿四年 乙酉廿五年 丙戌廿六年

庚戌廿四年 乙酉廿五年 丙戌廿六年

庚戌廿四年 乙酉廿五年 丙戌廿六年

庚戌廿四年 乙酉廿五年 丙戌廿六年

庚戌廿四年 乙酉廿五年 丙戌廿六年

庚戌廿四年 乙酉廿五年 丙戌廿六年

庚戌廿四年 乙酉廿五年 丙戌廿六年

庚戌廿四年 乙酉廿五年 丙戌廿六年

庚戌廿四年 乙酉廿五年 丙戌廿六年

庚戌廿四年 乙酉廿五年 丙戌廿六年

開化天皇

諱曰稚日本根子度大日日の

甲申

そのといふ孝天皇を此の

くめ山



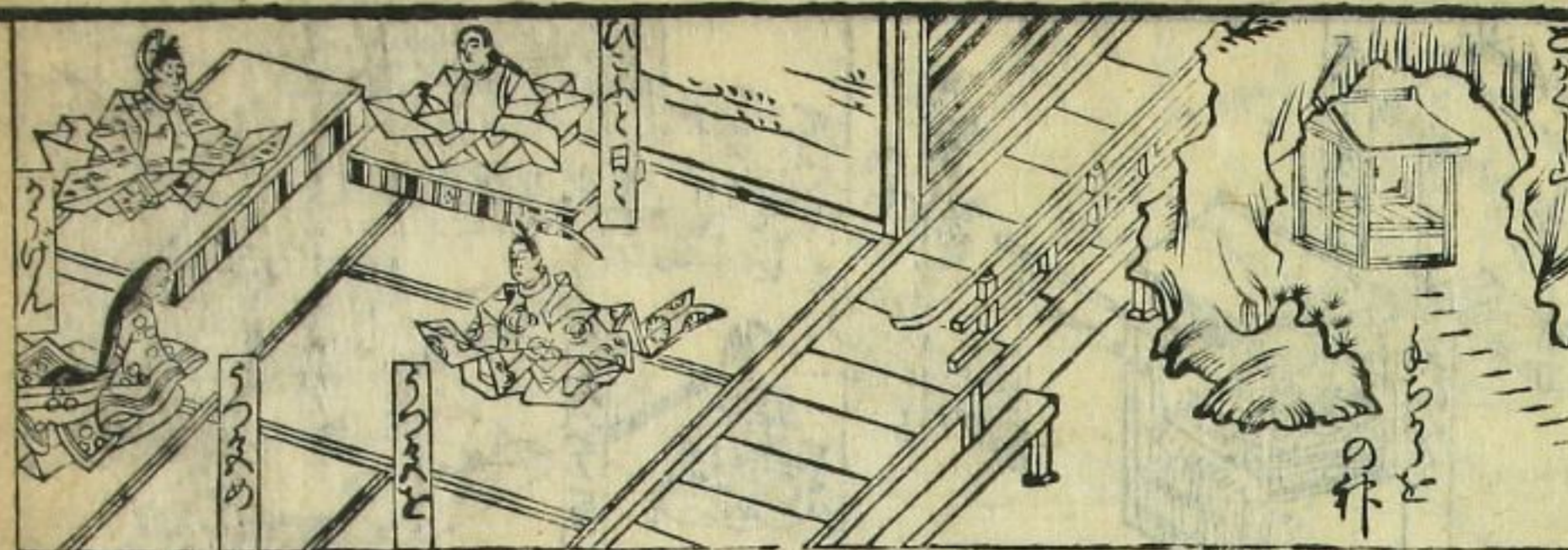
日本国

孔子の書

ついで

日か

孝天皇



乙亥辛二年 丙子辛三年 丁丑辛四年 戊寅辛五年

己卯辛六年 庚辰辛七年 辛巳辛八年 壬午辛九年

癸未辛十年 甲申辛十一年 乙酉辛十二年 丙戌辛十三年

丁亥辛十四年 戊子辛十五年 己丑辛十六年 庚寅辛十七年

辛卯辛十八年 壬辰辛十九年 癸巳辛二十年 甲午辛二十一年

乙未辛二十二年 丙申辛二十三年 丁酉辛二十四年 戊戌辛二十五年

己亥辛二十六年 庚子辛二十七年 辛丑辛二十八年 壬寅辛二十九年

癸卯辛三十年 甲辰辛三十一年 乙巳辛三十二年 丙午辛三十三年

丁未辛三十四年 戊申辛三十五年 己酉辛三十六年 庚戌辛三十七年

辛亥辛三十八年 壬子辛三十九年 癸丑辛四十年 甲寅辛四十一年

乙卯辛四十二年 丙辰辛四十三年 丁巳辛四十四年 戊午辛四十五年

己酉辛四十六年 庚戌辛四十七年 辛亥辛四十八年 壬子辛四十九年

癸卯辛五十年 甲辰辛五十一年 乙巳辛五十二年 丙午辛五十三年

丁未辛五十四年 戊申辛五十五年 己酉辛五十六年 庚戌辛五十七年

辛亥辛五十八年 壬子辛五十九年 癸丑辛六十年 甲寅辛六十一年

乙卯辛六十二年 丙辰辛六十三年 丁巳辛六十四年 戊午辛六十五年

己酉辛六十六年 庚戌辛六十七年 辛亥辛六十八年 壬子辛六十九年

癸卯辛七十年 甲辰辛七十一年 乙巳辛七十二年 丙午辛七十三年

丁未辛七十四年 戊申辛七十五年 己酉辛七十六年 庚戌辛七十七年

辛亥辛七十八年 壬子辛七十九年 癸丑辛八十年 甲寅辛八十一年

乙卯辛八十二年 丙辰辛八十三年 丁巳辛八十四年 戊午辛八十五年

己酉辛八十六年 庚戌辛八十七年 辛亥辛八十八年 壬子辛八十九年

癸卯辛九十年 甲辰辛九十一年 乙巳辛九十二年 丙午辛九十三年

丁未辛九十四年 戊申辛九十五年 己酉辛九十六年 庚戌辛九十七年

辛亥辛九十八年 壬子辛九十九年 癸丑辛一百年

甲申 **乙未** **崇神天皇**

皇子あり母の五香色女の命と曰ふ物部氏の祖大織麻

杵の命のいとこのあり十九とて大子と成り五十二

まし位に居り大子位に成り六十八年瑞籬を治り

臣 **大連武諸** **區命** **執政**

即 **入皇**の妃より五百十四年天漢四年にあり

崩 乙未二年庚午に七十有八十七年あり

丙戌二年 九月 日 建 腹 心 の 命 と 天 孫

瑞籬を治り 丁亥四年 二月五日 建 腹 心 の 命 と 天 孫

乙酉五年 乙酉五年 天 下 疫 疠 起

乙酉五年 乙酉五年 天 下 疫 疠 起

乙酉五年 乙酉五年 天 下 疫 疠 起

乙酉五年 乙酉五年 天 下 疫 疠 起

乙酉五年 乙酉五年 天 下 疫 疠 起

乙酉五年 乙酉五年 天 下 疫 疠 起

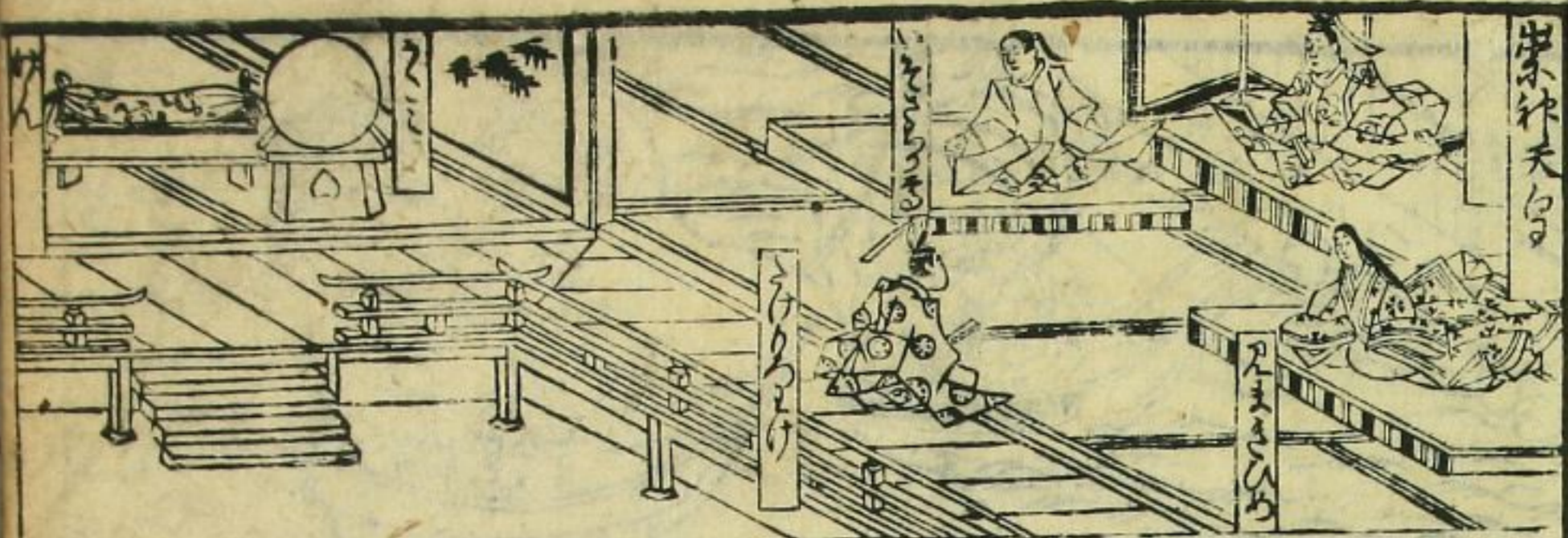
乙酉五年 乙酉五年 天 下 疫 疠 起

乙酉五年 乙酉五年 天 下 疫 疠 起

乙酉五年 乙酉五年 天 下 疫 疠 起

乙酉五年 乙酉五年 天 下 疫 疠 起

乙酉五年 乙酉五年 天 下 疫 疠 起



いは角のあか船よりて蘇我の筒飯のうらみ
 ふてをれとて角鹿をさげ今ノ敦賀ノ筒飯
 今ノ氣比ノ戊申廿五年 じあて磯宮を併せくふ
 度遇ノ郡五十鈴ノ河上より 己酉廿六年
 庚戌廿七年 八月に多七神祇をまほす 辛亥廿八年
 壬子廿九年 正月朔日とて御間珠入姫活目入彦五
 十狭茅のみこととてあまのあまの仁天皇と 癸丑卅年
 甲寅卅一年 乙卯卅二年 丙辰卅三年 丁巳卅四年
 戊午卅五年 己未卅六年 庚申卅七年 辛酉卅八年
 壬戌卅九年 天照大神丹波の吉原へあまのつりまふ
 癸亥四十年 甲子四十年 乙丑四十二年
 丙寅四十年 天照大神をまとい伊豆加志本のまより
 活りまふ八も新まふ 丁卯四十四年 戊辰四十五年
 己巳四十六年 庚午四十七年 辛未四十八年 壬申四十九年

一い大社必社とての神地神を造辛卯八年
 橋治目と掌酒とす 壬辰九年 九月と後
 又墨坂の神大坂の神とまつ癸巳十年
 九月九日大身命と小陸通まつり 武津川別命と
 東海道まつり 黄麻那身命と西海道まつり
 且新羽道主命と新羽道まつりしてあまのい
 高道御軍とい日本に御軍のい甲子十一年
 乙未十二年 民のくまくとて 丙申十二年
 丁酉十四年 戊戌十五年 己亥十六年 庚子十七年
 文と紀引年妻のくまくとてあまのい十月十日
 七月朔日大身命とまつりて船まつりし十月十日
 乙の船まつり 辛丑十八年 壬寅十九年 連
 乙卯二十年 甲辰廿一年 甲辰廿一年 甲辰廿一年
 乙巳廿二年 丙午廿三年 丁未廿四年 任那のあま



ら九百五十四年四月皇子派目入彦五十枝茅乃入と
 と太子に命じ。豊城入彦乃奈之乎と東宮と依一ひ
 辛酉早九年 癸酉早十年 甲戌五十二年 天照大神と紀
 伊ノ名草濱のまよつりあま三年命じてまよつり
 し亥五十二年 丙子五十二年 丁丑五十四年 天照大神と
 備の名方濱にまよつりあまの命を命じて早五十五年
 巳卯五十六年 庚辰早十七年 辛巳早十八年 天照大神と
 和の保和の宮の嶺上まよつりあま二年命じて
 ろいはいく豊都入坂吾日皇とのまよつりあまに倭姫
 天照大神と命じて清心まよつりあま 壬午早十九年
 癸未早二十年 七月十四日天田部の祖武諸隅の命と
 うりてお雲れ大やうまよつりあまの神寶を
 檢さし。倭姫天照大神と命じて多の杖志野の
 甲申六十二年

七百五十二年 七月群臣のりて池溝とむら
 農とむら。十月依網の池とほろ。十二月坂の
 池反折の池とつら。ひらいて田島らひとて
 五とく大よしの
 倭姫天照大神とのせ。伊賀の隠市守のまよ
 つりあま三年命じて 戊子早五年 七月任那の
 必ら蘇那母吒智とほろりてまよつりあま日本に
 のまよつりあまのりてまよつりあまのりてまよつり
 眞と命じてまよつりあま 巳丑早十六年 天照大神と
 早卯早十八年 十二月五日崇神天皇水籬のまよつり
 一のまよつりあま百二十と

壬辰
 元年
 垂仁天皇

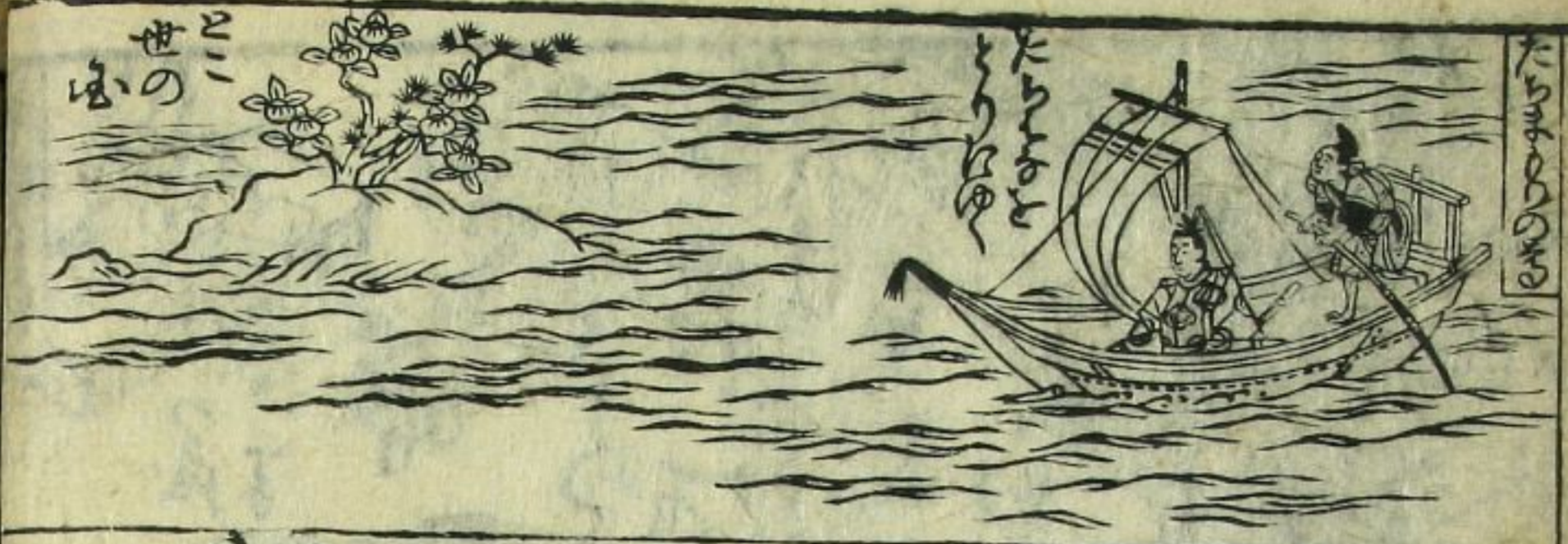
諱(活目)入彦五十枝茅乃入
 崇神天皇



あり母ハ御間珠姫より大彦命にしとめ此より
 子とあり十一といはし信守はしより正徳九年
 珠姫のまゝ崩し
 臣武淳川別度國尊大鹿守十根武日 執政
 即人皇の姫より六百卅二年公方漢の成帝建始年當
 崩之縁二年庚午まで七百十四年より
 西月二日五十狭茅の石と信守より八月崇神天
 皇と山も道より人れ陵より

癸巳二年 天智天皇大御代伊勢の敷部長直の
 つりより二年崩なり○二月九日狭穂彦の命より
 狭穂姫と皇后より○十月十五日乙酉と
 甲午二年 三月新羅國
 より皇子天日槍として鏡玉刀梓弓の七つらた
 としとて未四年 天智天皇大御代伊賀の

ことのは雲のまゝつりより二年崩なり○九月皇孫の
 兄狭穂彦命より人の志ありて皇后に御とつづけ
 て天皇と裁きより人守ありて天皇よりたのひと
 由りより一は寝よりまゝたれりごとくわんご
 らひかぢも涙からち天皇の御ふかひとまゝの天
 皇に御ゆめに歸いらりおらび御くびよりつらと
 て目とちこのまゝとて狭穂彦と珠よりまゝたれ
 兄の珠に入るより 丙申五年 丁酉六年
 戊戌七年 いづもの皇孫宿禰とやまの當麻蹶速と
 らりよりまゝといはし皇孫蹶速といはしよりまゝの
 相撲の姫より 巳亥八年 天智天皇大御代坂田の
 乙未より三年崩なり 庚子九年 辛丑十年
 天智天皇大御代伊賀のまゝより乙未崩なり
 壬寅十一年 癸卯十二年 甲辰十三年 天智天皇大御代



九月饑饉とふうごかとのもて貢をたはむらこの
 乙酉年 四月俾辨派のふとと密雲のくは秋鹿の
 丁卯年 壬午年 癸未年 甲申年
 戊辰年 己巳年 庚午年 辛未年
 壬申年 癸酉年 甲戌年 乙亥年
 丙子年 丁丑年 戊寅年 己卯年
 庚辰年 辛巳年 壬午年 癸未年
 甲申年 乙酉年 丙戌年 丁亥年
 戊子年 己丑年 庚寅年 辛卯年
 壬辰年 癸巳年 甲午年 乙未年
 丙申年 丁酉年 戊戌年 己亥年
 庚子年 辛丑年 壬寅年 癸卯年
 甲辰年 乙巳年 丙午年 丁未年
 戊申年 己酉年 庚戌年 辛亥年
 壬戌年 癸亥年

壬戌年 十月朔日十帝根のふとと物部の姓とて癸丑年二年



甲寅八十二年 乙卯十三年 丙辰十一年 丁巳十三年
 日本はのまのうらへ漢も通じ戊午十三年 二月十三日
 乙未十三年 己未十三年 七月十日天日槍がひまご清
 庚申十三年 辛酉十三年 二月朔日天日槍が御いめよ
 のて天日槍がまご田道間守の命と常世のつみつ
 甲子十三年 乙丑十三年 丙寅十三年 丁卯十三年
 後漢の明帝の永平十年に天竺より佛法より白馬より
 戊辰十三年 己巳十三年 庚午十三年 七月朔日
 じん天竺珠球のまご崩れも壽百二十と十二月
 十日菅原の伏見の陵まごいふ
景行天皇
 葉酢いめより丹波道乎玉のいめあり廿一とあり
 大みくねり十午四とあり後まごのまご皇位十午宛
 穂のまご崩れまご
 臣 武内宿禰
 即入皇の姤より百一十一年以後漢の明帝永平十年當
 崩之縁三年庚午まご百十五年にあり
 二月十五日のころに道女と佛法と縁がまごありん
 とて白馬寺の南にまご釋の二經をたをまごありん
 大まごけしに經をけし佛經をけしをたをまごありん
 〇二月二日田道間守の命とまごのまごり橋をまごありん
 〇まごのまごに天竺より佛法よりまごありん〇七月まごありん
 二月まごありん 稲日太師のまごありん
 武内宿禰まご 甲戌四年 二月十五日天竺
 乙未十三年 乙未十三年 二月十五日天竺

甲寅八十二年 乙卯十三年 丙辰十一年 丁巳十三年
 日本はのまのうらへ漢も通じ戊午十三年 二月十三日
 乙未十三年 己未十三年 七月十日天日槍がひまご清
 庚申十三年 辛酉十三年 二月朔日天日槍が御いめよ
 のて天日槍がまご田道間守の命と常世のつみつ
 甲子十三年 乙丑十三年 丙寅十三年 丁卯十三年
 後漢の明帝の永平十年に天竺より佛法より白馬より
 戊辰十三年 己巳十三年 庚午十三年 七月朔日
 じん天竺珠球のまご崩れも壽百二十と十二月
 十日菅原の伏見の陵まごいふ
景行天皇
 葉酢いめより丹波道乎玉のいめあり廿一とあり
 大みくねり十午四とあり後まごのまご皇位十午宛
 穂のまご崩れまご
 臣 武内宿禰
 即入皇の姤より百一十一年以後漢の明帝永平十年當
 崩之縁三年庚午まご百十五年にあり
 二月十五日のころに道女と佛法と縁がまごありん
 とて白馬寺の南にまご釋の二經をたをまごありん
 大まごけしに經をけし佛經をけしをたをまごありん
 〇二月二日田道間守の命とまごのまごり橋をまごありん
 〇まごのまごに天竺より佛法よりまごありん〇七月まごありん
 二月まごありん 稲日太師のまごありん
 武内宿禰まご 甲戌四年 二月十五日天竺
 乙未十三年 乙未十三年 二月十五日天竺



乙巳廿二年 甲午廿四年 乙未廿五年 丙申廿六年
 丁酉廿七年 戊戌廿八年 己亥廿九年 庚子三十年
 辛丑三十一年 壬寅三十二年 癸卯三十三年
 甲辰三十四年 乙巳三十五年 丙午三十六年
 丁未三十七年 戊申三十八年 己酉三十九年
 庚戌四十年 辛亥四十一年 壬子四十二年
 癸丑四十三年 甲寅四十四年 乙卯四十五年
 丙辰四十六年 丁巳四十七年 戊午四十八年
 己未四十九年 庚申五十年 辛酉五十一年
 壬戌五十二年 癸亥五十三年 甲子五十三年
 乙丑五十四年 丙寅五十五年 丁卯五十六年
 戊辰五十七年 己巳五十八年 庚午五十九年
 辛未六十年 壬申六十一年 癸酉六十二年
 甲戌六十三年 乙亥六十四年 丙子六十五年
 丁丑六十六年 戊寅六十七年 己卯六十八年
 庚辰六十九年 辛巳七十年 壬午七十一年
 癸未七十二年 甲申七十三年 乙酉七十四年
 丙戌七十五年 丁亥七十六年 戊子七十七年
 己丑七十八年 庚寅七十九年 辛卯八十年
 壬辰八十一年 癸巳八十二年 甲午八十三年
 乙未八十四年 丙申八十五年 丁酉八十六年
 戊戌八十七年 己亥八十八年 庚子八十九年
 辛丑九十年 壬寅九十一年 癸卯九十二年
 甲辰九十三年 乙巳九十四年 丙午九十五年
 丁未九十六年 戊申九十七年 己酉九十八年
 庚戌九十九年 辛亥一百年

乙巳廿二年 甲午廿四年 乙未廿五年 丙申廿六年
 丁酉廿七年 戊戌廿八年 己亥廿九年 庚子三十年
 辛丑三十一年 壬寅三十二年 癸卯三十三年
 甲辰三十四年 乙巳三十五年 丙午三十六年
 丁未三十七年 戊申三十八年 己酉三十九年
 庚戌四十年 辛亥四十一年 壬子四十二年
 癸丑四十三年 甲寅四十四年 乙卯四十五年
 丙辰四十六年 丁巳四十七年 戊午四十八年
 己未四十九年 庚申五十年 辛酉五十一年
 壬戌五十二年 癸亥五十三年 甲子五十三年
 乙丑五十四年 丙寅五十五年 丁卯五十六年
 戊辰五十七年 己巳五十八年 庚午五十九年
 辛未六十年 壬申六十一年 癸酉六十二年
 甲戌六十三年 乙亥六十四年 丙子六十五年
 丁丑六十六年 戊寅六十七年 己卯六十八年
 庚辰六十九年 辛巳七十年 壬午七十一年
 癸未七十二年 甲申七十三年 乙酉七十四年
 丙戌七十五年 丁亥七十六年 戊子七十七年
 己丑七十八年 庚寅七十九年 辛卯八十年
 壬辰八十一年 癸巳八十二年 甲午八十三年
 乙未八十四年 丙申八十五年 丁酉八十六年
 戊戌八十七年 己亥八十八年 庚子八十九年
 辛丑九十年 壬寅九十一年 癸卯九十二年
 甲辰九十三年 乙巳九十四年 丙午九十五年
 丁未九十六年 戊申九十七年 己酉九十八年
 庚戌九十九年 辛亥一百年

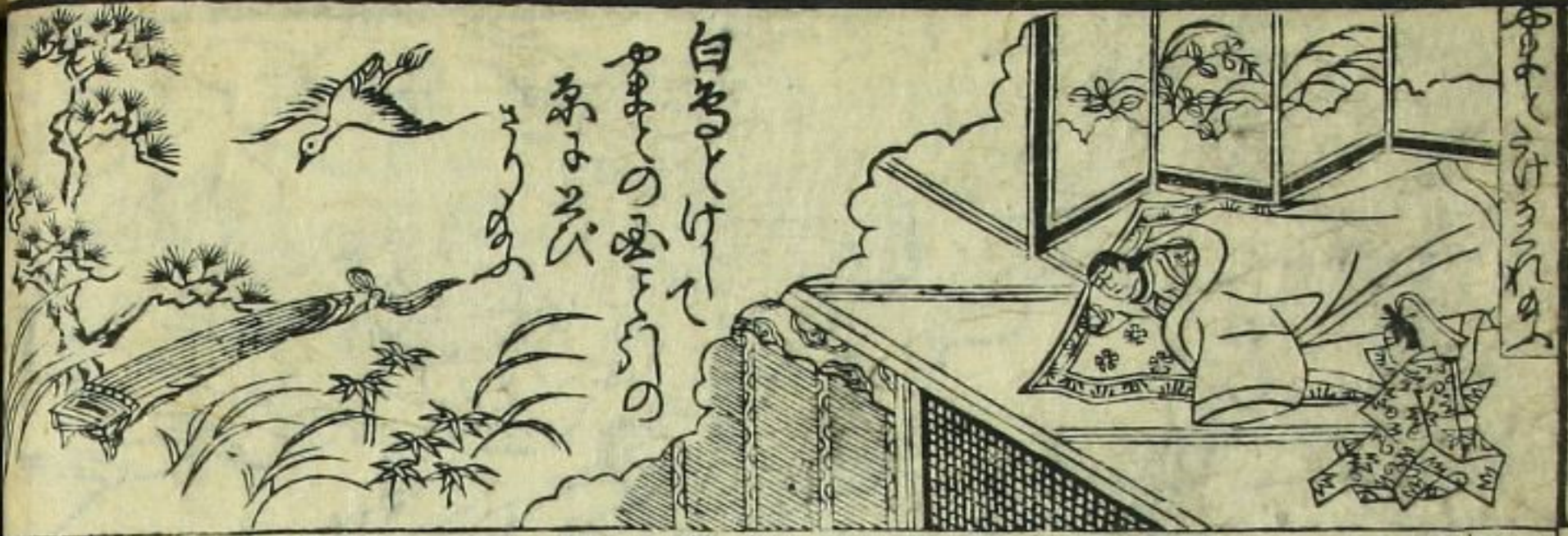
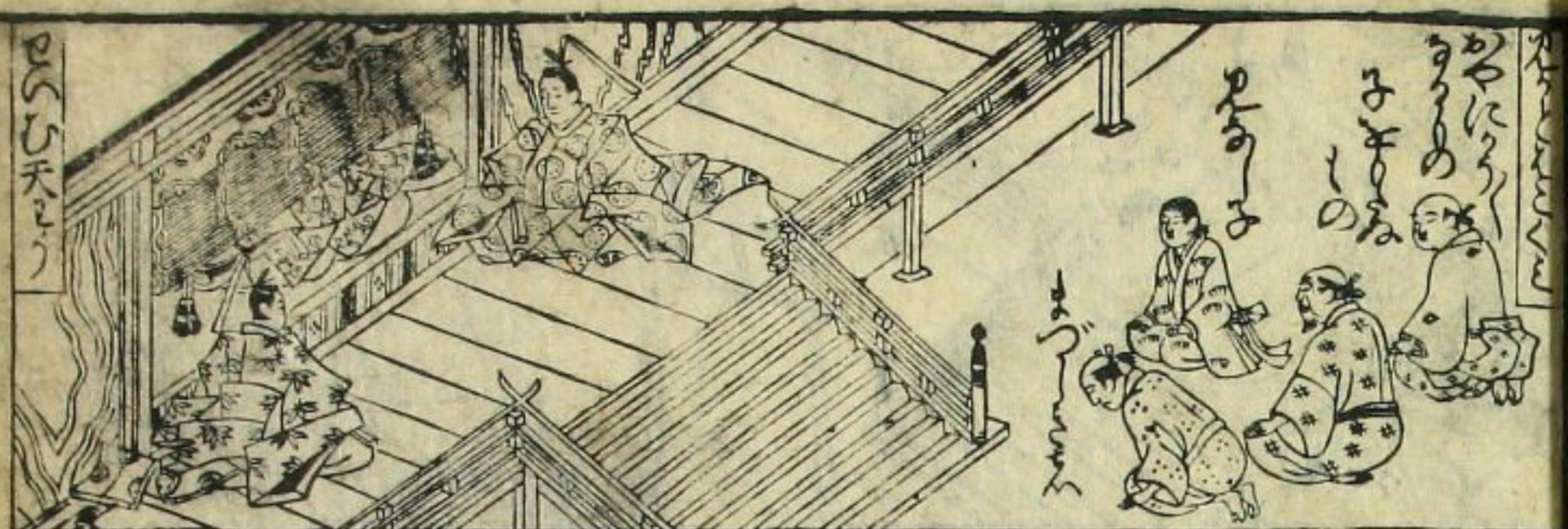


丁巳年七月
 戊午年八月 己未年九月 庚申年十月 辛酉年十一月 壬戌年十二月
 大郎いり豊のり七月八坂入姫と宮内守癸亥年十二月
 八月天皇日本武のるのぬらけいぬくさしんて未
 甲子年四月 九月天皇纏向のるまきり
 乙丑年五月 丙寅年六月 丁卯年七月 九月坂の池
 乙卯年八月 戊辰年九月 天皇わかふるて
 賀の郡穴穂のるまきり三年のく回ゆる新を
 絶伴のくは年妻の郡絶野の地すくは己巳年九月
 庚午年十月 十一月七日景行天皇穴穂のるまきり
 のし壽百四十三歳御子七十一人
 景行天皇のし景行天皇
 穴穂の地すくは母は八坂入姫と

元年 **成務天皇**
 神代



又八坂入姫のるまきりひきめあり 舟中へりて大しむる
 甲子年四月 天皇のるまきり 穴穂のるまきり
臣 武内宿禰 大臣
 (即) 大皇の始より七百九十五は漢の順帝の永建三年當
 崩之祿二年庚午をて子に百六十五年にあつ
 乙卯年五月 天皇のるまきり 穴穂のるまきり
 丙辰年六月 天皇のるまきり 穴穂のるまきり
 丁巳年七月 天皇のるまきり 穴穂のるまきり
 戊午年八月 天皇のるまきり 穴穂のるまきり
 己未年九月 天皇のるまきり 穴穂のるまきり
 庚申年十月 天皇のるまきり 穴穂のるまきり
 辛酉年十一月 天皇のるまきり 穴穂のるまきり
 壬戌年十二月 天皇のるまきり 穴穂のるまきり
 癸亥年一月 天皇のるまきり 穴穂のるまきり
 甲子年二月 天皇のるまきり 穴穂のるまきり
 乙丑年三月 天皇のるまきり 穴穂のるまきり
 丙寅年四月 天皇のるまきり 穴穂のるまきり
 丁卯年五月 天皇のるまきり 穴穂のるまきり
 戊辰年六月 天皇のるまきり 穴穂のるまきり
 己巳年七月 天皇のるまきり 穴穂のるまきり
 庚午年八月 天皇のるまきり 穴穂のるまきり
 辛未年九月 天皇のるまきり 穴穂のるまきり
 壬申年十月 天皇のるまきり 穴穂のるまきり



乙酉十五年	丙戌十六年	丁亥十七年	戊子十八年
己丑十九年	庚寅廿一年	辛卯廿二年	壬辰廿三年
癸巳廿五年	甲午廿六年	乙未廿七年	丙申廿八年
丁酉卅二年	戊戌卅三年	己亥卅四年	庚子卅五年
辛丑卅九年	壬寅卅四年	癸卯卅五年	甲辰卅六年
乙巳卅九年	丙午卅八年	丁未卅九年	戊申卅四年
己未卅七年	庚戌卅八年	辛亥卅九年	壬子卅四年
癸卯卅三年	甲辰卅四年	乙巳卅五年	丙午卅六年
丁未卅七年	戊申卅八年	己酉卅九年	庚戌卅四年
辛亥卅二年	壬子卅三年	癸丑卅四年	甲寅卅五年
乙卯卅五年	丙辰卅六年	丁巳卅七年	戊午卅八年
庚申卅五年	辛酉卅六年	壬戌卅七年	癸亥卅八年
甲子卅四年	乙丑卅五年	丙寅卅六年	丁卯卅七年
戊辰卅八年	己巳卅九年	庚午卅四年	辛未卅五年

三月朔日天皇崩御...
 子足仲彦...
 乙未甲子...
 乙卯甲子...

仲哀天皇
 元年 壬申 仲哀天皇

母の御道入いめとの...
 乙酉十五年...
 乙未甲子...

臣 武内宿称大臣 大伴武持 大連
 即人皇孫...
 崩 乙未甲子...



のまはつらひて繁く野のつらひ心するに備軍を
下知て行はせしめしむは天のつらひを以て平伏と云ふ
好むわりの貢のめさくくへと陰を以て平伏と云ふ
とまゝして皇族の沖陣を以て平伏と云ふ
てにさうたされ大天田宿禰と云ふ羅よそのつらひ
お軍さうしと韓と下知せしめて皇族の飯取し
新羅高麗百濟と云ふ韓と今今の朝鮮と云ふ
臣 武内宿禰大臣 田道間連 大連
即 人皇の妹の八百六十年は漢献帝建安六年はら
崩 元祿二年庚午まて子百八十五年はら
十月八日輝石神宮となりて皇族と帝位より多くて
辰神宮にて皇族のつらひと云ふは皇族のつらひ
壬午二年 十一月八日仲哀天皇となりて皇族のつらひ
と云ふは皇族のつらひと云ふは皇族のつらひ



と大いにふ都と繁余よりなりて皇族のつらひ
甲申四年 乙酉五年 三月七日新羅公より皇族
十艘と云ふ丙戌六年 丁亥七年 戊子八年
己丑九年 庚寅十年 辛卯十一年 壬辰十二年 癸巳十三年
甲午十四年
乙未十五年 丙申十六年 丁酉十七年 戊戌十八年
己亥十九年 庚子二十年 辛丑二十一年 壬寅二十二年
癸卯二十三年 甲辰二十四年 乙巳二十五年
丙午二十六年 丁未二十七年 戊申二十八年
己酉二十九年 庚戌三十年 辛亥三十一年 壬子三十二年
癸丑三十三年 甲寅三十四年 乙卯三十五年
丙辰三十六年 丁巳三十七年 戊午三十八年
己未三十九年 庚申四十年 辛酉四十一年 壬戌四十二年



癸亥年三年 甲子年四年 乙丑年五年 丙寅年六年
 丁卯年七年 四月朔日百濟入り馬をいりし香賀と
 香賀と羅麻つうりせし羅和とて使とて
 珍寶八十艘と貢と○百濟王西藩と稱して奉と貢
 庚午年五年 しての葦の澤踏とて辛未年二年
 銀綿綉と貢とさく 壬申年二年 九月又百濟
 乙亥年五年 丙子年六年 丁丑年七年 皇太子の妃
 仲姫大鸞鶴のさるさるに徳天をせし戊寅年八年
 巳卯年九年 庚辰年十年 辛巳年十一年 壬午年十二年
 新羅朝せりいりて襲津彦とて癸未年十三年
 甲申年十四年 乙酉年十五年 丙戌年十六年 丁亥年十七年

戊子年十八年 巳丑年十九年 四月十五日神功皇后若孫の
 以崩し壽百十二の八月百濟王皇太子をいりし
 て新羅高麗とよりりてさる使とてさるし金
 銀綿綉と貢とさる十月三日神功皇后と狭城府の
 のんさるはさるし

唐貞元年 應神天皇

皇太子の胎心はゆりて次は仲長服神ありし
 どもとてと帝の正統ありて胎中天皇とてさる
 皇太子の御鏡のくま内とてあつりて朝るに朝
 衣のくまありてさる胎中天皇とてさるし朝
 衣とてさる因天皇とてさるし朝衣とてさるし
 十一のくまは後にはさるし朝衣とてさるし朝衣とてさるし

臣 武内宿禰 執政

武内宿禰



武内宿禰

即人皇の孫なり九百卅年晋の武帝ヲ恭奉二年にわたり
崩 乙未二年庚午まじふ百十六年まじふ
二月朔日春日田別の宮に遷すつる都を遷すの地まじふ
しまじふまじふまじふ

皇卯二年 三月二日五百城入彦の皇子のまじふ仲姫を
皇辰年 壬辰二年 十月二日蝦夷貢すまじふ東の
蝦夷をて鹿坂の石と化 癸巳四年 四月百濟公辰
斯王をてまじふまじふまじふ百濟の臣辰斯とてりてはたまじふ

甲午五年 十月伴臣のまじふ大船をたまじふまじふまじふ
まじふまじふ柘野にまじふまじふ 乙未六年 二月天皇のまじふ
のく小免道助のまじふまじふまじふの製を丙申七年

九月新羅高廉百濟任那の四公あり貢す天皇は百濟
林を命じて二韓へ入す池とはまじふまじふまじふと韓池は
乙未八年 乙未九年 四月武内宿禰のまじふまじふまじふ

武内宿禰のまじふまじふまじふ武内宿禰のまじふまじふまじふ
まじふまじふのまじふまじふまじふ武内宿禰のまじふまじふまじふ
まじふまじふのまじふまじふまじふ武内宿禰のまじふまじふまじふ

まじふまじふのまじふまじふまじふ武内宿禰のまじふまじふまじふ
まじふまじふのまじふまじふまじふ武内宿禰のまじふまじふまじふ
まじふまじふのまじふまじふまじふ武内宿禰のまじふまじふまじふ

まじふまじふのまじふまじふまじふ武内宿禰のまじふまじふまじふ
まじふまじふのまじふまじふまじふ武内宿禰のまじふまじふまじふ
まじふまじふのまじふまじふまじふ武内宿禰のまじふまじふまじふ

まじふまじふのまじふまじふまじふ武内宿禰のまじふまじふまじふ
まじふまじふのまじふまじふまじふ武内宿禰のまじふまじふまじふ
まじふまじふのまじふまじふまじふ武内宿禰のまじふまじふまじふ

乙巳十六年

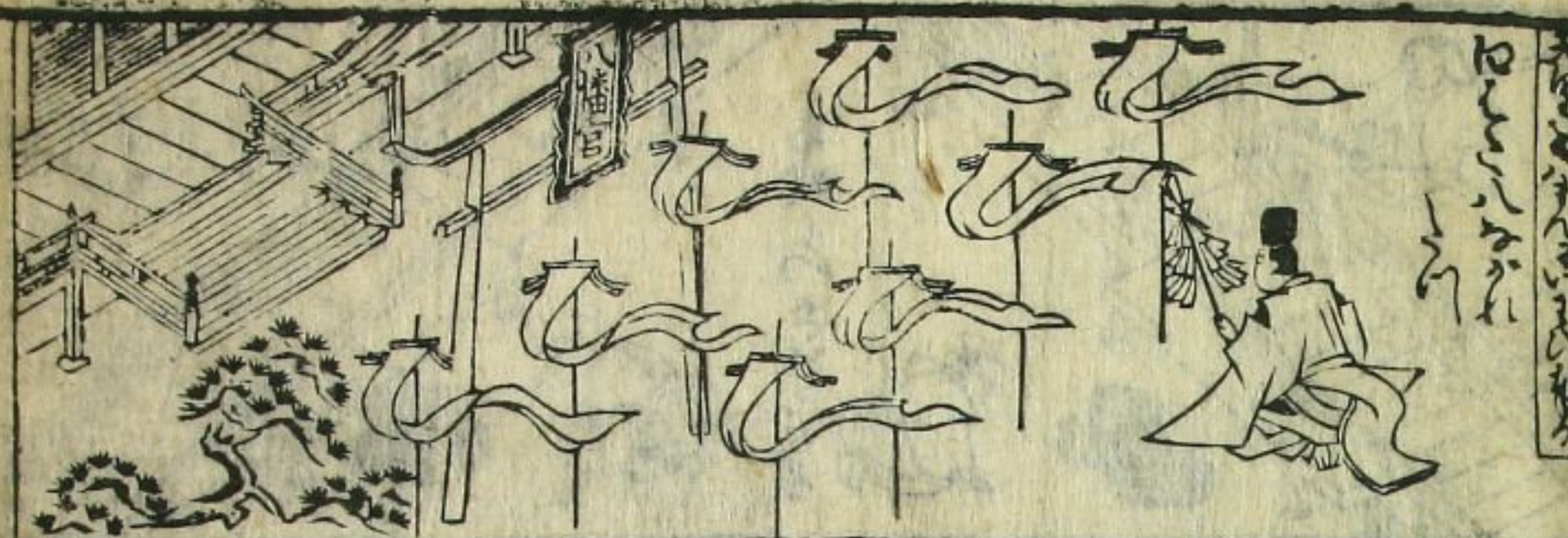
二月朔日百濟公より壬辰とてりてまじふ

乙巳十六年



布織る

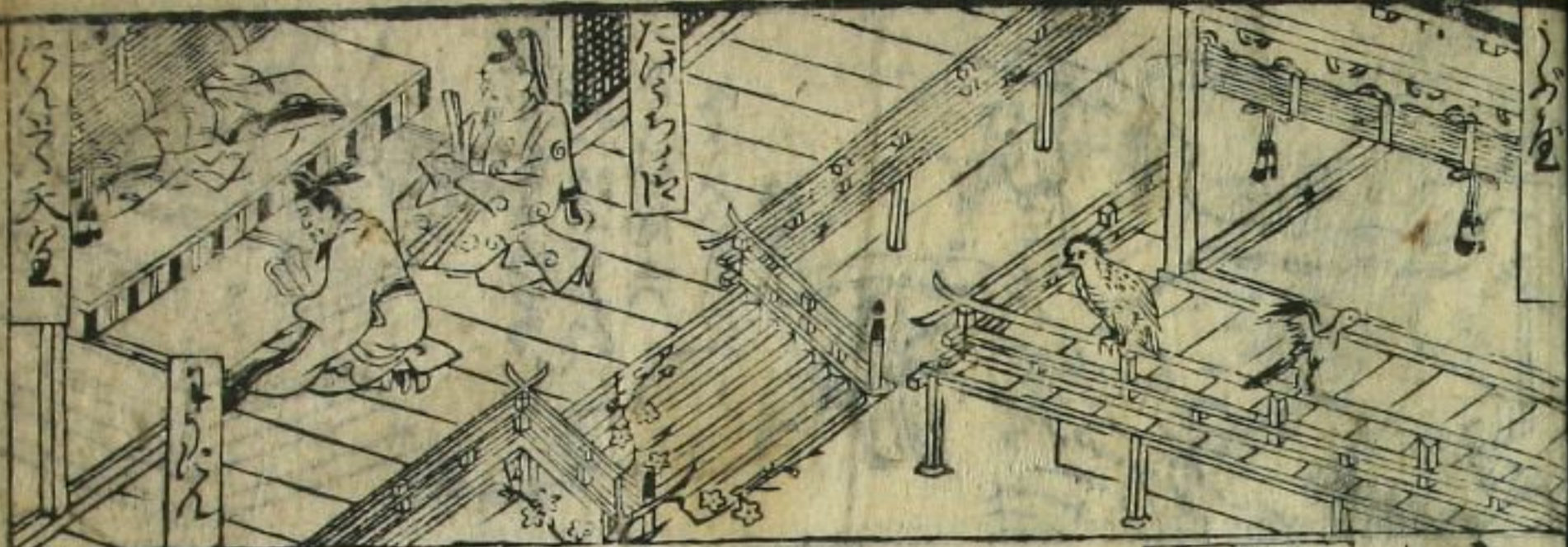
絹織る



絹織る

于字女をまらふも免道稚郎子王仁と仰ぐて書と
 もあふふ百濟公の阿花王豊と天と百濟の久ら阜
 丙午十七年 丁未十八年 戊申十九年
 天と吉登にゆふりゆふ山のそと園探とゆふよとの
 ふとのふりて醴とまら 巳酉廿年 庚戌廿一年
 辛亥廿二年 秋天吉休のふわづき幸王子廿三年
 癸丑廿四年 二月終るる唯雄とびとらて林の裏の相乃
 本も巢ふ 甲寅廿五年 乙卯廿六年 丙辰廿七年
 丁巳廿八年 九月も麻とら表とらるる女不礼とらに
 以て皇子稚郎子表とらる 戊午廿九年 巳未卅年
 庚申卅一年 八月秋の終りて用とらるるて焚て
 塩のふりて守との燼とら化辛酉卅二年 壬戌卅三年
 癸亥卅四年 甲子卅五年 乙丑卅六年 丙寅卅七年
 二月はるるも呉の本もつらて縫工の女とらるる呉漢の
 工女とらるる呉織漢織の四人の女とらる 丁卯卅八年
 三月天とゆふの日本武のふも白もと化して夫とらるる
 ろりて尾張の熱田の縣も徳をまらるるて
 戊辰卅九年 巳巳卅十年 丙子十四日也稚郎子のまら
 大子にゆふ仁徳天のまらる 庚午卅十一年 二月十五日熱
 神天と豊羽のまらるるも壽百十一の稚郎子のまら
 佐と兄の大勢勢もゆふりも文勢勢ゆふりも守とら
 いふゆりて佐と兄のまらるるも三年 辛未卅十二年
 應神天皇と百古野のまらるるもゆふりて天と豊羽の
 代も神とゆふ 豊前のもまらるるもゆふりて白
 幡もまらるるもゆふりてゆふりて八幡大がま
 ゆふりて清和帝の所も山城とくも男山へ勅法と
 壬申卅十三年 先帝崩御ゆふりてゆふりて三年 大勢勢
 のまらるる難波もまらるるも太子稚郎子の免道もまらるる

壬申卅十三年 先帝崩御ゆふりてゆふりて三年 大勢勢
 のまらるる難波もまらるるも太子稚郎子の免道もまらるる



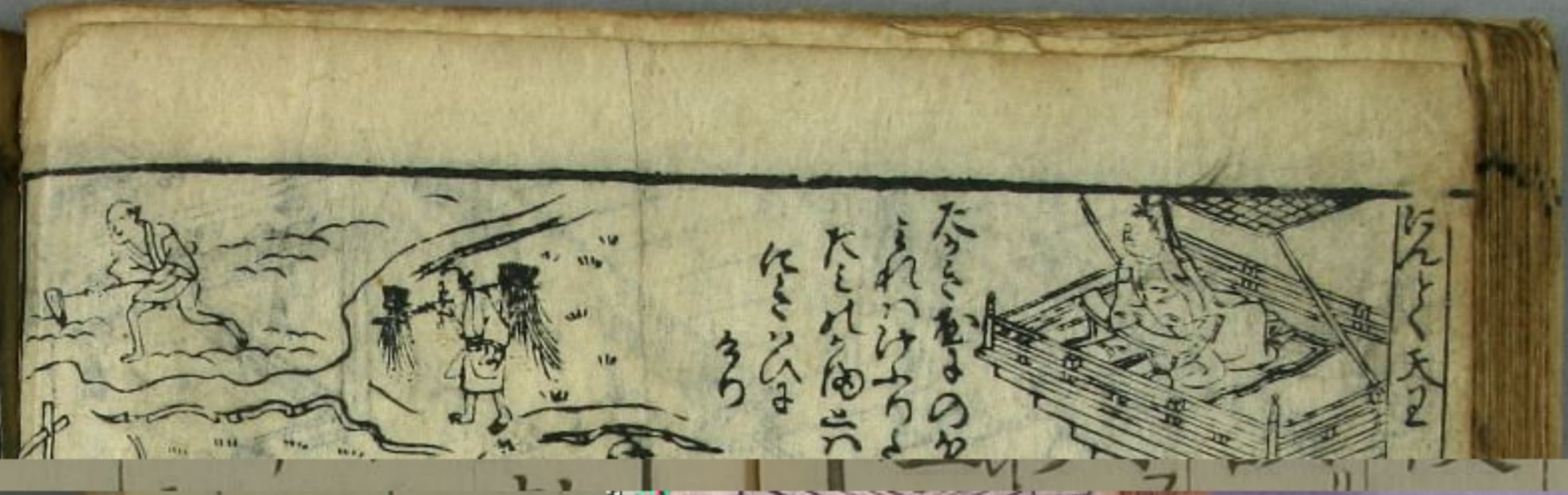
素直に侍をゆるりて貢物とてさしあげし
 男大子稚郎子に申す所のく免道も其の
 乃をて仰ぐぬいひもくどやむとて
 けさるるなり

新補倭年代自皇紀繪巻

仁徳天皇

仁徳天皇の御代は、
 五百餘年入皇の御代に孫あり仁徳天皇の御代は、
 鳥羽の御代に孫あり仁徳天皇の御代は、
 わや、此の御代に孫あり仁徳天皇の御代は、
 て皇太子の大鸕鷀の御代に孫あり仁徳天皇の御代は、
 の五十七の御代に孫あり仁徳天皇の御代は、
 わひてあひしりて皇太子の御代に孫あり仁徳天皇の御代は、
 に都へ遷す津島より仁徳天皇の御代に孫あり仁徳天皇の御代は、
 美つらりて皇太子の御代に孫あり仁徳天皇の御代は、
 乃新皇の御代に孫あり仁徳天皇の御代に孫あり仁徳天皇の御代は、

一巻之終





癸巳九一年 甲午九二年 八国女といして死す

乙未九三年 丙申九四年 丁酉九五年 戊戌九六年

巳亥九七年 庚子九八年 辛丑九九年 壬寅九十年

八国女といして死す 癸卯九十年 乙巳九十二年

丙午九十四年 丁未九十五年 六月に死す

丙申九十六年 丁未九十五年 巳酉九十七年

十一月に死す 戊申九十八年 巳酉九十七年

正月六日八国女といして死す 辛亥九十九年

壬子九十年 五月に死す 壬寅九十年

癸丑九十二年 二月に死す 乙卯九十二年

甲寅九十四年 九月に死す 九月に死す

乙卯九十五年 九月に死す

丙辰九十六年 戊午九十八年 巳未九十七年

庚申九十八年 辛酉九十九年 壬戌九十年 河内に死す

癸亥九十二年

甲子九十四年 乙丑九十五年 新羅に死す

丙寅九十六年 丁卯九十七年 蝦夷に死す

戊辰九十八年 巳巳九十九年 庚午九十年

墓といふ毒地といふ

五月に死す 巳巳九十九年 庚午九十年

十月に死す 辛未九十二年 壬申九十四年

癸酉九十六年 甲戌九十八年

乙亥九十九年 丙子九十年

丁丑九十二年 戊寅九十四年

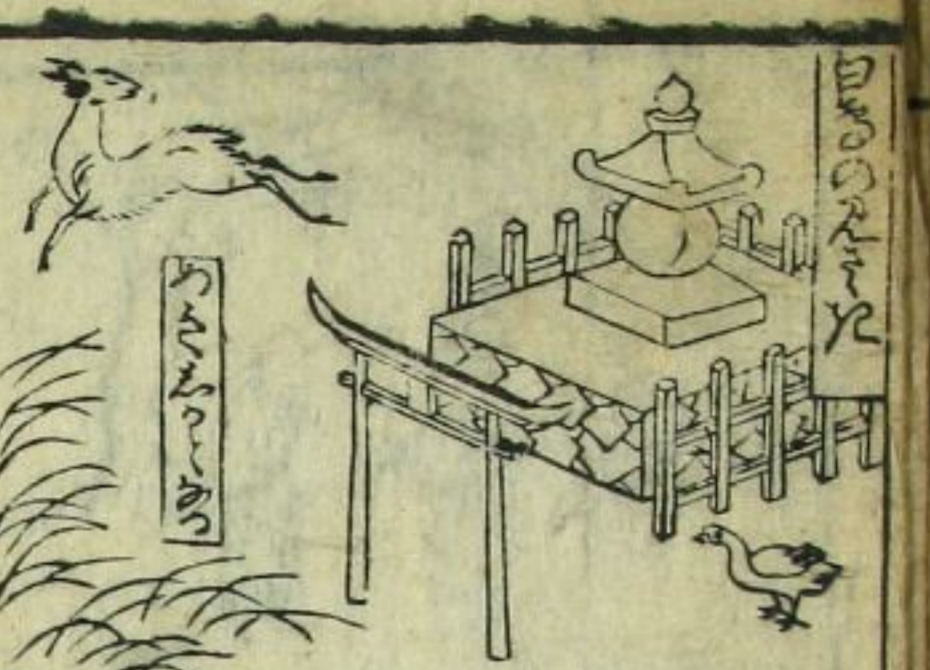
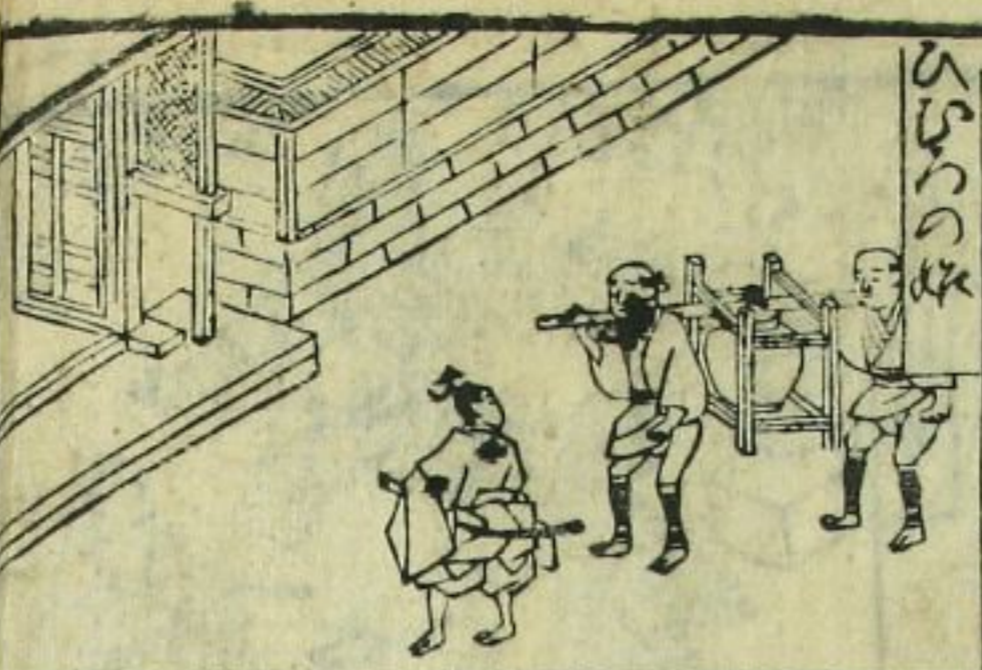
己卯九十六年 庚辰九十八年

辛巳九十九年 壬午九十年

癸未九十二年 甲申九十四年

乙酉九十六年 丙戌九十八年

年表記卷二



十月武門宿禰薨之壽二百十六歳行ありこの代も成
 務休養神功後神とてこの代も薨之をいそむ六代もる
 改とらるる二百一年余の辛卯年冬辰八十年
 癸巳八十一年 甲午八十二年 二月朔日物部の大別連の天
 田部連の姓とあり 乙未八十二年 丙申八十四年
 丁酉八十五年 戊戌八十六年 巳亥八十七年 正月廿六日仁
 德天皇難波の宮にあり 乙未百零一年とて十月天
 皇と百零二年の御の代もはなす事あり
 十月武門宿禰薨之壽二百十六歳行ありこの代も成
 務休養神功後神とてこの代も薨之をいそむ六代もる
 改とらるる二百一年余の辛卯年冬辰八十年
 癸巳八十一年 甲午八十二年 二月朔日物部の大別連の天
 田部連の姓とあり 乙未八十二年 丙申八十四年
 丁酉八十五年 戊戌八十六年 巳亥八十七年 正月廿六日仁
 德天皇難波の宮にあり 乙未百零一年とて十月天
 皇と百零二年の御の代もはなす事あり
 十月武門宿禰薨之壽二百十六歳行ありこの代も成
 務休養神功後神とてこの代も薨之をいそむ六代もる
 改とらるる二百一年余の辛卯年冬辰八十年
 癸巳八十一年 甲午八十二年 二月朔日物部の大別連の天
 田部連の姓とあり 乙未八十二年 丙申八十四年
 丁酉八十五年 戊戌八十六年 巳亥八十七年 正月廿六日仁
 德天皇難波の宮にあり 乙未百零一年とて十月天
 皇と百零二年の御の代もはなす事あり

乙未百零二年の御の代もはなす事あり
 十月武門宿禰薨之壽二百十六歳行ありこの代も成
 務休養神功後神とてこの代も薨之をいそむ六代もる
 改とらるる二百一年余の辛卯年冬辰八十年
 癸巳八十一年 甲午八十二年 二月朔日物部の大別連の天
 田部連の姓とあり 乙未八十二年 丙申八十四年
 丁酉八十五年 戊戌八十六年 巳亥八十七年 正月廿六日仁
 德天皇難波の宮にあり 乙未百零一年とて十月天
 皇と百零二年の御の代もはなす事あり
 十月武門宿禰薨之壽二百十六歳行ありこの代も成
 務休養神功後神とてこの代も薨之をいそむ六代もる
 改とらるる二百一年余の辛卯年冬辰八十年
 癸巳八十一年 甲午八十二年 二月朔日物部の大別連の天
 田部連の姓とあり 乙未八十二年 丙申八十四年
 丁酉八十五年 戊戌八十六年 巳亥八十七年 正月廿六日仁
 德天皇難波の宮にあり 乙未百零一年とて十月天
 皇と百零二年の御の代もはなす事あり
 十月武門宿禰薨之壽二百十六歳行ありこの代も成
 務休養神功後神とてこの代も薨之をいそむ六代もる
 改とらるる二百一年余の辛卯年冬辰八十年
 癸巳八十一年 甲午八十二年 二月朔日物部の大別連の天
 田部連の姓とあり 乙未八十二年 丙申八十四年
 丁酉八十五年 戊戌八十六年 巳亥八十七年 正月廿六日仁
 德天皇難波の宮にあり 乙未百零一年とて十月天
 皇と百零二年の御の代もはなす事あり

庚子
 十代 履仲天皇

乙未百零二年

乙未百零二年



裏とや天皇大和のくもへいらのこみはたはたし仲とよ

とらへりまを位六年稚橘の宮へおしあし

臣平船本兼蘇滿智宿禰物部押吉軍大連圓大使至

即入皇の依り子六子のみ東晋安帝の隆安四年二月

崩元禄三年慶年としより二百十六年にも

二月朔日去來榎別宮の位つとも一月月都と大和の終

余すつ稚橘の宮より七月も草田吉原にいと先

辛丑二年 六月十六日天皇の御光瑞雲別りんとと備

太子守忍坂太申ひり先穂きとともりまよと安承天

皇とのひもを餘余の池とかりへい 壬寅二年

十一月十八日天皇市磯の池に御わそひへりも極たのそ

ツルまらりりよりともいりて稚橘を文とらふ

癸卯四年 八月八日天皇平八王しるるとのふたはふりわ

から書くそのあへりりもとつとへい 甲辰五年

九月天皇むらさめを極も東作の惶あわり果して皇妃

皇妃薨去つて巳巳年 六月草香幡姫と名をたす

○しるれ藤原をそと部をのむる○二月五日後伴を

皇推格の宮を崩しも天皇七十九の十月四日自らは

丙午 正 反正天皇

あり母の親がいはりりもそと伴をさしとらへり大和の

よみて後伴のゆきりよとけり五十六の位つともい

皇位六年 崇相を崩しあ

臣 履伴天皇のむらさめと大和

即入皇れ依りり六十六年も東晋安帝の義興二年に當

崩元禄二年慶年としより二百八十年にあり



四月二日瑞雲院のまゝのちの八月有本...
 聖の...
 乙酉四年 庚戌五年 辛亥六年 四月廿二日
 天...
元年 **元年** **元年**
元年 **元年** **元年**
 仁徳天皇の...
 臣 夜伸の...
 即 人皇の...
 納 乙酉四年 庚戌五年 辛亥六年 壬子七年 癸丑八年 甲寅九年 乙卯十年 丙辰十一年 丁巳十二年 戊午十三年 己未十四年 庚申十五年 辛酉十六年 壬戌十七年 癸亥十八年 甲子十九年 乙丑二十年 丙寅二十一年 丁卯二十二年 戊辰二十三年 己巳二十四年 庚午二十五年 辛未二十六年 壬申二十七年 癸酉二十八年 甲戌二十九年 乙亥三十年 丙子三十一年 丁丑三十二年 戊寅三十三年 己卯三十四年 庚辰三十五年 辛巳三十六年 壬午三十七年 癸未三十八年 甲申三十九年 乙酉四十年 丙戌四十一年 丁亥四十二年 戊子四十三年 己丑四十四年 庚寅四十五年 辛卯四十六年 壬辰四十七年 癸巳四十八年 甲午四十九年 乙未五十年 丙申五十一年 丁酉五十二年 戊戌五十三年 己亥五十四年 庚子五十五年 辛丑五十六年 壬寅五十七年 癸卯五十八年 甲辰五十九年 乙巳六十年 丙午六十一年 丁未六十二年 戊申六十三年 己酉六十四年 庚戌六十五年 辛亥六十六年 壬子六十七年 癸丑六十八年 甲寅六十九年 乙卯七十年 丙辰七十一年 丁巳七十二年 戊午七十三年 己未七十四年 庚申七十五年 辛酉七十六年 壬戌七十七年 癸亥七十八年 甲子七十九年 乙丑八十年 丙寅八十一年 丁卯八十二年 戊辰八十三年 己巳八十四年 庚午八十五年 辛未八十六年 壬申八十七年 癸酉八十八年 甲戌八十九年 乙亥九十年 丙子九十一年 丁丑九十二年 戊寅九十三年 己卯九十四年 庚辰九十五年 辛巳九十六年 壬午九十七年 癸未九十八年 甲申九十九年 乙酉一百年

十月二日 乙酉四年 庚戌五年 辛亥六年 壬子七年 癸丑八年 甲寅九年 乙卯十年 丙辰十一年 丁巳十二年 戊午十三年 己未十四年 庚申十五年 辛酉十六年 壬戌十七年 癸亥十八年 甲子十九年 乙丑二十年 丙寅二十一年 丁卯二十二年 戊辰二十三年 己巳二十四年 庚午二十五年 辛未二十六年 壬申二十七年 癸酉二十八年 甲戌二十九年 乙亥三十年 丙子三十一年 丁丑三十二年 戊寅三十三年 己卯三十四年 庚辰三十五年 辛巳三十六年 壬午三十七年 癸未三十八年 甲申三十九年 乙酉四十年 丙戌四十一年 丁亥四十二年 戊子四十三年 己丑四十四年 庚寅四十五年 辛卯四十六年 壬辰四十七年 癸巳四十八年 甲午四十九年 乙未五十年 丙申五十一年 丁酉五十二年 戊戌五十三年 己亥五十四年 庚子五十五年 辛丑五十六年 壬寅五十七年 癸卯五十八年 甲辰五十九年 乙巳六十年 丙午六十一年 丁未六十二年 戊申六十三年 己酉六十四年 庚戌六十五年 辛亥六十六年 壬子六十七年 癸丑六十八年 甲寅六十九年 乙卯七十年 丙辰七十一年 丁巳七十二年 戊午七十三年 己未七十四年 庚申七十五年 辛酉七十六年 壬戌七十七年 癸亥七十八年 甲子七十九年 乙丑八十年 丙寅八十一年 丁卯八十二年 戊辰八十三年 己巳八十四年 庚午八十五年 辛未八十六年 壬申八十七年 癸酉八十八年 甲戌八十九年 乙亥九十年 丙子九十一年 丁丑九十二年 戊寅九十三年 己卯九十四年 庚辰九十五年 辛巳九十六年 壬午九十七年 癸未九十八年 甲申九十九年 乙酉一百年



天保八年八月... 壬午年... 癸卯年... 甲辰年... 乙巳年... 丙午年... 丁未年... 戊申年... 己酉年... 庚戌年... 辛亥年... 壬子年... 癸丑年... 甲寅年... 乙卯年... 丙辰年... 丁巳年... 戊午年... 己未年... 庚申年... 辛酉年... 壬戌年... 癸亥年...



甲午 元年 安康天皇... 乙未 二年... 丙申 三年... 丁酉 四年... 戊戌 五年... 己亥 六年... 庚子 七年... 辛丑 八年... 壬寅 九年... 癸卯 十年... 甲辰 十一年... 乙巳 十二年... 丙午 十三年... 丁未 十四年... 戊申 十五年... 己酉 十六年... 庚戌 十七年... 辛亥 十八年... 壬子 十九年... 癸丑 二十年...

西月... 元年... 二年... 三年... 四年... 五年... 六年... 七年... 八年... 九年... 十年...



年代記卷二

後言と信 叔父の大草香見の位みとてその妻中
葉姫と姓 仲葉の位が大草香見の位とてその妻
みよ信姫とてその母とてその位とてその妻
出入り 乙未二年 二月十七日仲葉の位とて
く宣衣守 丙申年 八月九日天皇山をなす
て申葉姫の位とて其位とて所多入る骨輪王の位
とてその位とてその位とて其位とて其位とて其位

正 年 雄略天皇 傳大井瀬幼武の位とて其位
奉天の位とて其位とて其位とて其位とて其位

康の位とて其位とて其位とて其位とて其位
野とて其位とて其位とて其位とて其位とて其位
大位とて其位とて其位とて其位とて其位とて其位
八の位とて其位とて其位とて其位とて其位とて其位

人として其位とて其位とて其位とて其位とて其位
宅とて其位とて其位とて其位とて其位とて其位
天の位とて其位とて其位とて其位とて其位とて其位
人として其位とて其位とて其位とて其位とて其位
倉の位とて其位とて其位とて其位とて其位とて其位

臣 平部 大連 大連
崩 乙未二年 庚午年 千二百九十九年
二月 草香幡授へめとて其位とて其位
十月五日 天皇山をなすの位とて其位とて其位
て獲りし 乙未二年 八月二日 天皇山をなすの位

乙未二年 庚子四年 八月二日 天皇山をなすの位
とて其位とて其位とて其位とて其位とて其位
とて其位とて其位とて其位とて其位とて其位
とて其位とて其位とて其位とて其位とて其位

年代記卷二



全十言卷二

辛酉五年 五月大よひてり天皇皇蔵石持連小余じ

二月天皇うつたぬし痛と猪とついで天皇の故とい

天皇崩とちとんと 壬寅六年 天皇の辰と

天皇崩とちとんと 癸卯七年 天皇田狭乃妻稚姫と

田狭と任那の女といす 甲辰八年 新羅の

くいとふ 乙巳九年 丙午十年 日子姫相武

日の子とふとふと安用天皇との十月木岡の

十月の養と人と輕村養余と所より丁未十一年

十月の官の倉菟田の長人の狩とつれて死と天皇

十月本三國勢御由と橋客と遠い己酉十二年

本工猪名部真根車とふとのと實たして本とふと

庚戌十四年 吳根衣縫の尾末持津の

辛酉五年 五月大よひてり天皇皇蔵石持連小余じ

てと神の社とあといとい日本とあつる。秦酒とよ

巨麻依の姓といふ 壬午十六年 素と

乙卯十九年 丙辰廿年 癸丑十七年 甲寅十八年

戊午廿二年 五月朔日白髪をまよと太りす。七月七日

大津之の神体とついで豊受皇太神と丹波の余依の

志井と初よりいせを遇の那山田の初よりいせ外と

丹波の余依れとわり木江の浦ののぶとふとの舟と

約よいで大なる龜とえり龜化して女とありて浦

とあり物とありとふとふとふとふとふとふとふと

己未廿三年

己未廿三年

全十言卷二

二



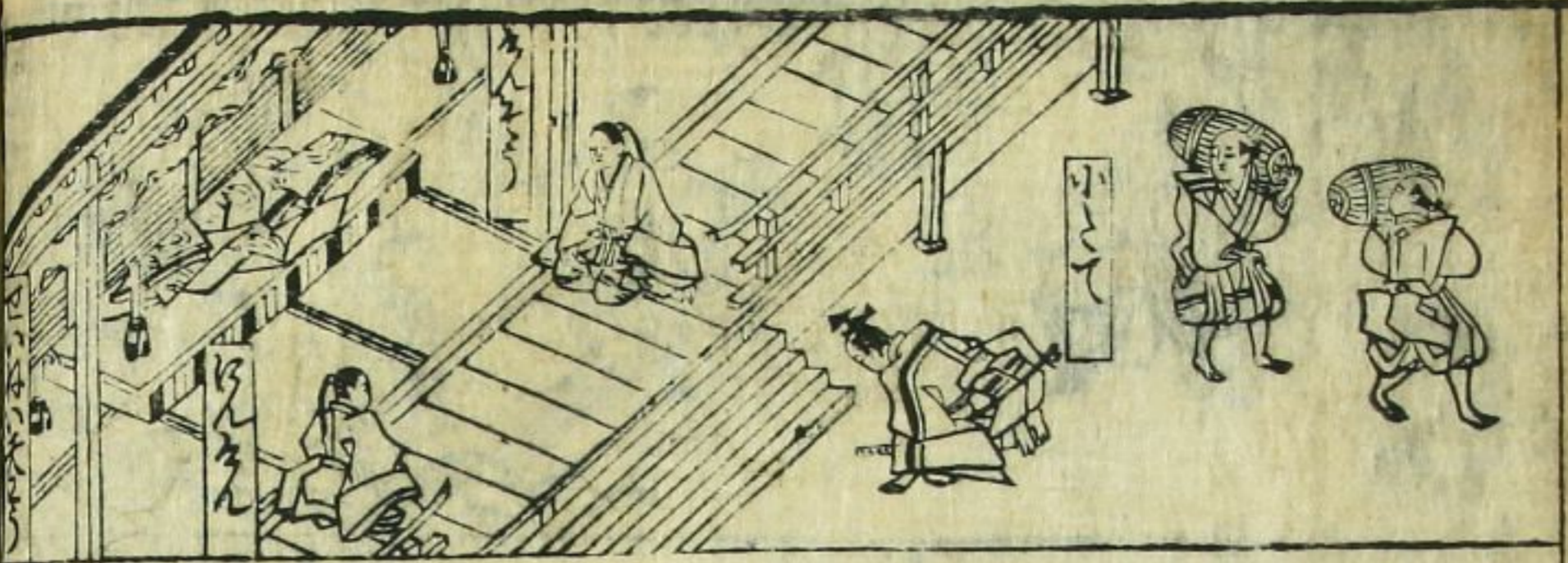
八月七日推異天皇大赦... 日祥及皇太子白髮... 壽九十二... 八月四

元年 庚申 清寧天皇

清寧天皇... 大連東漢... 平郡真鳥大臣執政... 即... 崩... 二年...

元年 乙丑 顯宗天皇

顯宗天皇... 甲子五年... 四月十六日安... 崩... 二年...



こと顯宗の御孫小橋大納言と清寧天皇の御孫
 とん清寧天皇の御孫とて顯宗に賢名をまをさ
 よびいきて養育せしむる清寧崩御のちに見事なれり
 しては御孫とてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 女御とてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 にてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 拜一多入顯宗御孫とてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 世のわが御孫は御孫とてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 ともくゆへにわが御孫は御孫とてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 二年八月の美子崩一多
臣 清寧天皇の御孫とてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
即 人の皇子の御孫とてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
雷 名保三年庚午より千二百二年にあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 十二月清寧天皇の御孫とてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 うしろ〇稚子の御孫とてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 丙寅二年 二月十日の巳日天皇御孫とてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 う〇〇〇九月の韓朝と 丁卯三年 神徳とてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 て月後社とてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 後田赤符とてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 崩一多の壽四十八とてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

仁賢天皇
 諱多食皇 又債計
 大御孫とてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 孝あり四十一とてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
臣 清寧天皇の御孫とてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
即 人の皇子の御孫とてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
崩 名保三年庚午より千二百九十八年にあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 二月五日多食皇の御孫とてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

仁賢天皇
 諱多食皇 又債計
 大御孫とてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 孝あり四十一とてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
臣 清寧天皇の御孫とてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
即 人の皇子の御孫とてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
崩 名保三年庚午より千二百九十八年にあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 二月五日多食皇の御孫とてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて



二月二月廿日大娘いめと宮内守の十月二月顯宗
 傳兵の杯杯兵のときたを奉る。新羅百濟朝
 巳巳二年 庚午二年 辛未四年 五月戊午
 の末氏人賞とあつていふいふて散たす。年
 とらんいかにとらめりて大伴金村連勅を
 ことと深き 壬申五年 二月佐伯氏とあつて
 て佐伯連す癸酉六年 九月日鷹吉使より
 甲戌七年 正月推尊
 乙亥八年 丙子九年 丁丑十年
 戊寅十一年 分八月日賢天皇崩し
 天下のまゝにまゝとてあつていふいふり十月朔日垣生
 後のまゝにまゝとらむり十月推尊
 壬寅十一年 二月廿日甘瀨
 大伴金村連と大連と



巳卯 元年 武烈天皇
 大伴金村大連 物部真更大連
 即人皇の歎りて首末九の南村東侍侯の末を
 前元禄二年庚午年千八百八十七年
 春日娘子と宮内守の物部真更大連と大連と
 庚辰二年 九月山田山
 大伴金村大連 物部真更大連
 壬午四年
 癸未五年



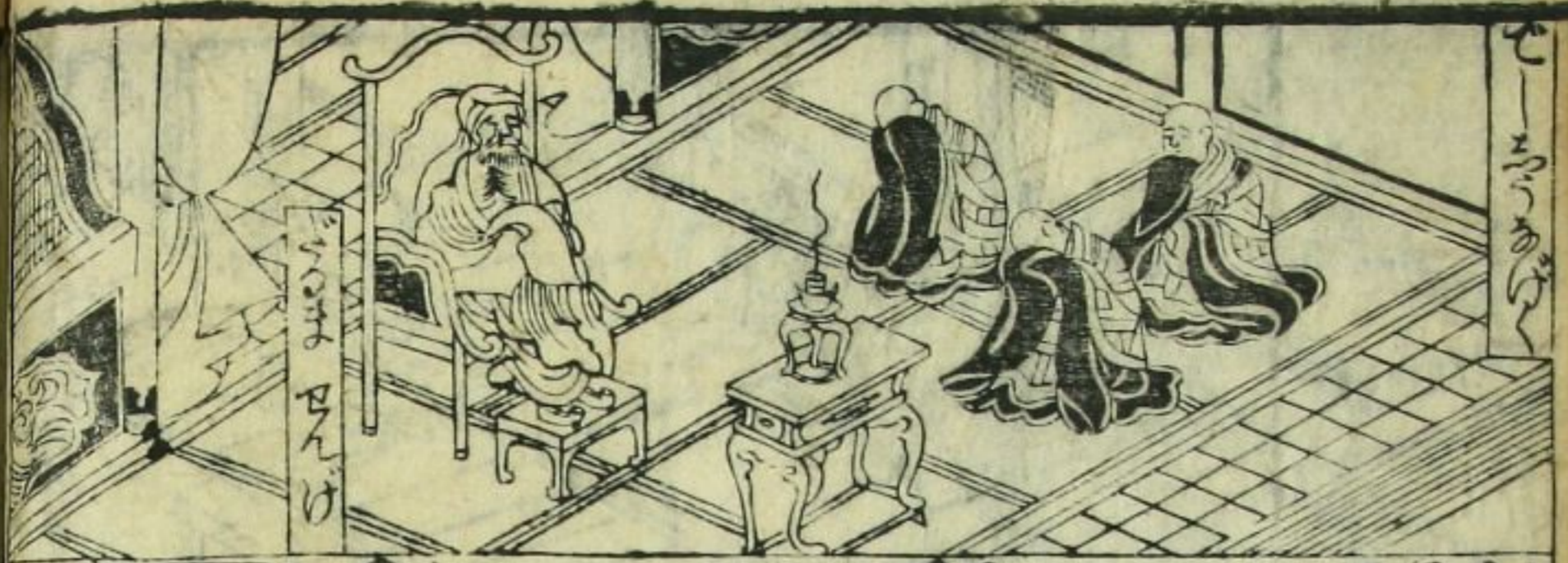
六月 天智天皇の御成婚
 甲申六年 乙未
 百濟の破れ 丙戌八年 十二月 百濟
 乙未 天智天皇の御成婚
 丙戌八年 十二月 百濟

睦羅天皇

天智天皇の御成婚
 乙未 天智天皇の御成婚
 丙戌八年 十二月 百濟
 乙未 天智天皇の御成婚
 丙戌八年 十二月 百濟

崩 天智三年 庚午 乙未
 二月 四月 男大連の御成婚
 三月 五月 皇后白香の御成婚
 丙午二年 乙未
 十月 乙未
 乙未六年
 乙未九年
 丙申十年
 丁酉十二年 乙未
 乙未九年 丙申十年
 乙未九年 丙申十年

日本書紀



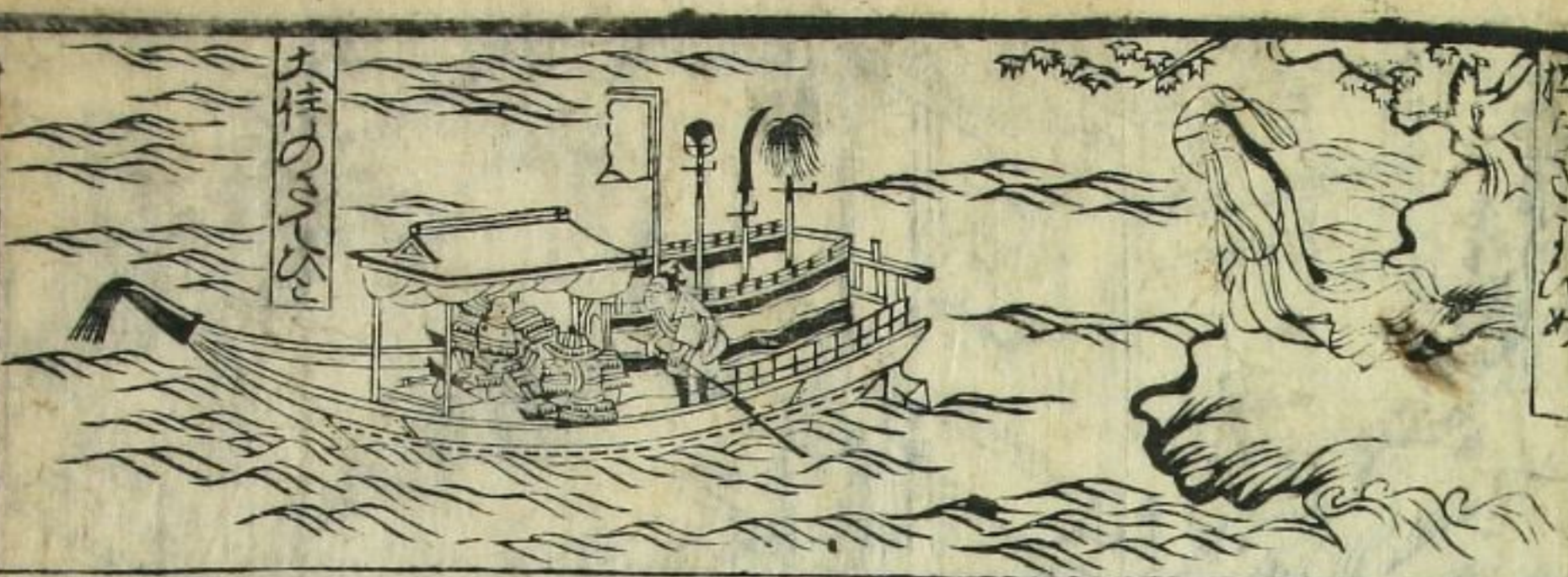
壬寅十六年
 乙巳十九年
 丁未廿二年
 戊申廿五年
 己酉廿八年
 庚戌卅一年
 辛亥卅四年
 壬子卅七年
 癸丑卅九年

梁の馬集 癸卯十七年 甲辰十九年
 九月を以て 乙未廿二年
 六月迄は 丙申廿五年
 葉紫の岩井と 丁未廿二年
 物部兼麻火 戊申廿五年
 梁武帝の大通 己酉廿八年
 十月毛野の 庚戌卅一年
 二月二日天皇 辛亥卅四年
 大兄皇子 壬子卅七年
 大兄皇子 癸丑卅九年

甲寅元年

安閑天皇

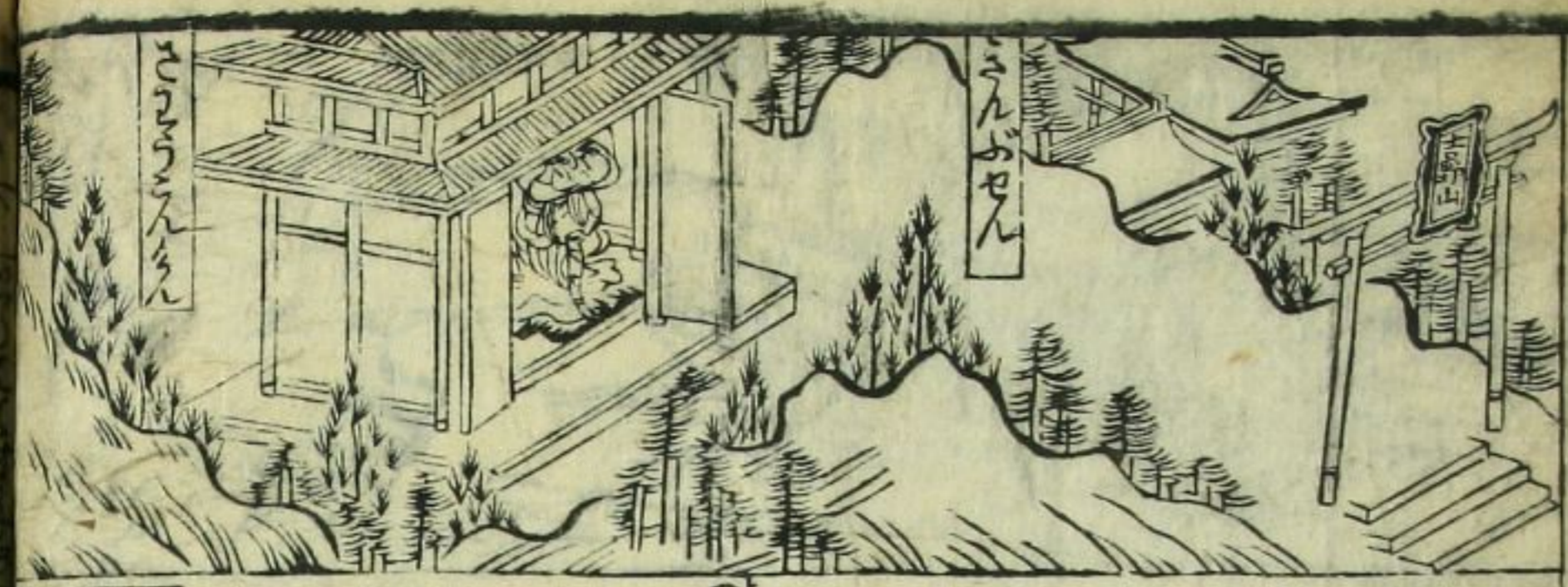
一の皇子あり 大子とわたり六十一歳にして 位は正統あり
 諱は廣公押武 皇日のまの字は
 大兄のまの字は 大兄皇子
 大兄皇子とわたり 大兄皇子とわたり



大伴のさしこ
 丙辰元年

宣化天皇

宣化天皇の御代は 皇位は正統あり
 皇位は正統あり 皇位は正統あり
 皇位は正統あり 皇位は正統あり
 皇位は正統あり 皇位は正統あり
 皇位は正統あり 皇位は正統あり



六十九歳にしてさうのふつと皇位四年 盧入文子崩す
 法公の藏とてそと糧とすく之民とすくいふの正月都
 と橋隈よりかへり盧入文子と三月八日に賢天皇の
 皇女橋仲皇女と皇辰守
 臣 大伴金村大連 蘇我稻目 大臣 阿倍大丸 大夫
 即 入皇の妹より子百九十六と梁武帝の天は二年に當
 崩 元祿三年庚午とて五百五十年はあり
 丁巳二年 戊午二年 八月大和のふりか合意
 山ノ藏王權現とあがむ 己未四年 二月十九日宣
 化天皇屋入の宮に崩し多壽七十二と十一月五日南
 之の身狭挑花の坂のふみかむりつ〇十二月五日廣庭乃
 入とくつわねつふふふ

庚申 北代 欽明天皇
 譯ハ天武排開廣庭のきと
 續齊天皇は才一ハ皇女あり



母ハ白朱白の皇女とありに賢天皇の御心むあり此一
 いて位子つと皇位卅二年 金刺宮に崩し
 臣 大伴金村大連 蘇我稻目 大臣 物部尾興 大連
 即 入皇の妹より子二百年梁武帝の天は六年はあり
 崩 元祿三年庚午とて五百四十六年はあり
 二月五日宣化天皇の皇女石姫と皇辰守七月をさと天
 和の殊殊のいふつ 金刺宮とあり
 辛酉二年 二月妃と納め壬戌三年 癸亥四年
 日本ノ使者膳臣巴提使とつと百濟(加勢にかしゆ)
 初次を寄にあひ法色に宿とつと子と虎といひこ
 かの色提使のつとそこの是の壬午とつと山に入ら
 ばといふ虎とみまらる巴提使といふれはに虎と
 とにいふ虎の女に刀とつと虎とつと虎とつと虎と
 甲子五年 大隅のふと京乃船子魯法あり



己丑年 庚寅年 三月蘇我稻目薨也。八幡
 大神豊前守佐伯麻呂安葬。辛卯年
 四月十五日天智天皇崩御。六月三日
 大津宮遷都。大津宮遷都。大津宮遷都。

敏達天皇

崩 乙未年 二月息長天皇崩御。三月
 乙未年 二月息長天皇崩御。三月
 乙未年 二月息長天皇崩御。三月

乙未年 二月息長天皇崩御。三月
 乙未年 二月息長天皇崩御。三月
 乙未年 二月息長天皇崩御。三月



即ち皇の娘りよと皇十六の陳の去塔との至徳四年當
 崩 元祿二年庚午まての百年にあり
 三月九日 藤原部の人と皇太子の皇子と大
 子守の八月天皇聖德太子に傳教經典と授けし
 客早のりつ 丁未二年 四月九日 用明帝 雙椀堂
 崩 聖德太子馬子とて守屋とせし跡見赤檜と
 帝の皇子甘瀨部の皇子と傳すつての冬 聖德太子四
 天王寺とて守屋珠伎の祈禱成就ありてあり

福のいあり 庚子九年 辛丑十年 二月 聖徳太子
 大の護持とてとて休とてとて聖
 癸卯十二年 十月百濟必り日羅とて 甲辰十三年
 九月百濟必りる像の孫勒とてとて 蘇我の皇子
 乙巳十四年 三月物部守屋佛像とてとて 難波
 の堀江とてつての八月十五日敏達帝崩 乙未十八
 年の河内河内流去りてとてとて 九月橘豊日
 子の位とてとての都と聖徳太子の池邊とてとて 雙
 椀のまゝとて
 丙午 卅代 用明天皇
 諱ハ橘豊日とてとて 乙未天
 皇崩 四年の皇子あり 卯の堅塩
 ひめつり 蘇我稻目の心とてとての在位二年にして
 雙椀とてとて 崩 あり
 臣 敏達帝の心とてとて

大凡のこま



年十言卷二

戊申 元年

崇峻天皇

講の甘瀬部の... 崇峻十五年八月... 崇峻十五年八月...

小野道子

蘇我馬子一執政

臣 蘇我馬子一執政

即 仁皇の妹のり子二百甲八年... 崇峻二年庚午...

崩 崇峻二年庚午... 二月大伴糠...

二月大伴糠... 我馬子元貞寺と云

己酉二年 七月法皇の... 八月大月...

壬子五年... 民屋と云り百戦...

馬子威と云り... 諸と云りとの...

切と云りとの... 約と云りとの...

同の... いとめ河と云り...

樹と云りとの... 癸丑 元年

推古天皇

用明帝の母のいもとのり十八と云り...

あり四十と云り... 本女帝の...

臣 聖德太子... 蘇我馬子 大臣

即 仁皇の妹のり子二百甲十三年... 崩 崇峻三年庚午...

崩 崇峻三年庚午... 崩 崇峻三年庚午...

崩 崇峻三年庚午... 崩 崇峻三年庚午...

崩 崇峻三年庚午... 崩 崇峻三年庚午...

崩 崇峻三年庚午... 崩 崇峻三年庚午...

崩 崇峻三年庚午... 崩 崇峻三年庚午...

崩 崇峻三年庚午... 崩 崇峻三年庚午...

崩 崇峻三年庚午... 崩 崇峻三年庚午...

崩 崇峻三年庚午... 崩 崇峻三年庚午...

崩 崇峻三年庚午... 崩 崇峻三年庚午...

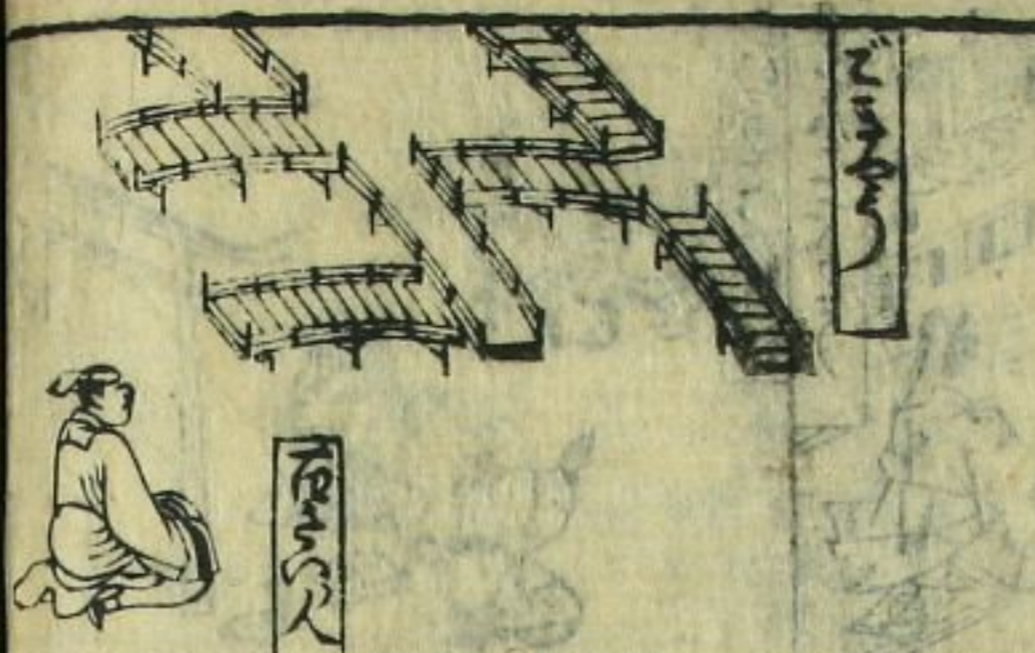
崩 崇峻三年庚午... 崩 崇峻三年庚午...



四月聖徳太子皇太子として万機の政を統べしむる
 乙未七年 四月廿七日京に地震ありて地
 乙巳五年 百濟公の皇子阿佐を遣はして
 乙卯三年 五月高麗の僧百濟の
 乙未七年 四月難波の磐石を削り
 乙卯三年 五月高麗の僧百濟の
 乙未七年 四月廿七日京に地震ありて地



辛酉九年 二月聖徳太子班鳩の舞を演じし
 丁巳五年 百濟公の皇子阿佐を遣はして
 乙卯三年 五月高麗の僧百濟の
 乙未七年 四月廿七日京に地震ありて地
 乙卯三年 五月高麗の僧百濟の
 乙未七年 四月廿七日京に地震ありて地



丁卯十五年

太子少子北百濟寺をば和列の法貴寺と
建之を又和列の明林の院とすりて和列の法隆寺と
建之を

庚辰十六年 四月小登妹子隋の皇子之
不隋の裴世清妹子に嫁すりて世清の子をなす
妹子と名づくつらつら高向玄理より入學問より
妹子に嫁すりて隋の皇子とすりて和列の法隆寺と

○聖德太子隋の南岳思大和尚のいしれりて九月
太子夢殿に入る前生不悔の法花住と名はりりて
妹子に嫁すりてその子をなすりて巴巳十七年

○九月妹子隋より入通す鞍作福利隋より傳り
て之を百濟公の衣鉢とすりて巴巳十七年

庚午十八年 三月高麗の僧より入雲紙縮紙白紙俗
紙といふもの書とすりて○高麗新羅任那の使より

太子少子北百濟寺をば和列の法貴寺と
建之を又和列の明林の院とすりて和列の法隆寺と
建之を

○九月妹子隋より入通す鞍作福利隋より傳り
て之を百濟公の衣鉢とすりて巴巳十七年

庚午十八年 三月高麗の僧より入雲紙縮紙白紙俗
紙といふもの書とすりて○高麗新羅任那の使より

太子少子北百濟寺をば和列の法貴寺と
建之を又和列の明林の院とすりて和列の法隆寺と
建之を

○九月妹子隋より入通す鞍作福利隋より傳り
て之を百濟公の衣鉢とすりて巴巳十七年

庚午十八年 三月高麗の僧より入雲紙縮紙白紙俗
紙といふもの書とすりて○高麗新羅任那の使より

太子少子北百濟寺をば和列の法貴寺と
建之を又和列の明林の院とすりて和列の法隆寺と
建之を

○九月妹子隋より入通す鞍作福利隋より傳り
て之を百濟公の衣鉢とすりて巴巳十七年

庚午十八年 三月高麗の僧より入雲紙縮紙白紙俗
紙といふもの書とすりて○高麗新羅任那の使より



丙子廿二年

○十一月高麗の僧惠意より入通す
○七月新羅より黄令傳

○九月妹子隋より入通す鞍作福利隋より傳り
て之を百濟公の衣鉢とすりて巴巳十七年

庚午十八年 三月高麗の僧より入雲紙縮紙白紙俗
紙といふもの書とすりて○高麗新羅任那の使より

太子少子北百濟寺をば和列の法貴寺と
建之を又和列の明林の院とすりて和列の法隆寺と
建之を

○九月妹子隋より入通す鞍作福利隋より傳り
て之を百濟公の衣鉢とすりて巴巳十七年

庚午十八年 三月高麗の僧より入雲紙縮紙白紙俗
紙といふもの書とすりて○高麗新羅任那の使より

太子少子北百濟寺をば和列の法貴寺と
建之を又和列の明林の院とすりて和列の法隆寺と
建之を

○九月妹子隋より入通す鞍作福利隋より傳り
て之を百濟公の衣鉢とすりて巴巳十七年

庚午十八年 三月高麗の僧より入雲紙縮紙白紙俗
紙といふもの書とすりて○高麗新羅任那の使より

あつちのついでに



あつちのついでに



あつちのついでに

あつちのついでに



年々言書

とくくく 丁丑北五年 太子和子の大安寺太子身元額
安寺と建立の六月いつこの必しり此の七と正のま
あつちのついでに 戊寅北六年 己卯北七年 四月のふらふ
浦生河は物ありさうさくまはらり浮沈してあくの指
あつちのついでに

庚辰北八年 十二月朔日赤氣天よしそらそのまけ一土
辛巳北九年 二月五日聖徳太子班鳩のまは豊と壽皇
九と一科まのまをたようじつ○新羅より表とよま
壬午北十年 二月五日と色学奇縁けりて年あころ
日高藤の傍惠皇の藤をて寂と太子惠皇学奇こ
人まふく同日同日同時よ三人命とつる人ふたよま
癸未北十一年 冬と秋と森雨うつ洪水五穀この守
甲申北十二年 四月三日芥とあててこが祖ととつるこり世
あつちのついでに

一 鞍部徳積と僧おし僧尼とあまさしと
あつちのついでに ○九月天下の僧尼と校し寺教四十六ヶ所僧
教八百十六人尼教も三百八十五人あり 乙酉北十三年
高藤の傍惠皇とあてて二論とあつちのついでに僧とあつちの
惠灌井と寺と建立を 丙戌北十四年 正月枕草子
ま○三月霜うつ○五月蘇我馬子豊と敏達の子
あつちのついでに 大臣の僧とあつちのついでに 五十五年○六月
雪うつまふ天下の氏とあつちのついでに 丁亥北十五年
二月の日のまは格あり人まはけり男とあつちのついでに女とあつちの
あつちのついでに ○五月懼あつちのついでに 十とあつちのついでに
あつちのついでに 雷とあつちのついでに 春辰とあつちのついでに
あつちのついでに 戊子北十六年
三月七日推古帝小墾田のまはあつちのついでに 一とあつちのついでに
あつちのついでに 九月十二日竹田とあつちのついでに 陵ふかあつちのついでに

三



ひかりあこし

壬寅 元年

世次

白皇極天皇

謂天豐財重日足姫の事と
謂天豐財重日足姫の事と
又皇女也云敏達帝の
曾孫茅渟王の母の吉備姫王の弟新明帝の
子の皇孫にして皇孫位はさす皇位四年は存生の
うらに位とゆつりあさうけ天皇とすといふ

臣蘇我蝦夷大臣執殺蘇我入鹿

即く皇の妹らり子百三十二年唐大元の貞觀十六年當

崩元祿三年癸丑年子甲十四年小の

五月即位○こと大和の落多なりつるこも板蓋と

○六月大よひの佛鉢の事と經とあつと

天皇南淵川より入るゝして四方とて天地より

のち大よあつと五日 癸卯二年 五月朔日

のち天皇の○二月小の百濟の客舎より火あて

す威まつりて山莊王とせし山莊王月長一と山

宮王の聖徳太子より子 甲辰二年 五月甲辰

と作紙伯と守徳は蘇我とていふと稱といふ

て宮と稱して三の宮よりとて天皇の臣才輕皇子

ひととたり新明帝の皇子仲大元皇子法興寺の樹

木の下に種とてうらみとてすてて蘇我又

子と殊とてとてとて○七月東宮富士川邊に大生

多とて巫のり樹とてとてとてとてとて

とてとてとてとてとてとてとてとて

大化 世次 孝徳天皇
 孝徳天皇 日皇の御孫又輕
 皇太子とて白皇極帝の母の
 臣中臣德足内大臣阿部倉橋麿左大臣石川麿右大臣
 即く皇の妹らり子百廿六年唐大元の貞觀十九年

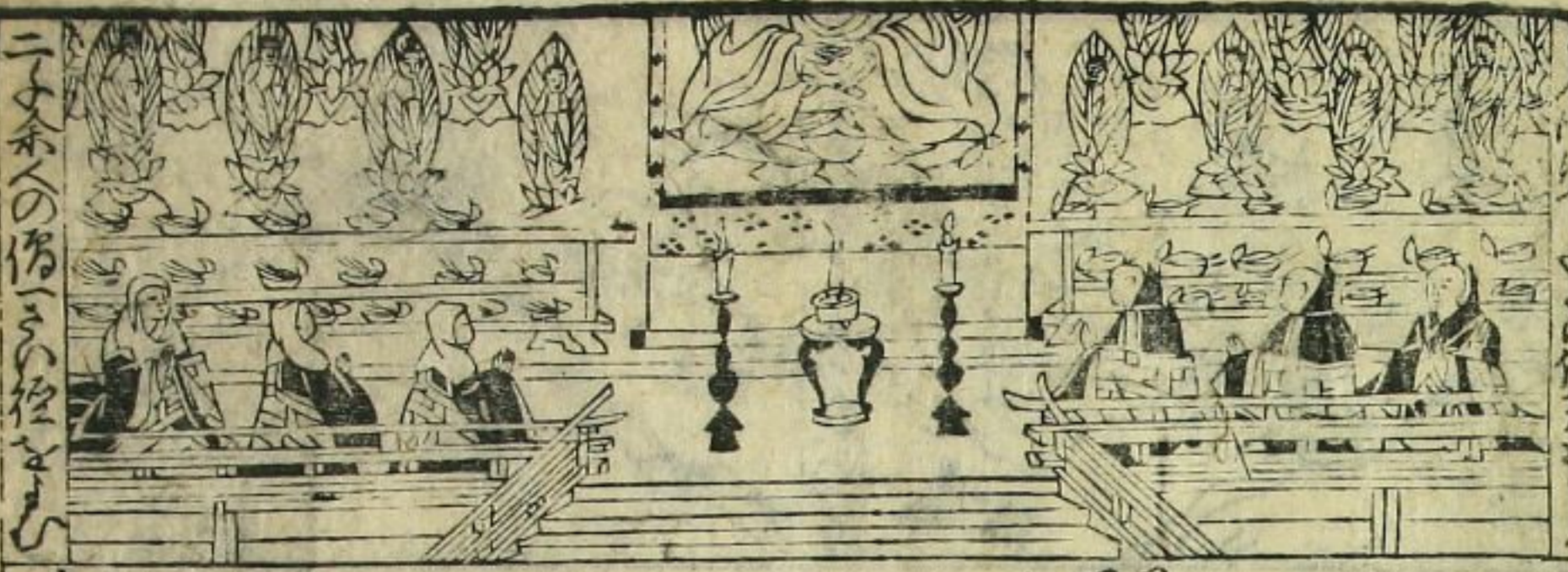


あつとあつと

あつとあつと



崩之祿三年庚午より子四十年にあり
 六月十二日大極殿小々三韓の表石川磨あたらよらぬし
 入鹿と評あはれけりとも兒小中大尾かつのめ鎌足子麻呂あしのまろいひか
 ては時小弼せきとていへ入鹿とさりともて入鹿いんろ父ちち惟
 夷これと誅ころせよとたね惟夷これよつとにれふ舊記財寶を
 奪とてとてと死しらるゆへ帝代の記録これと記しめり
 せり船中史ふねのし史天惠尺あまのあきとろくそりやけのこあふとりた
 さらして中大尾かつのめよらぬ天皇位と輕皇子にゆゆゆあきら經
 子位こゝろよつと中大尾かつのめと太子つぎ守中大尾かつのめの天智天皇の
 あり新羅帝しんらのいほり同く皇女と皇孫守鎌足小
 倉くら御冠とありて中大尾かつのめと金橋磨石川磨あたらとたたる
 大臣守大化と平号せりと進年號のとほあり○十
 二月教しんとよふの末柄すゝめまらんは豊穡とよせのさとの
 丙午二年ひのもとのふたゝ 諸事しよじ同どうして用もちとて人ひとの許ゆるすといふ○南



教しんの元具守の通照つうしやうを澄あ浄じやう乃の注ちゆ橋はしとつとま下祿二年
 といひて七と十三階の道と制せいと○十一月天皇ありゆり
 温湯ぬるまゝとて乙巳申四年おつと 桜河天王寺に靈鏡えいけいの像
 とつとま○傍へらと三韓さんかんよりつとて法はふよりとありし
 己酉五年きのとりご といひて乙卯えいぼうの朝賀あそがととあり○とて
 八省百官やくちうへんとてつと○石川磨あたらからその日向磨ひなたに終言しんげんよりい
 てとて日向磨ひなたが終しんわつとつて築つはさふとつとつと○阿
 部倉橋磨あべくらはし磨ま典てん記きす○巨勢徳こせとくと大尾おのめと大伴おほともと徳とくと衣え
 大臣おほみと守もり **庚戌自難元年**とての元戸もととより白死しろに雉けしとと
 とつとて年号と改あらひ 辛亥二年しんげい 天皇ありゆり
 豊崎とよさきの美みからつとつとつとてとつとて丈夫しやうぶの佛像ぶつざうとぬい
 子このれがとけとつとつとみ子こ餘人の僧尼そうにと内裏うちらにめ
 一ひとの經きやうとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと
 壬子二年にづこ 四月しげつより大おほいぬりてやも守もり洪水屋くわんすゐとあり



百濟の法明王の御代

百濟の法明王の御代 乙卯年 齊明天皇 皇極天皇の御代 乙卯年 齊明天皇 皇極天皇の御代

乙卯年 齊明天皇 皇極天皇の御代 乙卯年 齊明天皇 皇極天皇の御代

乙卯年 齊明天皇 皇極天皇の御代 乙卯年 齊明天皇 皇極天皇の御代

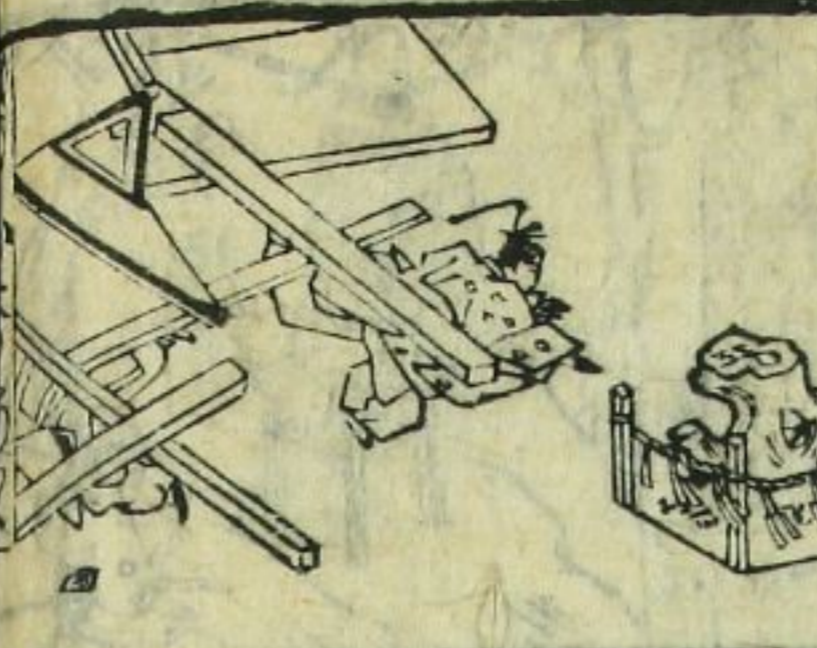
乙卯年 齊明天皇 皇極天皇の御代 乙卯年 齊明天皇 皇極天皇の御代

乙卯年 齊明天皇 皇極天皇の御代 乙卯年 齊明天皇 皇極天皇の御代

七月廿二日



神木



壬戌元年

天智天皇

天智天皇御紀の事

七月廿二日 巳未五年 七月徳山乃法... 寺に孟蘭盆經を講せしは乃の世とて... 坂合石布津寺吉祥遺棄使とす... 庚申六年 新羅より百濟を以て百濟とす... 本に質とす百濟の皇子豊璋とす... 濟とす... 蠅けらふ... 漏刺とす... 辛酉七年 春天皇百濟と... 五月神木とす... 乃國とも神木の事也... 七月廿四日天皇朝金乃... 壽四十六日月... 鬼形わ



木丸



帝乃皇子あり母天豐財重日足姫とす... 二代のあいで太子とあり齊明の七年に百濟とす... 福信、矢十方本絲五百斤綿十斤布、子端章、子法... 即、人皇の始り子、百廿二年唐高宗の純和二年は... 崩、元禄三年庚午を子北二年とす... 祢、馬の尾を子、し、藤、つ、つ、あ兆あり

壬戌元年

廿二

新羅の王は... (Small vertical text at the top right)



唐の王は... (Small vertical text at the top left of the right page)



車... (Small vertical text between the cart and the left page)



癸亥三年

新羅の王は... (Main text for the first year)

唐の王は... (Main text for the second year)

甲子二年... (Main text for the third year)

乙丑四年... (Main text for the fourth year)

丙寅五年... (Main text for the fifth year)

丁卯六年... (Main text for the sixth year)

戊辰七年... (Main text for the seventh year)

道行草薙... (Main text for the eighth year)

巴巳八年... (Main text for the ninth year)

十月... (Main text for the tenth year)

角の馬... (Main text for the eleventh year)

病... (Main text for the twelfth year)

わ... (Main text for the thirteenth year)

庚午九年... (Main text for the fourteenth year)

四月... (Main text for the fifteenth year)

卒未十年... (Main text for the sixteenth year)

兄... (Main text for the seventeenth year)

て... (Main text for the eighteenth year)

さ... (Main text for the nineteenth year)

向... (Main text for the twentieth year)

病... (Main text for the twenty-first year)

病... (Main text for the twenty-second year)

病... (Main text for the twenty-third year)

病... (Main text for the twenty-fourth year)

壬午... (Small vertical text on the far left)

ちりせんのゆり八きり



天武天皇



十二月三日

天智天皇志賀入... 天武天皇

白鹿

天武天皇

天武天皇

臣

天智天皇母... 天武天皇

崩 天武天皇

五月大友皇子... 天武天皇

二月大海人... 天武天皇

三月... 天武天皇

三月

三月

六月のやうなうきもの



六月のやうなうきもの



六月のやうなうきもの



六月のやうなうきもの



六月のやうなうきもの



六月のやうなうきもの



六月のやうなうきもの



夏四年 古星堂とてのろ 二月とめて年といせ

大津之いづみ 勅額よりて大津は清廢子依

て八幡宮とてのふれ栗本神社とてのふれ勅清を

又建初の社と勅清を 周象女神社と大和のふれ

坐し丹生神社とてのふれ 四月天御柱御柱の社と天

の平邦のこやりに法苑一花田の社とてのふれ 四月

三月十五日群臣御新とてのふれ 丙子五年

に射せし 四月朔日雨と廣田の凡社廣瀬の大忌

神領二分と神皇の知りす 十月とめて五節

の舞ひめとてのふれ 戊寅七年 八月二月八坂

の塔とてのふれ 文武峰の用山定惠和尚法相と

五葉とてのふれ 巳卯八年 天竺より移るる名

とてのふれ 大と批りて 僧尼の法眼威儀を制と

田院松茶院と南都の具福寺の境内よりのふれ

先て園所と池田のふれ 庚辰九年 正月法田村

批李とてのふれ 二月廿五日麒麟の角と葛城山よりの

六月庚とてのふれ 十一月二日の東成のけり子のけ

いづみとてのふれ 東方明とてのふれ 皇居廣野とい

る法五十二條とてのふれ 早巳十年 九月廿九日

わつらとてのふれ 此のふれ 西尾のふれとてのふれ

のふれとてのふれ 壬午十年 藤原身命

まゝとてのふれ 壬午十年 藤原身命

わつらとてのふれ 六月十一日雲とてのふれ

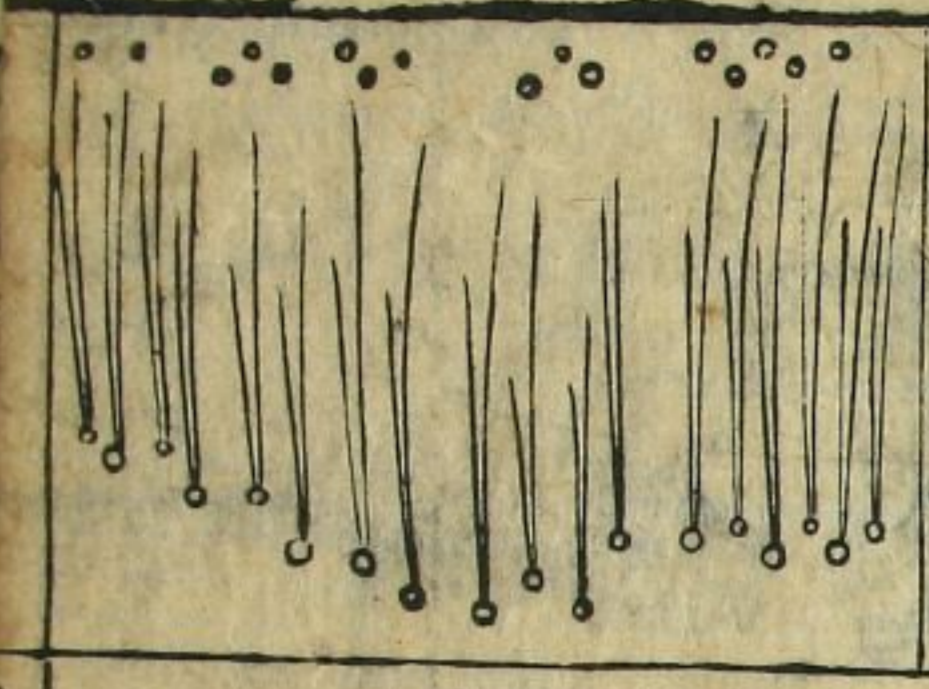
星わりの 八月廿九日大流

星わりの 八月廿九日大流

十二角のうし 丹列がね



大伴の林社にくくつ



三十一日

しり法はよるもの同月自氣ふあつた大と四圍じり
 癸未十二年 二韓の樂と庭中に表せのこしらめて津
 昨と任せの銀錢とてて洞法とらるもの法必の場
 とさとしの葬まててて鼓吹とらるもの八月大
 けいしり百済の僧表を雨といのしり即けい
 甲申十二年 丹列の十二角の積ありの男女の衣表を
 制せの十月十日大らるるつしり社佛を
 表とくくつあまの畜死とらるるわきてけいしり
 温泉とらるる土佐の田島五十万頃と油とすのほど
 のよまてとらるる 乙酉十四年 正月あり
 爵位四十八階とて先朝服と制せの清公の位あり
 の裸役とらるる法藏自木表とての二月とらるる
 に灰とりて草木とらるる八月天皇津志寺にせゆ
 十月廿二日皇の雨とらるる

草薙奴とらるるの熱田の社とての九月九月天皇津
 御糸の表と崩とての天武帝の皇子草壁皇子とての
 の才大津皇子とての

持統天皇

丁亥 元年 聖代
 智帝才二のいそありかむま智姫とての天武帝の
 とてたあり天武崩とての太子草壁皇子とて
 とけて改とての二年庚寅のしり位とて
 天皇十年位とて天皇太孫とて
 臣 高市皇子とて大臣丹比島 若大佐
 即 入皇の娘とての三皇十七を唐中とての嗣聖四年に當
 前 天保三年庚午とての百九十八年あり
 西月天皇の表と新羅とての天皇の御衣と表

三十一日

三十一日

子いめと夫人と

戊戌三年

相良と律師補

日座のどの日北の次○二月之具の長性と律師補

と○山々の相良の女あり一室より二男四女あり

己亥三年 役小角をまゝ高塚のまゝとて神術と

よめて鬼神とて韓國廣足とてその子ありて

その術ありていさぐあや一たやにくくをゆぐ守る

まろよとてまろよのつらつらとて小角と伴臣の流

と世は役行者とて○錢と傳日とて 庚子四年

之具寺の道徳寂を遺言して火葬にせしむ火葬の

とてのこ○藤原不比等律六卷令十一卷と撰む

辛丑天寶元年四月朔日天皇大極殿より出御あり百官の朝

賀とて○大寶と改えとて是よりさだ年号とて○大

一対の瑞きりて考やまより中絶あり大寶より律

とて年号とていりて年号の始とす○大伴御行平

右大臣とてりまゝとて皇孫とていりて○二月丁巳の日

孔子と大学寮とつらとてと釋奠と云○とてりて庚

申と天王寺にあり○五月栗田真人と遺唐使とす○

七月左大臣多治比呂真人薨とて九月紀伊の温泉

にいゆ人九弁と録と○九月大市姫命とまゝ横須

賀とあり○秦都理とてりて松尾の南敷と遠望と

太山昨神市杵の神とあり○藤原の皇子あり聖武

帝とあり 壬寅二年 二月紀伊名草の初と伴骨

太神の社とあり○清心錢體とてりては蘇の山と

といく○四月飛騨にあり神馬とてりて志ねのくに

より梓弓千張とてりて又甲斐の必より五百法とてり

○十月持統天皇を河内此にありとてり十一月和列子還幸

十二月十日崩とあり 癸卯三年 四月天皇御統

帝のふりに朝禮とありて蘇とてり○刑部親王とてり

三十九年

天王寺

天王寺

天王寺

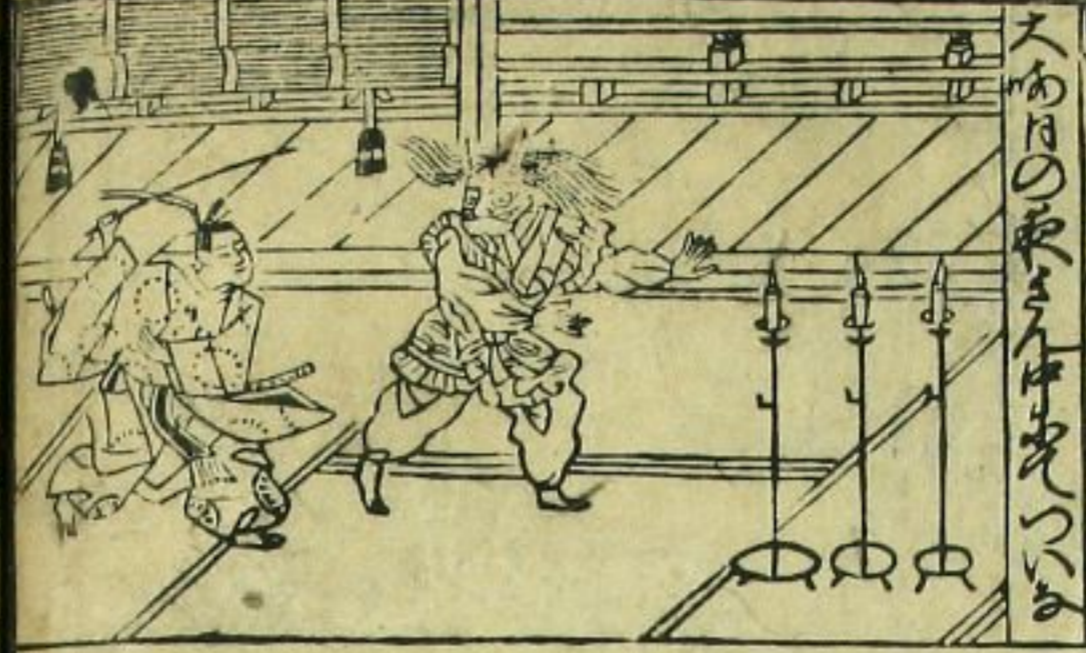
天王寺

天王寺

天王寺



一頭三面の鬼あり



一頭三面の鬼あり
もろこ八丈
よこ一丈二尺わり



官よりさるる

四月阿波御主
○五月五日の雲ありり
○異心をも
○十二月
○十一月
○十月
○九月
○八月
○七月
○六月
○五月
○四月
○三月
○二月
○一月

五月衣冠編米と詐幣形見御部が良に
あまは兩人百濟の加勢ありて唐に唐に
あまは早餘年粟田真人よとてて既朝と○六月
十五日文武帝崩一の壽廿五と○同廿三日大地一
一頭三面の鬼ありり高と八丈と一丈二尺○七月遺流
ひめて帝の母阿内皇女倭す一とあり皇子は幼稚あり
よてて○十一月文武帝と檜隈安古山の陵に葬す

元明天皇

阿内皇女と云天智帝の皇女あり草壁皇太子の
とれた文武帝の母あり母は赤我姫といふ川原に
とあり文武帝のゆかりをけて信すつとあり
徳七年位と氷高内親且よゆづりあり
臣 不比等 在大臣

このまはり



即天皇の御り子二百十八の御中々の元正二年に當

崩 元祿二年庚午すて九百九十八年ひあり

春いとしれぬもせしめて秋の御事ごとくして秋の御事

改えし三月の上麻呂と大田原と不比等と大田原と

次○安房仲磨いしまの○そしめて銀錢御錢とつゝの○

天皇の御り子の岡田の離えすえゆき 己酉二年

二月はくしの親世青寺とつゝの三月はくしの山の夷

そしつて御軍とつゝして平く○四月素良魚河とつゝの

松尾の社の寺復職とつゝの五月新羅の使令信福

さしつて貢とつゝの○紀原姫光仁帝とつゝの

庚戌年 三月とつゝの大和の素良はくしの素良

とつゝの不比等南都の具福寺とつゝの 辛亥四年

二月山とつゝの紀原の御子宿荷大御神とつゝの○大安

陸奥とつゝの○清原子史

生とつゝの○丹波のふりつとつゝの○癸丑六年

丹波とつゝの丹波とつゝの信前とつゝの表化とつゝの日向と

とつゝの大隅とつゝの日本の凡土紀とつゝの○そしつて

本曾用道とつゝの○磯原の法務寺とつゝの

甲寅七年 大和の御子孝ひとつゝの二人ありとつゝの

とつゝの六月廿五日ぬ武峰の用山とつゝの○出羽の御子

とつゝの○紀清人國史とつゝの

元正天皇 女 諱は日本根子高瑞淨足

壁太子のひしりの文武帝の姉あり御母元正天皇の御

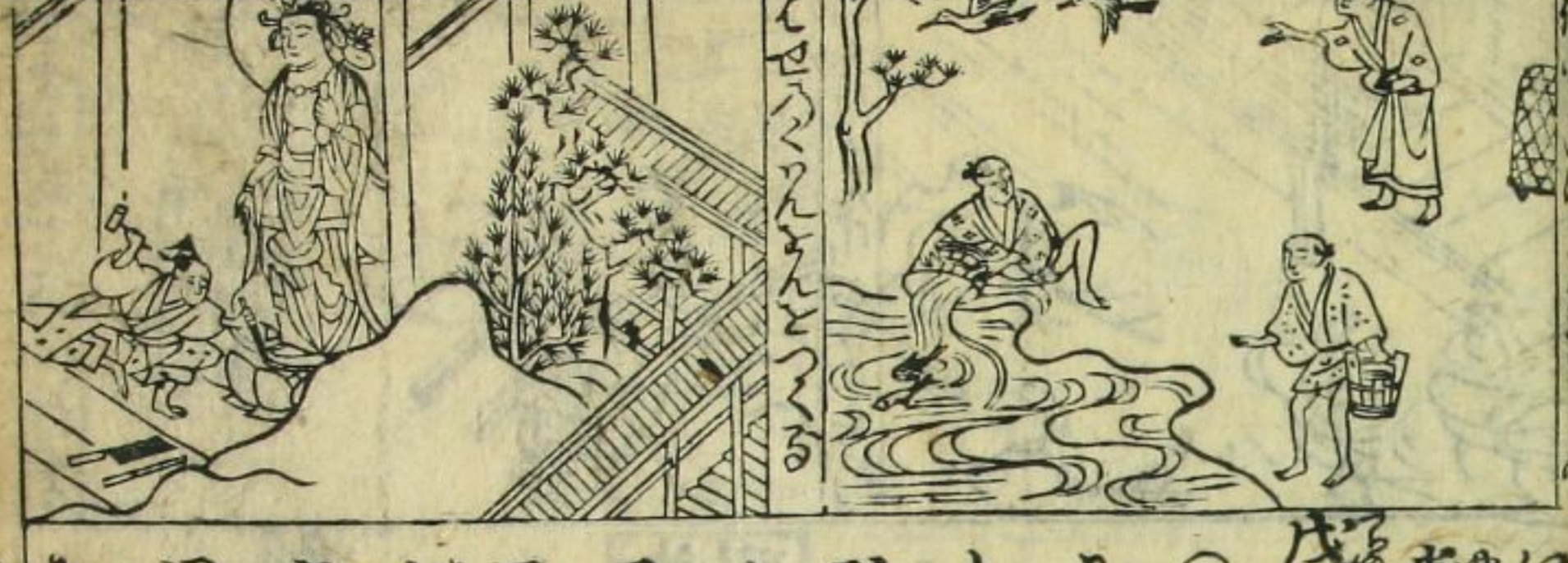
とつゝの位とつゝの御位十年とつゝの太子にゆづり

臣 舍人親王執政左大臣元正天皇の御子





元正天皇の御幸



即ち天皇の御幸り子百七十八歳を去るの元正天皇の御幸り

崩 元禄二年 庚午 まで九百十六年八月

九月三日水高皇女即位 元禄職する皇太后とて
て靈龜と改えし

九月九日とていづの公事ありしその事高麗船とていづの

八月多治比縣守と遣唐使守 高麗船とていづの公事ありし

下道真備 高麗船とていづの公事ありしその事高麗船とていづの

三月元正天皇の御幸り子百七十八歳を去るの元正天皇の御幸り

飯朝 奉澄法師白出の御幸り 九月の御幸り 必當者郡

多度山は泉とたつた泉の泉にさかすあつていづの

らへの皮膚ありしとていづの御幸り 又痛むとていづの

さらぬとていづの御幸り 又痛むとていづの

とていづの御幸り 又痛むとていづの

とていづの御幸り 又痛むとていづの

とていづの御幸り 又痛むとていづの

とていづの御幸り 又痛むとていづの

とていづの御幸り 又痛むとていづの

とていづの御幸り 又痛むとていづの

とていづの御幸り 又痛むとていづの

とていづの御幸り 又痛むとていづの

とていづの御幸り 又痛むとていづの

とていづの御幸り 又痛むとていづの

とていづの御幸り 又痛むとていづの

とていづの御幸り 又痛むとていづの

とていづの御幸り 又痛むとていづの

とていづの御幸り 又痛むとていづの

とていづの御幸り 又痛むとていづの

とていづの御幸り 又痛むとていづの

とていづの御幸り 又痛むとていづの

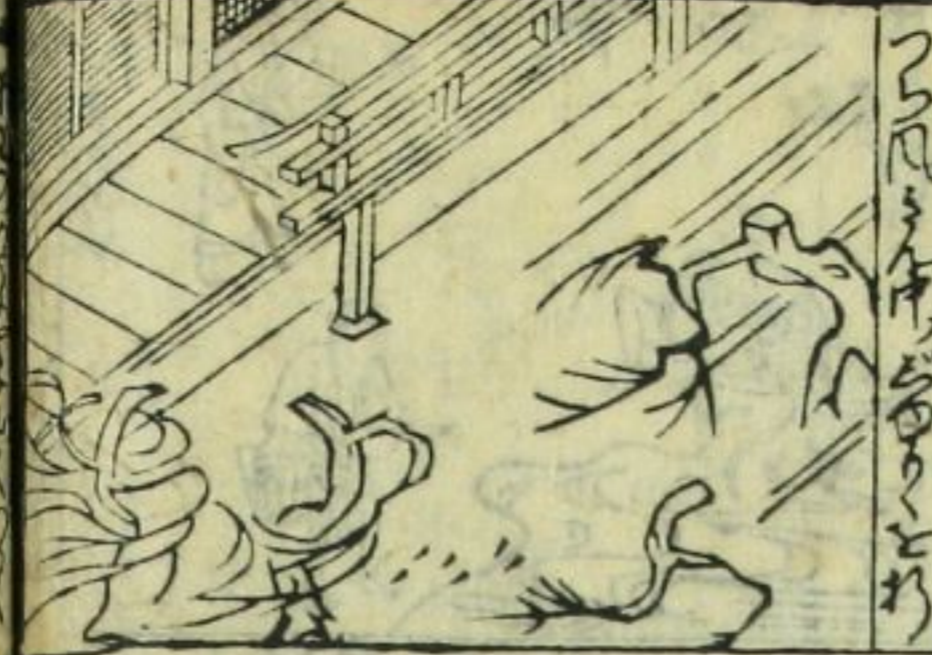
元正天皇の御幸り

元正天皇の御幸り

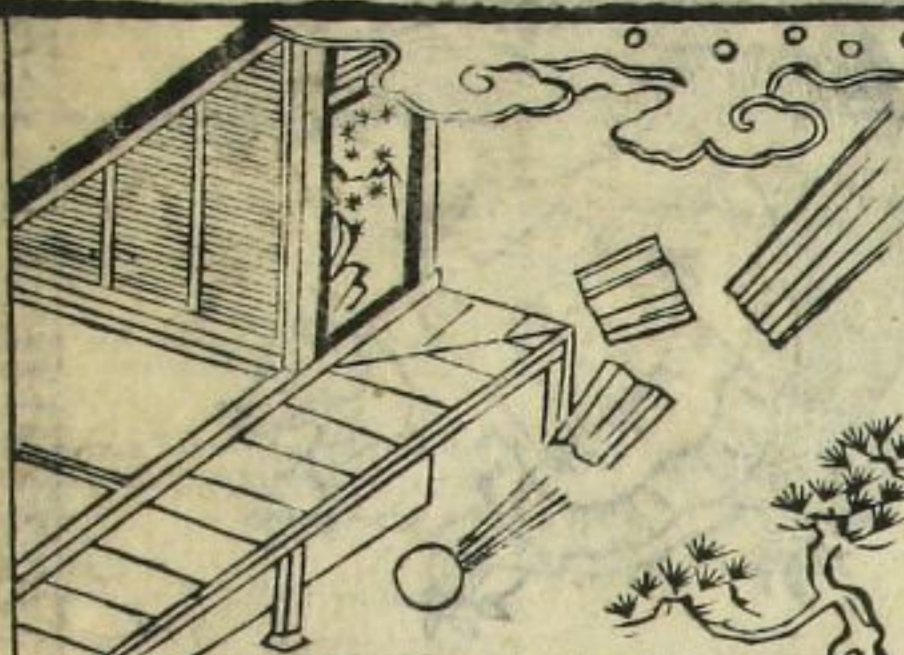
天皇御宇の御事



天皇御宇の御事



天皇御宇の御事



天皇御宇の御事

す○長生のくえん入像とつゝる○九月十一日しめて
 伊勢の幣とつゝる○十二月之卯太上天皇崩じ壽六十一
 至成六年 夜来魚名じまう○しめて女醫しとせと
 紀朝臣廢とらと龜とさくく
 癸亥七年

聖武天皇

神龜 聖武天皇の御事
 母、藤原の美子いめと不比等いしとめあり元明の初
 紀七年に十四といと太子にすらしとらふのたは北四といめて位
 につとめい五位北五年位とら女高麗姫よゆつりあ

臣 橘諸兄 右大臣 務不豊成 右大臣
 即 入皇の姫もま子三百八十五年 唐玄宗開今二年 當

崩 元祿二自庚午すて九百八十一年にあり
 正 月元正帝位と大いゆづりあ大と天皇とすうり八〇二

月四日豊楳度のす即位○長屋王とた大長門と任と○
 十月紀河海部の約と長通いめと勅傳して玉津の

休まのい○この月天皇玉体病よんゆとさくくしれし御
 ゆらん○二月十八日人唐書と

十一月朔日天皇大極殿とて文と至の賀とく○耳子唐
 天皇御事 丙寅二年 天皇不豫よとて致書と

○行基山とたの橋とほろ下卯四年 三月大和の谷
 寺とくゆの○五月北日橋波の池とらら風とらて南

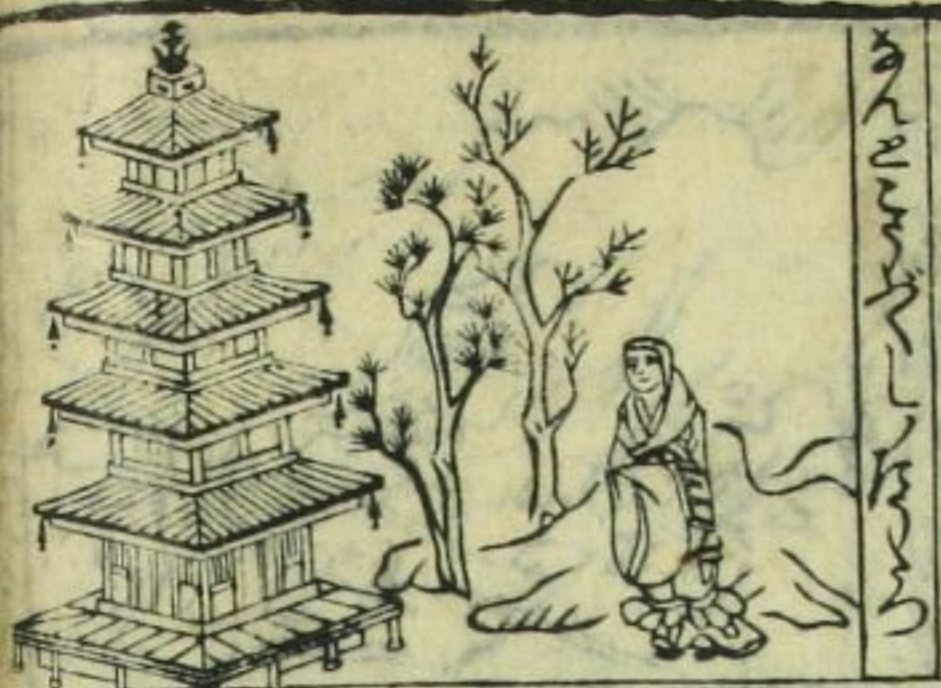
苑の樹木二軒とらと家○同日安房入と沢山とら
 百姓七十余人死と

戊辰五年 渤海公とら使
 とらうて貢とさくく○九月流星とらと二丈とらり四

乙巳天平 年 正月長屋王
 ひやんすあつして自長屋王の文武の孫高市を子

の子あり○八月侯と不比等のいとめ光朝子とる辰

天皇御宇の御事



寺○背に天王貴平知百平の七子と云ふ龜とて
 庚午二年 五月百良仁義禮智信入つとてしめ
 て物とす○二月大寺寮に先聖とすりしとせし祿
 寺○四月藤原院とてて民のあふとのと云ふ○南
 都具福寺の塔と草創を○松尾の社と大社の御社
 草創三年 雅樂寮とてしめ○紀引の清水あふて血
 のとて五月とてやい 壬申四年 新羅より貢
 とてて○夏大よひどり五こくとの次○八月大凡○あ
 作比廣成と遣唐使とす 癸酉五年 大炊尊ひし
 とて法路癸帝あり○二宮明神出現○七月孟蘭盆
 會の供物とてあふ御守甲戌六年 正月光明皇后
 具涌寺の西合堂と遣唐使と○藤原武行唐と大凡
 とす不比等の去男あり○四月地震とて地さく
 乙亥七年 二月遣唐使多作比廣成唐の玄宗白皇帝

にまゝて飯朝とてこのとて去徳大臣玄物清の廣成とて
 とてて飯朝とて同月十八日吉備大臣飯朝の海次とて
 因の必廣降ゆして午頭天皇にあり○新田とて子豊と
 ○夏もとていひて歌皇とて民とて死と○十
 一月十四日一と去人親と豊とて年六十太政大臣とて
 丙午八年 南天竺の僧佛持来朝とてとてと豊擬清
 心とて○葛城とて橋姓とてあり名と清とてあり
 橋氏の祖と○華嚴宗の祖道璠律師唐よりとて
 丁丑九年 高野新笠娘山部親王とてとてとと
 桓武帝とて○四月藤原房前 五十七 七月藤原房前 四十三
 八月武智實語 八月藤原房前 四十三 八月藤原房前 四十三
 疱瘡とて豊とて四人の兄弟とてね不比等の子あり○
 諸王と園分寺とて 戊寅年 五月皇女阿蘇
 親王と太子とての春徳天皇とてとて○橋清兄と大臣



己卯十一年 清和國分尼寺とて
 八月廿六の子孫末廣嗣音備大臣と玄物清心
 板櫃河を以て官軍とてついでに松浦を以て度嗣
 八月廿六の子孫末廣嗣音備大臣と玄物清心
 板櫃河を以て官軍とてついでに松浦を以て度嗣
 八月廿六の子孫末廣嗣音備大臣と玄物清心
 板櫃河を以て官軍とてついでに松浦を以て度嗣

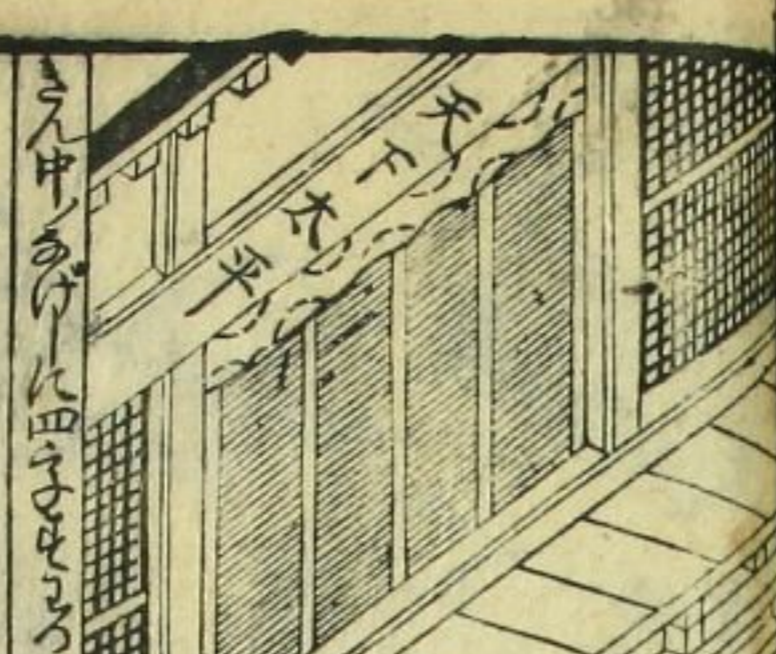


二月廿二日揚子とて
 十一月天竺とて
 行基のほろろ盧舎那佛の像と紫香の寺と
 乙酉十七年



己卯十八年 玄物清心不義の
 廣嗣とて

つ列村大のへどあす



ぐまらえとみはらふらと

白生帝命百子

釈るゆらつらも七五午○二月廿五日波安羅川清公選

化○四月九日東大寺の大佛開眼供養天皇皇仁ゆき

癸巳五斗 光刀皇后法華滅心寺と建立大お良よら

○九月五日抄列御津村の湖水わさく氏屋五百六十

四けんか心 甲午六年 正月遣唐使大伴古磨吉海

眞備飯朝と藤原清河の唐にゆりてく次この時

唐の鑑真和尚佛舎利三子粒せりて遣唐使よと

鑑真東大寺の戒壇とくはく○石山寺の○八月凡

水民ぞつろ 乙未七年 あまの必も白鳥とくく

丙申八年 二月橘諸兄官職と辞と○五月二日聖武

太上天皇崩と壽五十六の依保山のをさたよむじり

天皇御在位のるもまて佛法とてと御節とが法

道祖王とてく太子とす 丁酉天平癸字禁裏の宮

の美塵のうら天下太平の四字とのづら生と又とら

のふらり皇帝命百年とのふまよるに蚕とくくつて

天平癸字と夜とて橘諸兄薨と七十四の井の大匠

と号と○三月太子道祖とてと太子とてんくみ

四月藤原仲麻呂とてめいゆて大炊と太子とせつる

と天武の孫舎人親王の子あり○五月仲麻呂紫微内

相とら官とつげらつらつて檢威つら兄の在大臣豊

成と不和あり橘諸兄の子奈良磨はよとの仲麻呂

威とつらつとつらと大伴古磨とつらひ仲麻呂と

道祖王とつらとてんとすつらわつられて道祖王と

ひよ奈良磨とつら豊成の流飛やつら

戊戌二年 大和のふまはわり藤原根とつらと字と



大炊の精鹿のさびしきとありしと申す所の八月天皇位
と大炊のさびしきゆづりて高祖天皇と号す

二年 甲子 淡路廢帝

譚ハ大炊のさびしき天武の孫
舎人親王の弟七上皇子

母ハ山背上皇弟當麻老弓の女あり天平五年
年ハ大子となり二年八月よゆづりて即位す
在位六年孝徳帝と不承るにゆづりて淡路のまよ
廢號しちち淡路よて崩す

臣 藤原惠美押勝 大師 執政 仲磨より
即ハ皇の姪なり百廿九年唐肅宗の乾元二年にあり

崩元祿三年庚午まで九百四十六年にあり
鑑真和尚招提寺と建す六月舎人親王と追号す

崇道盡教皇帝とあづい深草山にありと崩す
神祇にあり庚子四年 正月あづい押勝ハ大炊の

位すづけし大炊大政大臣あり良弁僧正は位す
三月萬年通寶大平元寶の儀とあり六月元

月皇太后崩す六十月ハ八月不比等ハ近江十二郡と
封して淡海と守淡海ハ近江のゆあり又武智郡と

府前ハ大政大臣とあり 辛丑五年 十月とあり
江の必保良のつらりと 壬寅六年 正月戒壇を

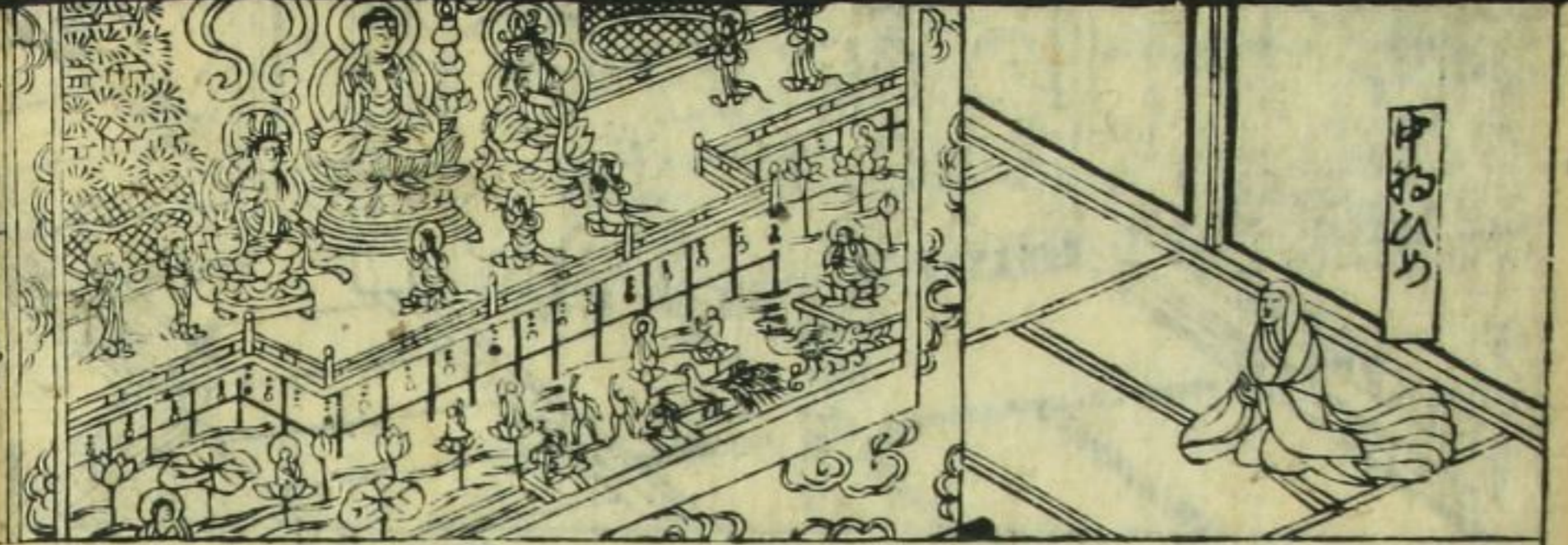
業師寺觀音寺にあり二月押勝ハ正一位とあり
弓削道鏡とあり僧孝徳帝ハそむらとあり

てすわいありてハ天皇とありとありとあり
ゆづりて二帝ハ中不和ありけしハ孝徳保良のまよ

より奈良よとの天皇と又奈良ハそのまよら孝徳の
かりとあり法律と法基とありとありとあり

母のこよれとありそのおれより當今に位す
癸卯七年 五月五日唐の鑑真和尚寂すハ月幣奉

年ハ記年三



心の法法神神ははままききぐぐ又又雨雨ととうう物物のの丹丹生生のの社社ははいいののつつのの六
 月月廿廿日日當當麻麻入入曼曼陀陀羅羅のの像像女女抗抗 ○高高藤藤入入使使王王新
 福福とといいてて貢貢とといいぐぐ 甲甲辰辰八八年年 九九月月押押勝勝心
 官官軍軍江江引引高高崎崎二二尾尾崎崎にに合合然然一一押押勝勝敗敗軍軍
 之之在在村村々々とといいのの押押勝勝とといいけけりり切切とといい首首と
 京京都都子子とといい天天皇皇ははああららびび道道祖祖王王のの名名塩塩燒燒王王のの押押
 焼焼とといいてて十十月月孝孝德德帝帝とといい位位とといいささららうう削
 道道鏡鏡法法師師にに大大臣臣禪禪師師入入号号とといいふ

天平
神護
甲代

稱徳天皇

孝徳帝とてい位とていありあり
号ありき名の帝たえ

臣弓削道鏡 奏大臣 藤原永手 左大臣 吉備 吉備 左大臣
 即天皇の姦りよは百廿六年唐代宗の永泰元年に南
 崩 元年 庚午 九百四十年にあり

廢帝あいらの高徳に崩せ壽廿二の十月弓削道
 鏡鏡大政大臣大政大臣禪師禪師とていぐとていぐ十一月横佩横佩右大臣右大臣眞成

薨薨とてい六十三の西大寺西大寺なり 丙午二年 四月永手永手と右
 大臣大臣眞成眞成と大納言大納言小任小任とてい十月道鏡道鏡禪師禪師に法王法王の位

とていぐ永手永手と右大臣右大臣とてい備備と右大臣右大臣寺寺とてい備備と右大臣右大臣

神護景雲

元年 二月天皇天皇大宇大宇察察にて釈奠釈奠

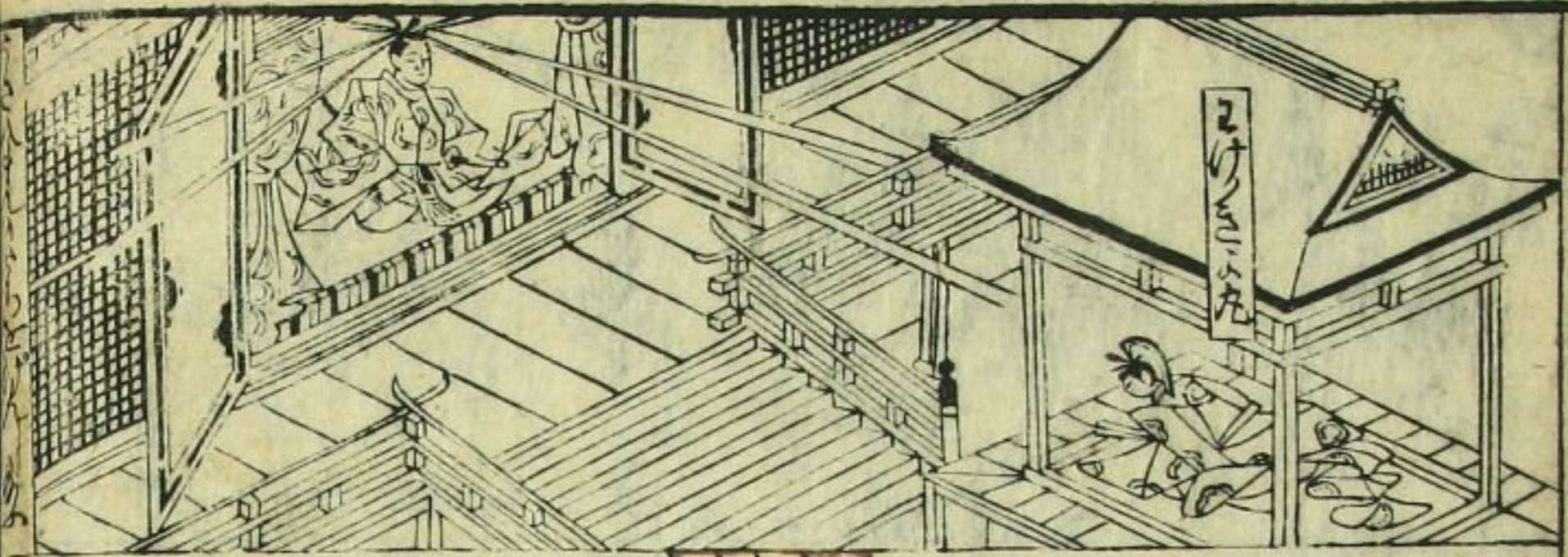
○二月白山白山の岡山岡山越智越智泰澄泰澄叙叙とてい最澄最澄ひたり○七月
 釋勝釋勝道道とていめて下野下野の必必二荒山荒山とていく空海空海也也の

乃乃う月月光光ぬと祿祿とてい 戊申二年 七月孔子孔子と進

乃乃のんて支宣支宣とていと遷遷とてい○式部式部共共給給子子勢勢とてい○十月九

日日六月六月の神社神社と大和大和乃乃三山三山とてい山山乃乃つとてい 巳酉二年
 五月五月天皇天皇のいしと不破不破同親同親王王の塩燒塩燒王王の妻妻あり塩燒
 とていされて乃乃らその子氷氷上上志計志計志麻志麻比比呂呂命命天天皇皇とてい

乃乃らひまろりありはまろり内親内親王王の系系中中とていひ出出され志計志計



志磨の土佐乃公あがらう九月天皇位と道徳子ゆづらん
 二のひまると神皇とあそし和氣清磨と勅使して
 けりれり依依懐子つけり清磨既洛して神皇にり
 みるのうと奏すも道徳へりて清磨が足のとら
 たりて大隅よみかひの十月史記前後漢書之風志昔
 書と太宰府の學校よみ

寶龜
 庚戌

光仁天皇

神皇自聖王より天智帝は強
 於基皇子才六のふあり母

紀椋姫より賜大政大臣清人のいともあり耶々良
 稱徳の朝よりて大納言に任じ神護景雲の年に六
 十二といひて位ははさる位十二年位と山形松尾の裏
 臣 藤原魚名 左大臣 大中臣清磨 右大臣 藤原良継 四大臣
 即 入皇の姫より百廿一年庚辰代の大曆五年のころ
 前 元禄三年庚午より九百廿五年のころ



二月稱徳帝のららの由奏の美公のゆより道徳わを
 一は食物とまじ四月帝還御六月帝不御八月四月に
 稱徳帝のらと壽五十五といふ十月藤原永手吉備大
 臣の自聖王より位ははさる位十二年位と山形松尾の裏
 境と下野のふにあり業師寺の別當とす先帝御意
 少元ゆえに位とゆす〇和氣清磨より之と〇永手に
 正一位とさつ〇紀引粉川寺と建之と〇天皇乃又旅
 基皇子とまじり田原天皇と遷り〇辛亥二年
 二月大匠永手費と年五十八淡海云の練房前の子こ
 二月衣大臣吉備真伎致仕大中臣清麻呂と右大臣守
 藤原良継と内長とす〇備公は瘦弱とす〇
 〇星西南にまつて雷のう〇十一月大嘗會と行
 壬子二年 渤海公の使者壹万福とす〇貢の
 〇三月十禪師とす〇道徳死して庶人の礼と

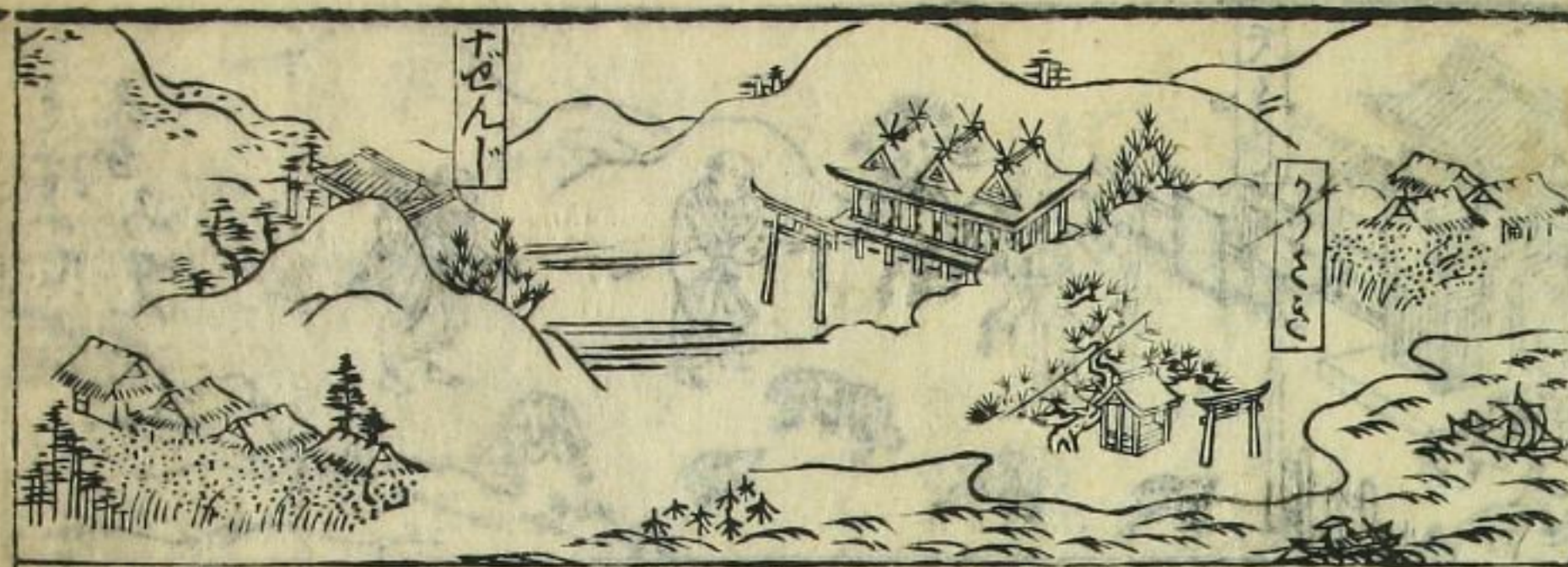


のりてかりしり。八月天皇難波門親王の皇子と申す。... 大凡木と云ふは屋とていふと下は川濱もいふ... 癸丑四年 僧の位階とつねの位階に唯ぞ。十一月十... 六月良弁僧の寂也。 甲寅五年 二月二日めて... 佛名を修せり。四月天下に疫病あり。空海は... 高尾の神護寺と建すと。太子のまこと... 乙午漏さるのきとす。平塚天皇の... 乙卯年 四月十四日中ね姫薨と横佩大臣豊成の... いとりのり年九... 舟生川の禰野の法神に... 乙卯年 十一月法... 乙卯年 十二月... 乙卯年 十二月... 乙卯年 十二月...

乙卯年 四月十四日中ね姫薨と横佩大臣豊成の... いとりのり年九... 舟生川の禰野の法神に... 乙卯年 十一月法... 乙卯年 十二月... 乙卯年 十二月... 乙卯年 十二月... 乙卯年 十二月... 乙卯年 十二月... 乙卯年 十二月... 乙卯年 十二月... 乙卯年 十二月...



○三月入らぬに伊波岩廢社とて按察使紀廣
 純とて○京中の諸寺に雷火あり 辛酉天慶元年
 二月米十萬石と興引よつて共糧寺○三月天皇不
 御○四月位と山を親王にゆづりあり○六月中臣清賢
 はと致も内大臣藤原兼名と大長守○八月小豆磨
 紀古佐美等わりの吏とたりて官位俸祿
 とす大伴登直の年四十九にて薨とひつゝ○釋慶
 俊わとて用く○土師有孫道長に菅原の姓とす
 十二月廿二日光仁帝崩す○壽七十三の廣文の陵は
 延曆 壬戌 桓武天皇
 諱日本根子皇統玠照の
 名とす又山部親王の
 先仁帝才一乃皇子あり母高野新笠姫又高野
 継のひとり廢皇四年に北七人して太子とたり天
 慶元年九月十六日位つとす○位北五の平安
 の天子崩す○神皇正統記と太子にてす
 臣 藤原繼縄 在大長 神王 大御言 紀古佐美 中御言
 即 入皇の娘より又皇學文唐徳承の途中三年に當
 崩 元祿二年庚午本天慶三年にあり



國に月塩焼且乃水と川継ひつらんありあり
 継ひつ川のふたぎれ母の不破日親とわらのあかき
 ○五月元佐八幡の神徳より大菩薩と稱す○六月
 大長魚衣つとわりてつくしにありて藤原田磨と
 在大長守 癸亥二年 正月十六日變廢柁のてと近
 江の志賀の郡ひえの山のかりに紀向しす十禪師と
 わがひ○三月廿二日在大長守藤原田磨薨す六十二の
 七月藤原是と在大長守○十月天皇と交登に薨り
 甲子二年 正月惶根のてとわたりえと入るひえの山
 乃より紀向しす三の美とわがひ 五月七日墓二三

辛酉天慶元年

五月七日墓二三

ふははかして
のまうま



万ある津より天王寺にあつり合我の六月山より乃
必己訓の初去也都より乃のふ七月山崎の橋と氏
くふの十一月天皇若君の都にえぬふ賀茂村には
幣とさげく遷都のふとさる
乙丑四年

南都の定額寺と建まると八月天皇若君へえぬと
るは乃の早良親と若末種継に遺恨をいんで
大伴継人大伴竹良とて種継とをころさし天皇は
さしんをさく早良太子とわいらのふよあが継人竹良
と切ころを十月太子断食して道に死をそのら太
子の悲心靈とてささぐりて崇道天皇とて登とつ

十月安敏親と天子寺丙寅五年 正月七日坂上
野田養平とて年五十九田村養の又ありのあふとの梵
寺と草創とて高倉親とありふは坂家のんこと
とんじや丁卯六年 典子若君より新修本草

とありの十月安敏は乙未辰七年 正月太子安敏
親とえ張の二月百川が子緒嗣ありてえ張とひとれ
に十五の七月大中臣清原養年八十八〇釋最
澄とて比般山延曆寺といへく根本中堂と建ま
と最澄のらに信濃大伴といふ〇空海東に八の十二月
わ列乃夷賊をさ 己巳八年 去十月より

四月さくあつて佛神といふとと後と〇若末孫子
大伴さくあつてと淳和帝といふ〇清原の愛とと
〇奥列の夷賊は信軍とらさる〇之ふと牧と種言
とさる〇若末是と若末と年六十三武智養が孫あり
庚午九年 二月奥列をさるがらに扶胃の子九百枚とつ

くさる〇二月若末種継衣大に任ぜ〇夏若内太子
ひどり月とさる〇八月はく一饑饉と八百九子余人子
物さる〇疫と病とさる〇人さる〇若末十年

壬午年

八月廿一日壬午の事



いんげんのたね
とんこをたねにおよ
ぼる



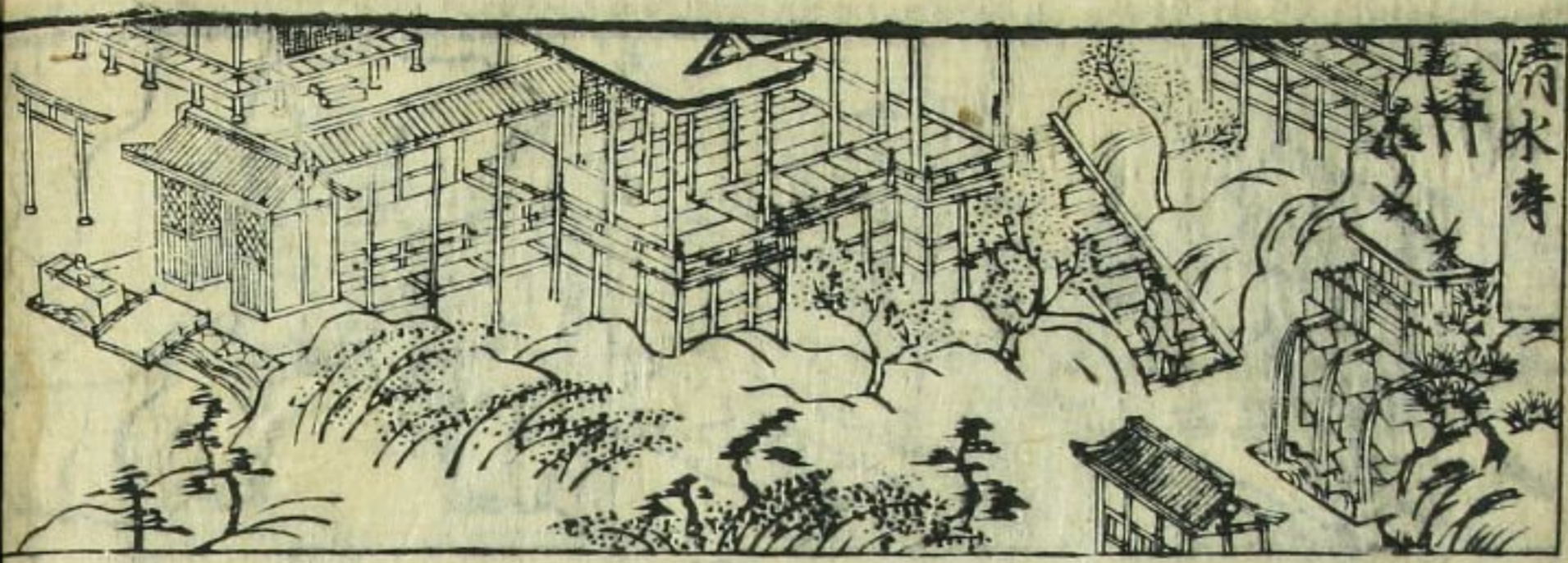
東寺



全十言卷三

四月申の申れ日とて日吉七社の事とありて
月大伴茅齋叔と田村齋百濟と後哲とて奥州のぞく
徒とありていひ○八月五日ぬそ人伴舟内入の齋殿
とありて寶物とありて御神絆の後えんで枚の
木よりわたり申十一年漢音とありていひ○東
山より人とありていひとて極小と都の事ありてい
ひてあり 癸酉十二年 正月藤原小黒齋紀古佐
僧賢傑等とありていひて山城の公高野村大村の地
とありていひこの地より裏とありていひ○六月清公よか
て内裏の法門とありていひ○九月斐原真備教東葛
野齋と齋都小けりていひていひ○女王とありていひ
とありていひ○癸亥氏とありていひ○女王とありていひ
甲戌十二年 十月葛野の内裏成統とありていひ○天智
表にありていひ平安表とありていひ○百王不易の事と

ていひ八咫とありていひ○天智とありていひ○甲冑とありて
鉄の弓矢とありていひ○世に傳の事清和とありていひ
東山の上とありていひ西いまたいひ今のお軍塚とあり
天下に變あるとありていひ○洛陽とありていひ○洛陽
不徒揮國史とありていひ○洛陽とありていひ○洛陽
曆寺成就供養とありていひ○洛陽とありていひ○洛陽
丙子十五年 正月天智行川野に備とありていひ○七月藤原
繩麿とありていひ年七十豊成の事あり○冬東寺とありて
羅生門の外とありていひ○秋の行表叔とありていひ○藤原
くらくの寺とありていひ○釋勤操とありていひ○法苑八講
とありていひ 丁丑十六年 四月紀古佐義年とありていひ○十一
月坂止田村齋行吏大將軍に任とありていひ○菅原真道
續日本紀四十巻とありていひ○撰とありていひ○撰とありていひ
つゝ物とありていひ○二月早良親とありていひ○靈とありていひ



清水寺

て大和の八咫のえきたるからなりし。○七月坂上田村
廣東美といふ新領をうけしに、清水寺と
えりし。○八月大御神王に大臣を任じ、己卯十八年
二月秋氣清廢率を年六十七。滋野船代かついは
とる。庚辰十九年二月十四日より四月十八日、
富士山のいさたゆみあつて、あつらふ燃く昏けり
らしく、て山をさし度、火のいろ夫とて、そのかど
雷のどし度とて、雨のどし、み下れ河水血つどし
○残小の時、未あまを、癸卯辛巳二十年、清公の清
とに舟橋より、○えりし、の高丸を、とて、そのかど
見、角にせりし、坂上田村廢とて、あつらふけし、情
淡、よく、とて、天とて、空を、とて、○十一
月、田村廢、既洛從二位と授、壬午北一年七月、奥州の賊
の大將、大墓は、盤具、公、誅、せり。



とて、ついで、作の、文、を、甲申北三年、秀康、葛野廢
石川道益、長原清公、朝野鹿取と遣唐使、五月空
海葛野廢、同船七月、最澄清公、同船、て、未法、乃
ふに、入唐、乙酉北四年、春、天皇、以、憫、あり、寺、と、あ
ま、の、み、に、て、早良親王、乃、然、矣、と、あ、り、し、ゆ。
六月、遣唐使、葛野廢、長原清公、あ、り、八、月、佛、歸、
船、を、石川道益、八、月、の、津、に、率、と、空、海、の、唐、の
と、ま、り、し、ゆ、と、て、八月、最澄、未、法、の、經、論
佛像、と、さ、り、○九月、勅、て、最澄、と、高雄、に、灌、頂、の
大、同、
丙、戌、
五、代、
平、城、天、皇、
諱、日本、根子、天、排、因、高、愛、の
大、同、
五、代、
平、城、天、皇、
ち、和、奈、長、帝、と、号、を、桓、武、帝、弟、一、の、子、に、あ、り、己、丑、年
漏、と、い、ふ、葛、野、長、健、の、い、し、の、あり、延、暦、四年、に、太子、と、あり
同、壬、午、の、位、に、は、り、す、と、壬、午、四年、ら、ぬ、と、御、お、り、作



昭の親王にゆつりま

臣 藤原内膳 在入反 坂と田村膳 在太将

即 人望の好より子百六十八名唐憲宗の元和を以て賞

勅 元禄三年庚午まて八百九十八年迄あり

二月十七日桓武帝崩御奉七十日山崎の公相承の

を令たり葬ふ。五月安教親王即位つとまの神武天皇

親王と太子にのり。六月外祖藤原良経子正一位大炊大臣

とかくる。八月八日空海三衣の法とつとく醍醐と橘造

勢筆道深とく同時醍醐と 丁亥二年

憲法十五ヶ条とま下ら。正月遣唐使の辭上りゆ

つこの香椎のまありび子帝王の法約にまげあり。八

月神皇のまあり唐物と伴解大社まきとく。勅示

成りまめたりて天皇のまあり伴旅親王いりんと止す

あまのまあり親王ありびまそれ母吉子毎とのんで死す

成と流飛とく冬桃李たて戊子二年 五月まき廣

貞とく医后大同類聚百卷とまらんとく。十一月大

賞とつとけり己丑四年 二月藤原内膳にまきとく

朝服とまらるとあり。四月天皇御猶ありたりて

くつめと神武親王にゆつりあり。親王即位平謀帝に

太上天皇のまありとまら平城帝の皇子高岳親王と

太子守。八月天皇と太上天皇に朝と後世朝親の御幸

とまらり。十一月大上天皇の唐所と太上天皇

つとく。平城とまら

仁 嵯峨天皇 諱神野親王とく桓武帝

廣 皇 第二乃皇子平謀帝の母

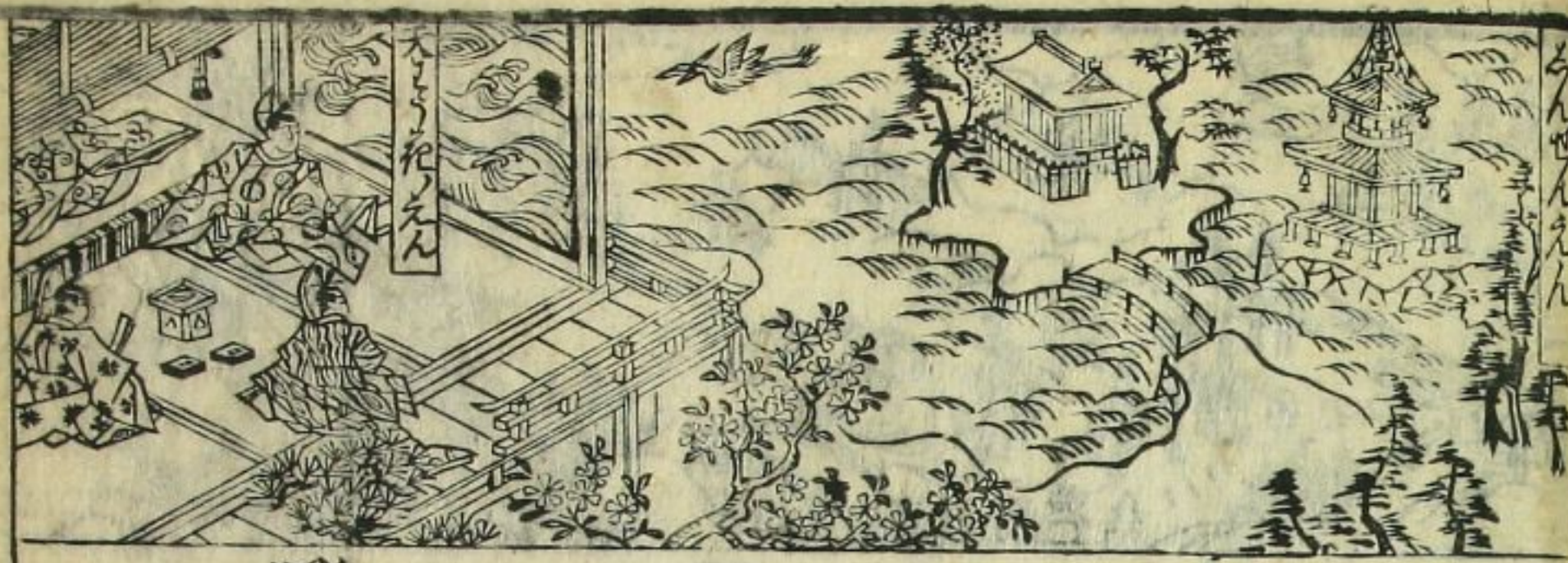
の東あり大同元年に太子にまら四年に即位ありま

十四年位とまら大伴親王まらあり

臣 藤原内膳 在入反 藤原内膳 在入反 日 國 書 院

臣 藤原内膳 在入反 藤原内膳 在入反 日 國 書 院

へいぜい天よりくまりと三月車
くまふまふちりしり



金十言巻三

廿六

即人皇元孫も子皇百七十二は感念の元孫皇孫は田
弱元祿三年庚午の歳八百七十五年はなり
三月七日のてき人所とあり四月渤海島の使者高南
突きつめてつと物とくぐ九月藤原仲成がいと
上侍兼子とつ女大上天皇の寵也とて大寺良はと
ろぐ大上天皇京都と奈良へつてさへつてははは
あをさすのともありと大上天皇の御成り當今
ゆぐらとまの清はる風とてあり大上天皇兼子と
に東山よかりしとあり田村暦みらとてくろり藤原仲成
とて大上天皇の御成りありと奈良の御成りありと
その儀とあり兼子の毒とのとて大上天皇高岳親も
情もろり大伴親と大上天皇の御成りありと
有智内親と賀茂の親院とて大上天皇の御成りありと
辛卯二年五月廿三日坂上田村麿藤原の御成りありと奈良の御成りありと

おのろり勅をのて甲冑御成りありと大上天皇の御成りありと
いせと城のありありと大上天皇の御成りありと
一月奥列の賊も大上天皇の御成りありと大上天皇の御成りありと
壬辰三年二月天皇神泉苑とて大上天皇の御成りありと大上天皇の御成りありと
後侍とてありと大上天皇の御成りありと大上天皇の御成りありと
日藤原内麻呂とて大上天皇の御成りありと大上天皇の御成りありと
冬副大將藤原良房とて大上天皇の御成りありと大上天皇の御成りありと
四月天皇大子の御成りありと大上天皇の御成りありと大上天皇の御成りありと
り大上天皇の御成りありと大上天皇の御成りありと大上天皇の御成りありと
に任り○小倉石雄とて大上天皇の御成りありと大上天皇の御成りありと
嗣南都真福寺の南無とて大上天皇の御成りありと大上天皇の御成りありと
甲午五年五月源の姓と皇子の女とて大上天皇の御成りありと大上天皇の御成りありと
親とありと大上天皇の御成りありと大上天皇の御成りありと大上天皇の御成りありと
の稱四百とて大上天皇の御成りありと大上天皇の御成りありと大上天皇の御成りありと

金十言巻三

廿六



けごと最澄さま
乙未六年
五月 藤原氏の
ついでに孝廉来朝と妻と四妻にのみ孝廉待と蘇
壽と後して四月天竺ありて志賀入るまゝに六月
橘嘉禎子と皇后のうちに檀林皇后より○圓珍儒
都とあまのゆゑに申す 二月天皇とが
別録より○六月空海に別高野山といはる
丁酉八年 天下大まひでり○十月六月房東冬嗣去也
唐のうちに興福寺に下りて法花會と修す
戊戌九年 飛澤のふ工とありて大内裏とにさる
の須の宸筆あり東面橘邊勢南南ありびは快天
門の空海の筆約あり○十二月房東國入葬と六十三
己亥十年 二月四月のさるるとのくくと會との
にさるらるるに○二月僧の宿徳とといひの交ひて
是を雨と伴勢丹生れあ社といはる秋よりあはる又唯と
あ社といはる庚子十一年 二月空海をうぐに位を新
羅の人七百余人ひりんせいさくくんの宿軍とまを
らるらるる○四月藤原冬嗣弘仁格とるる○九月
最澄えいんの相輪とて辛丑十二年 六月最澄を
して敷山の戒壇とす○十一月大長壽寺と副勃
字法と洛陽二条の空生の西寺とて藤氏の年と
うたとのさるるあはるる子同也い 壬寅十二年
六月四月最澄寂して年五十六最澄の傳教大師のす
癸卯十四年 五月東寺と空海より西寺と守敏が
○二月天皇加茂の齋院とす○三月あらかんの山
まじけり加茂の山とあはる○四月天皇位を御かく大伴
まじけりゆづりて冷院院よりつりまの○大伴親王
即位とて帝の皇子乙良親王と太子とて帝に太子
天皇の号とたり平城帝と前大上天皇とす○九



年代記卷三
七一

らんぜんえんまてあまごひ



白ひん

月さかの天皇さかえ雜文よりゆりあ

天皇 聖代 淳和天皇

諱ハ日本子高讓孫遠の

のちに西院く号く桓武帝弟二の皇子あり母の皇太子
后養子より藤原百川のいむのありに仁元年に太子
にさうの十四年にゆづりさうけく位よりさあまを立位
十年位と所姓は長親にゆづりあ

臣 藤原之嗣 左大臣 藤原緒嗣 右大臣

崩 仁元年の辰より子四日十六日庚辰末吉慶四年に當

二月大よひのり空海雨と神泉亮よのふす敏法力

とあつさあ○七月五日平徳大上天皇崩御壽五十一

同月八月五日平徳大上天皇崩御壽五十一
長延曆寺のをさくあつ天皇を立位にゆづりあ

淳和じまご二年 十一月さかの大上天皇四十

賀さくまのふの高雄の神護寺とあつさあて行燈

園祚寺とあつさあ○丹波の浦津子稚皇弟のふ

わらうのふふ入より三百余年とあつさあてふふ

ふ○業平じまご 兩竹三年 二月桓武帝

のふに徳成とあつさあ辰筆の法苑後と西寺に并付

さる○七月廿四日藤原冬嗣薨とあつさあ五十二の正一位と

かろふ兩院大長とあつさあ○十一月東寺の塔とあつ

下未四年 藤原元子通康のふとさうふふとあつさあ

徳帝とあつさあ○五月滋野貞直のふとさうふふとあつさあ

詩文とあつさあ○い経集とあつさあ北宮あり○十一月

復命情とあつさあ○巳酉六年 戊申五年 九月小野篁

大内記とあつさあ○そのあつさあ○清和とあつさあ

らんぜんえんまてあまごひ



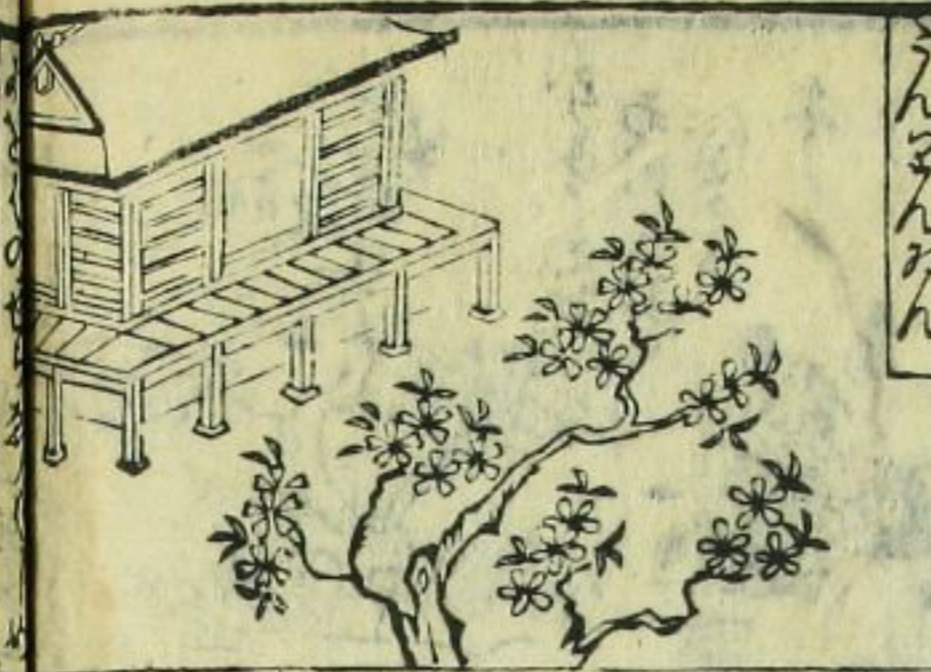
あひてこと
にさうい
年とあ

淳和天皇

淳和天皇

七二

吉...の...の車とつら



仁明天皇

いせ遷定○五月良家安世清公の民よ水車とつら

しめて耕作の... 庚戌七年 七月良家安世

薨年四十六桓武帝の... 辛亥八年 病氣澤子

びの長行川小野に... 壬子九年 四月天皇じ

の... 癸丑十年 二月清和夏

と... 十一月大嘗會と... 十一月天皇じ

○十一月大嘗會と... 十一月天皇じ

美和 壬戌

仁明天皇

諱日本根子天璽聰慧の

らに深草帝... 淳和帝即位の

嘉智子... 淳和帝即位の

大臣 藤原緒嗣 大后 清和夏野 大后

崩 元禄二年庚午... 大和八年は當

子... 八月久

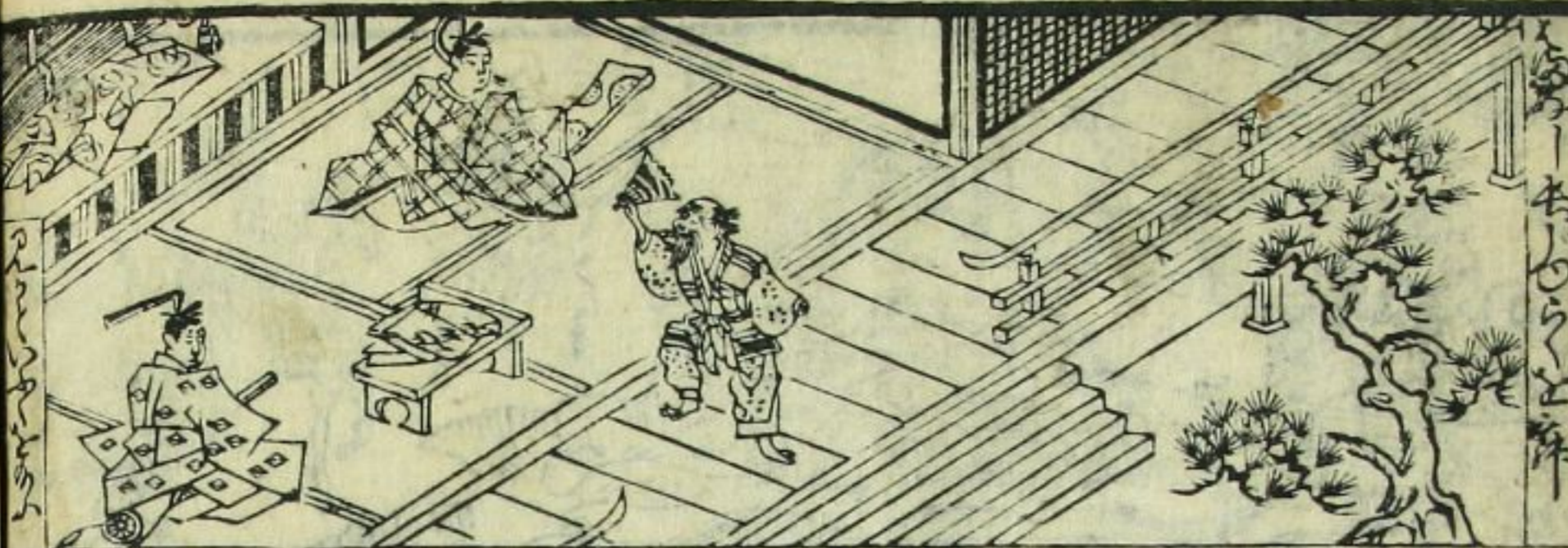
乙卯二年... 七月

三十七



九月九日菊の元
 新清公とては漢書と申す。○九月九日宋宸敷子
 て菊の宴とて申す。○丙辰三年七月遣唐使
 はくしは難はあらず。○實東寺の去者
 あり。○丁巳四年三月遣唐使出船と釋
 教仁と月船と名に長是大師のついで。○九月清原
 夏野荒とて年五十六。○天皇高祖の松尾にゆめ
 戊午五年六月直道廣之清原教とて是書法要とて
 じ。○八月大寺景とて孔子とて。○十二月遣唐使小
 野皇病と稱して路次より子常嗣の松尾にかり
 されとて大使とて皇と副使とをまゝとて申す。○皇
 不快より人ふゆあり。○嵯峨太上天皇げとて申す。○
 とも惜學の人ふゆあり。○嵯峨とて。○隱岐の公
 へあつとて。○年とてゆめされて。○五月九月米雪とて
 巳未六年八月遣唐使常嗣船朝。○庚申七年

二月ぬら所を五季七道に勅してこれとて
 へし。○三月十七日淳和太上天皇崩。○年五十二と
 へ。○七月右大臣三守豊とて。○八月源常と右大臣と
 業平とて。○壬戌九年春渤海の使者とて。○
 七月嵯峨太上天皇崩。○年五十七とて。○伴健岑
 攝送弊じつとて。○淳和帝の皇子天皇のいとこ
 恒貞親とて。○子とて。○人ふとて。○申す。○
 遣唐使とて。○申す。○恒貞親とて。○申す。○
 ○皇子道康親とて。○天子とて。○阿保親とて。○申す。○
 癸亥十年七月右大臣藤原常嗣とて。○年七十。○九
 月新羅のちり鼓のまわしとて。○申す。○
 十二月文を宮田齋じつとて。○申す。○



甲子十一年

甲子十一年 正月 天皇母后入内庭。○七月 源常光
大及 攝氏公と大后守乙丑十二年 正月 源常光

濱直よひ百十三人との中御あはれく長壽樂と奉

御衣よひ二月 菅原是長文章博士任じ菅原

相乃又ありこく 菅原相いさゝか ○釋滿末天田寺

と遷之て 丙寅十二年 丁卯十四年 二月 藤原良敏

と雅樂頭と守入廉と樂とよひ ○紀衣虎卒也

五月 春澤を繩沖あはれく在子漢書とよひ ○十月 房

仁唐より辰朝 ○八月 攝太良麻呂大政大后公一位を

からせし ○八月 賀茂斎院有智子内親の薨也年

四十一 ○惟高親王ひまろ ○十二月 攝氏公豊元と十五

戊辰 嘉祥元年 正月 藤原良房大后守任じ ○六月 忠良

より白く急とさく ○横川の申堂より ○真雅信

一乃 長者任じ ○長平永實の薨也いさゝか巳二年

四月 渤海の使者王文矩とくる ○十月 天皇四十九賀と

かこむり ○十二月 天皇洛中どかりあひて未幾とま

だしたとのまふ ○囚獄なりとあがりて飛人とゆり

しとま 庚午三年 その教乃后惟仁親と

元あてと清和帝とりの ○二月 廿一日 仁明帝崩也

壽四十一と深草山の名とたかりゆり良岑と良貞

報復のあはれせしと衣と遍服とありいし ○四月

道康親王即位 ○五月 天皇のさした攝嘉智子

崩也壽六十五檀林寺と遷之てゆゆ檀林皇后云

○十一月 惟仁親王と天皇 ○正月 流星あり大と月のじ

の皇子あり母はつと五條原と号を藤原冬麻呂

平和記卷三

文德天皇

諱道康親王とりの

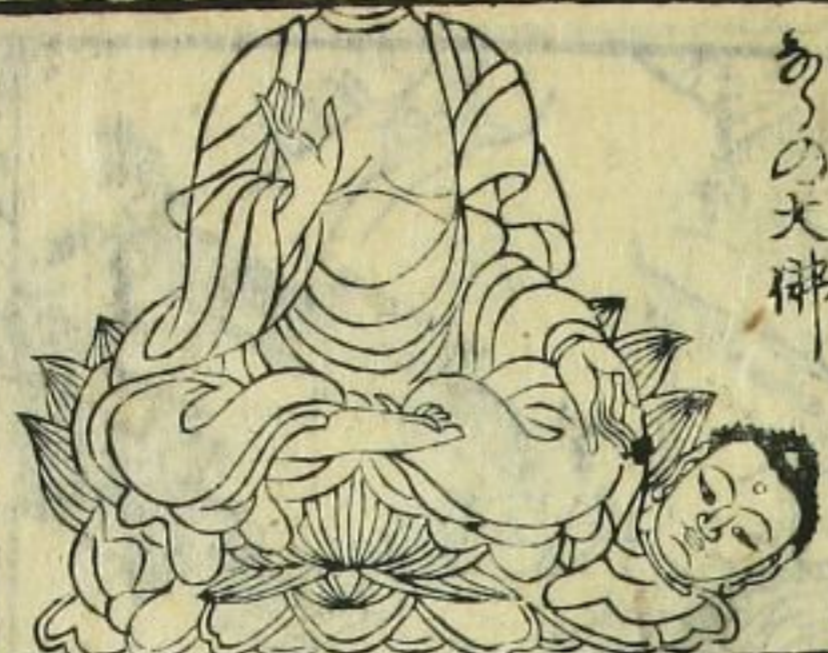
六月二十九日



雨の天候



あつた天佛



白のつととんせんとんせんとん



このまゝに在位九年くつた惟仁親王にゆづりあ

臣 藤原良房 太政大臣 源信 太大臣 藤原良相 太大臣

即 人皇の姙らち子五百十三年 唐宣宗の太中五年に當

崩 元禄二年庚午まて八百五十二年にま

二月天皇良房の親もえゆたて栲花の沖遊の三月

春澄を備も文選と薄せよひの十月天ありや雷

とし地震して山くづき人多く死をの十一月大嘗

會と行ふの大系の文ありひよあふししちり

平二年 五月清和も甘露ありの六月やまこの必

家ありあつるの十二月北二月参謀小野皇卒まて

五十一 癸酉二年 六月冒葛系親と豊茂を相

武帝のひひ平家乃先祖ありの八月九日圓珍僧

都入唐そのらん智澄大師とひへへ百濟の成

て人多く死甲戌齊衡年六月左大臣源常葉を年

四十二の七月備前の必もし教念の僧まて神泉亮

にたひひそのいひありあつる皇と進放をひの九月躬

恒ひまら 乙亥二年 二月長星ひへありつる

五月吾地地震して東大寺の大佛の頭地まての八月

兵庫寮の傳まてつるの九月藤原良相と僧と如

とに勅して聖武の御子ゆせ天下と勅進して大佛の頭

と修理せしひの天下太子ひてりて雨と神泉亮よひの

丙子二年 三月地へん七月神御言長良葉を年五

十八の十月河木屋まて殺るの十一月の必も白

と麻とてしひの神泉亮まての十二月ひまの

必新禪前の神降降 乙丑天智年 二月右大臣良

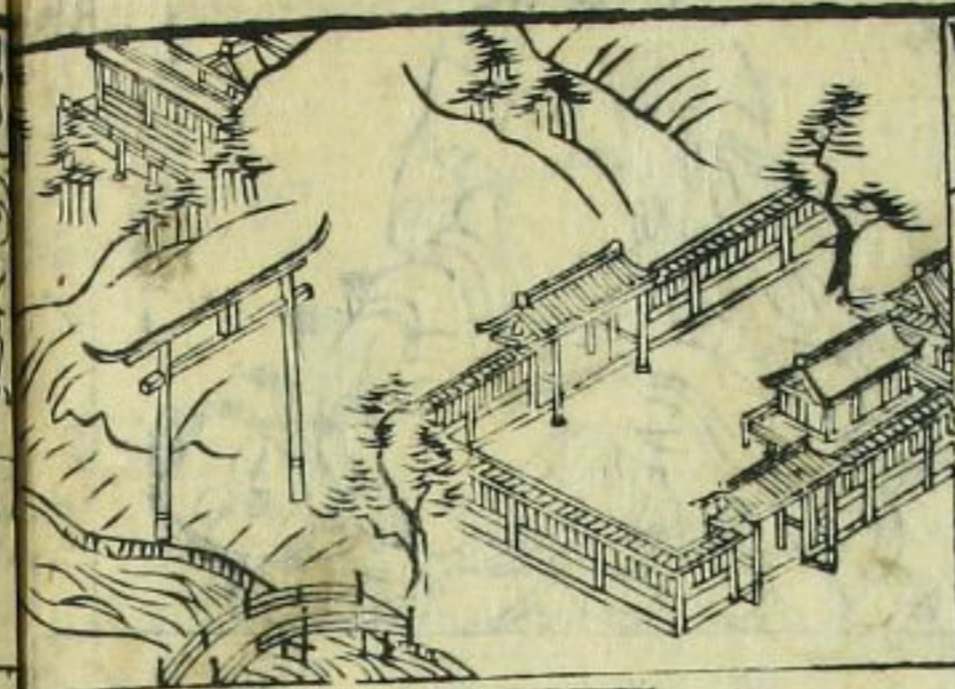
房と太政大臣とすの三月良房に殺まての四月あり

とゆつるの二月三日惟喬惟仁くつたあつるまて

とてしるす
一とてしるす



男山八んざう



いひつゝつらく虚脱あり○四月とてしつた記大石相模三ヶ
わろ実よりあふの空や○六月は一箇の空の嵐ありて
可まぬ空年ころらる○十一月空は子大僧とてあつて
○十二月惟喬親王を根元とてつけし 戊寅二年

二月京都を人かへて坂上當道とれとていづく○六月
とて雲いづる良しり坤すわらる○八月廿七日文徳帝
ま青光二ふ那田村のへとてたてり○十一月七日

惟仁親王即位とて九月に御幼稚ありて外
祖藤原良房授政あり○圓融廢り改朝
諱ハ惟仁とりのらん水尾の
帝と号して文徳帝才受の空

○二年に一とて太子とて天皇二年に九とてよそ
位とてしるす十八年位とて天皇二年に九とてよそ

貞觀 聖代 清和天皇

○臣 藤原良房 大政大臣 源融 大后 藤原基經 大后
即 入道の姫とて五百廿一年庚寅の天中十二とて南
崩 元祿二年庚午とて八百四十五年とてある

二月三輪ありて清社の位階とてつけし○八月廿二日
釋行教と神流ありてつくしれとて八幡と山塚
の必男山石清水鶴嶺とて○十一月十日會とて

とてらる○ 庚辰二年 二月天皇讀書とての春日
惟継孝徳とてなり○二月柿本紀傳とて真淵殺とて○六
月釋行教八幡夜神とて○国十月小とて太子あり

とてらる○ 卯辰の冬とて賀せんがふし 辛巳三年
三月東大寺大佛の修理あり○五月が
の相撲とてらん○八月天皇論清周易とてらん○九月

ありのらる母侍とて親とて○宣明曆とてらひて

○宣明曆とてらひて



のびへりしとていん

曆よりして 五十四年 二月孔子まげりた徳と心
 ○二月末業半位五位と叙して○五月菅原相文章生
 に補せり○真如親王入唐して雜賦必まぐゆきて路
 次小く叙せ 癸未五年 五月五日天さひかして宮つ
 ○月北日神泉苑ふして神靈會○十月菅原續日本紀
 とよふ心 相雁心和尚靈動寺と云 甲申六年
 乙卯元月天と御元服より甲午年十五○乙卯十四日圓に叙
 して○二月天皇良房の籍へとめり農民とありて田を耕
 ていし神後よとまらふ民の艱苦と云ありしとやうに
 のすまづべし○八月十六日釋教雅法下任に任じ 輦車
 とめり○五月富士山をへて十日わたり火をぞ山との
 燃えくつまき海をけいしう北軍をころこをいづり法向
 の方がりまきりめらぬ甲斐の公は方へをけるあ○
 三月正一位と平野の神社と云いづり 乙酉七年



山

四月橘元敏と石清水八幡宮奉納せり○釋教靈演
 権僧の任じ○八月末百不豆百不豆は一箇の氏よま
 て銀元と云い 丙戌八年 閏三月十日ハ
 夜とていし 應天門をけり八月三日大宅權をさうり
 て應天門の伴若男が放火ありし所へけりゆり
 ろくまされありしとて若男と伴若のふまきす○七
 月そのとつ辰病わりえい山の相殿いりてさうりさ
 りて最澄と信教大師赤仁と意定大師と澄とま
 相殿の意定のまきあり○十一月廿日松尾の社より一位と
 さつく○菅原相顯揚大戒論序と云 丁亥九年
 五月五日班子定背親と云いふれさう多帝と云い○
 十月在大臣良相薨と○十一月兩月の人を冠わりた
 衣子 珥を戊子十年 二条后貞明親と云いふれ
 こまと陽成院と云い○圓珍傳都延曆寺の座と云い



○十二月大尾深信基を己丑十一年 常康親基
 ぞ雲林院と号す○祇園のやうと山とありしはやくに
 の約すつて○四月秀宗氏大尾信人信友是若等
 貞親格と号す○五月興邦大らん死するもの子余令
 六月新羅の海賊とくくして豊前の貞形とすよの
 ころ大宰府より兵とててそんとて賊とすにたり
 寛貞十二年 正月あつたの氏宗大尾と源融大尾と
 に任す 辛卯十三年 二月天皇とんてんす出
 ことんてそと改とす○四月藤原の良房と権実
 に御食禄とす 隨兵杖とす○八月あつたは氏宗
 貞親式とす○九月文徳帝の母五条のさきた順子
 崩す○十二月あつたは揚成規がよか加賀の
 公ははく○時平ひさし 壬辰十四年 正月史内記
 系道真とて御海軍の使者とありしは道真と

とまはして
 長つとてゆふ
 ねりふとて
 もつとてけ
 まつとてけ



丞相のよこ○二月大尾氏宗基を○二月良房の疾あり
 法五十萬とす○祈禱の料とす○僧正基法務に侍
 ○五月あつたは使者とて去来由察にりてそを去来業年
 良香あつたは○七月四月惟喬親且出家○八月源融大
 大尾とす若原基經大尾とす○九月二月大尾大尾一
 位秀宗良房の基を七年六十九位とすり若原基に封
 一忠仁とす 癸巳十五年 二月惟喬之
 基を山とすれは首領のとなり河内村に法をせしめて
 小聖御靈とわがし 甲午十六年 二月あつたは
 道場とてて貞親寺とす○大齋會とすけらる
 ○四月淳和院とすり○史内裏にうつる基經下知して
 こととけし○貞親親とすり○葛井寺とありしころそ
 法輪寺とす○僧尼わくふたとすり○とんてんを
 壬十七年 正月泉院焼亡文書財寶とくくす



院和淳



院泉冷



み尾の寺

水尾の寺

かろく大東雄廣忠とよせきてやは死せし四月天皇五経
 史記群書注要とよまふ○藤原基経四十の賀とせよ
 月トく子仲平じまろ○六月四日雪ふる 丙申十八年
 四月十日大極殿その外敷門かく焼亡せし○七月大極殿
 とせよ○十一月天皇うらぬと第一の皇子貞明親王
 にゆつりま右大臣基経とて治政せし○十二月
 清和帝に太上天皇の号をまののちに水尾山
 入るゆへ水尾の号とせしあり

天慶

壬午

陽成天皇

陽成天皇

と藤原基経のいふとあり貞観十一年に太子に
 月十八年にゆはりさけし位は降せし五位八年
 くらぬと時康親に托つりま
 臣藤原基経 抄政因自源融 左大臣源多 右大臣

即

元禄二年庚午

四月二十日天皇即位十八の基経治政あり○四月九日
 紀常率と○二月がのい入使とせしづとのあ
 りま○六月大よいづりて雨と伊勢八幡賀成
 中よいあ○十一月大嘗會とせし○備前通照
 大ねの元慶寺とせし 戊戌二年 二月長瀬愛
 成しては本紀とせし○二月てまのあ乃夷城か
 して秋田の珠とせし五月六月夜軍とつらる○四月廿
 興福寺焼亡○九月国東大地しん 巳亥三年
 四月出羽の夷賊とせし○五月八月清和太上帝飾
 とせし○遍照備前任し○都良香平とせし○推
 備前遊去○良岑長松平とせし○十月大極殿とせし
 庚子四年 三月清和太上帝夢内の名山佛院に死

光孝天皇の御代



人よ木よのかせて
下りりて



大
とら
たけ
うし
い



光孝天皇の御代

光孝天皇の御代

一 壬午波の水尾の部に入らん 〇五月八日在承業平
壬午年五月十六日 〇十一月八日 藤原基經被殺と辞して 周白
に任ぜり 〇十二月 清和天皇崩御 壽光一と粟田山
より 〇賀茂の齋院 〇賀茂の齋院 〇賀茂の齋院
〇賀茂の齋院 〇賀茂の齋院

辛丑五年 壬寅六年
〇二月 基經と唯三交り任ぜり 〇賀茂の齋院
〇賀茂の齋院 〇賀茂の齋院

〇二月 基經と唯三交り任ぜり 〇賀茂の齋院
〇賀茂の齋院 〇賀茂の齋院

〇賀茂の齋院 〇賀茂の齋院 〇賀茂の齋院
〇賀茂の齋院 〇賀茂の齋院 〇賀茂の齋院

甲辰八年 二月 天智天皇と二条陽成院より幸あり
〇賀茂の齋院 〇賀茂の齋院 〇賀茂の齋院

〇賀茂の齋院 〇賀茂の齋院 〇賀茂の齋院
〇賀茂の齋院 〇賀茂の齋院 〇賀茂の齋院
〇賀茂の齋院 〇賀茂の齋院 〇賀茂の齋院

仁和 天代 光孝天皇

〇賀茂の齋院 〇賀茂の齋院 〇賀茂の齋院
〇賀茂の齋院 〇賀茂の齋院 〇賀茂の齋院

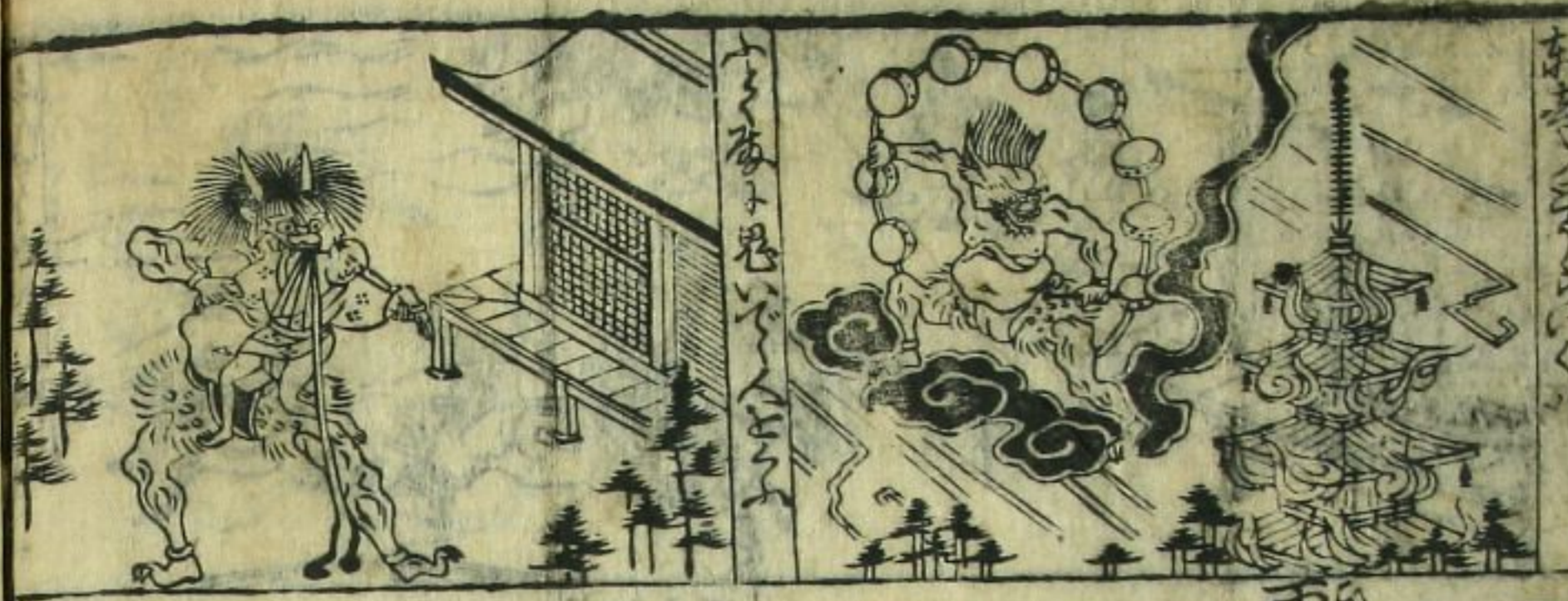
〇賀茂の齋院 〇賀茂の齋院 〇賀茂の齋院
〇賀茂の齋院 〇賀茂の齋院 〇賀茂の齋院

〇賀茂の齋院 〇賀茂の齋院 〇賀茂の齋院
〇賀茂の齋院 〇賀茂の齋院 〇賀茂の齋院

光孝天皇の御代

廿一

東寺のつらいつい



○八月天智天皇御宇に於て難波御所にて
 うるす醜醜帝と云ふ○十一月僧正遍昭は七十の賀と云ふ
 丙午二年 正月基経の嫡男時平と云ふに云ふ元服也
 天皇の御宇に於て冠と云ふ○三月十三日東寺に塔雷火
 ○八月孔子の御宇に於て○十二月青ざりの御宇に於て丁未三年
 五月大原建武陽本太と帝に成りて遊獵の地とす○七月海
 地ん海のものさす民屋をなぞ○八月内裏の武徳殿のい
 がし松りの夜と云ふ鬼いづくところと云ふ○月廿六日光孝天皇
 皇崩し多壽五十八といふ○十一月十七日定省親王位子
 つとみよ△と云ふりて元平兼盛源淳和帝の詩文と云ふ
 ありと云ふところあり人その比の文才の長なりと云ふ
 とも和歌と云ふところあり人教人なり

三と云ふ終

